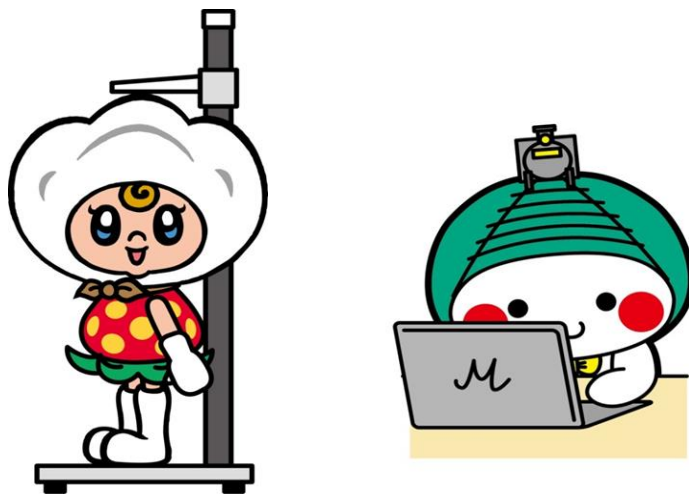


# 真岡市国民健康保険 データヘルス計画



平成29年2月  
真岡市

-目次-

<b>I. 事業目的と背景</b>		
1. 事業目的と背景		1
2. データヘルス計画の位置付け・計画期間		1
3. 基本方針		2
4. 保険者の特性把握		3
(1) 基本情報		3
(2) 医療費等の状況		4
(3) 特定健康診査受診状況及び特定保健指導実施状況		5
(4) 平成27年度特定健康診査による検査値及び問診結果(県・国との比較)		7
(5) 介護保険の状況		14
(6) 死因の状況		16
5. 過去の取り組みの考察		17
(1) 特定健康診査・特定保健指導の導入		17
(2) 保健事業実施状況		17
(3) 保健事業の課題		21
<b>II. 現状分析と課題</b>		
1. 医療費状況の把握		22
(1) 基礎統計		22
(2) 高額レセプトの件数及び要因		23
(3) 疾病別医療費		27
(4) 医療機関受診状況の把握		38
(5) 人工透析患者の実態		39
(6) 糖尿病性腎症重症化予防対象者分析		41
(7) 脳卒中・心筋梗塞の疾病別医療費及び患者数		44
(8) COPD患者の実態		45
(9) ジェネリック医薬品の普及状況		49
(10) 特定保健指導事業		52
2. 分析結果と課題及び対策の設定		56
(1) 分析結果		56
(2) 課題及び対策の設定		60

-目次-

<b>Ⅲ. 実施事業</b>		
1. 実施事業の目的と概要及び内容		62
(1) 長期的事業		62
(2) 中期的事業		64
(3) 短期的事業		64
2. 全体スケジュール		66
3. データヘルス計画の見直し		68
(1) 評価		68
(2) 評価時期		68
(3) 見直し検討時の構成メンバー		68
<b>Ⅳ. その他</b>		
1. データヘルス計画の公表・周知		69
2. 事業運営上の留意事項		69
(1) 各種検(健)診等の連携		69
(2) 健康づくり事業との連携		69
3. 個人情報の保護		69
<b>Ⅴ. 資料編</b>		
1. 医療費状況の把握		70
(1) 大分類による疾病別医療費		70
(2) 中分類による疾病別医療費の地区比較		83
2. 用語集		91

# I. 事業目的と背景

## 1. 事業目的と背景

「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)においては、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」としている。データヘルス計画には健康・医療情報(健康診査の結果や診療報酬明細書等から得られる情報、以下「診療報酬明細書等情報」という)を活用し、健康状態や健康課題を客観的な指標を用いて示すこととある。

また、これら分析結果を踏まえ、直ちに取り組むべき健康課題、中長期的に取り組むべき健康課題を明確にし、目標値の設定を含めた事業内容の企画を行うこととしている。実施計画に基づく事業の実施に当たっては、費用対効果を考慮することや、診療報酬明細書等情報を活用し、生活習慣の改善により予防効果が大きく期待できる者を明確にし、優先順位をつけて行うこととある。それぞれの事業については、少なくとも毎年度効果の測定及び評価を行ったうえで、必要に応じて事業内容等の見直しを行うこととしている。

真岡市国民健康保険においては、上記の要件に沿ってデータヘルス計画を作成し、被保険者の健康維持増進をはかる。

## 2. データヘルス計画の位置付け・計画期間

「データヘルス計画」は、「健康日本21(第二次)」に示された基本方針を踏まえるとともに、真岡市の関連計画で定めた評価指標を用いるなど、それぞれの計画との整合性を図る。

計画期間は、平成28年度から平成31年度の4年間とする。

だれもが“ほっと”できるまち 真岡  
～人・自然・産業が調和する安らぎと潤いの交流都市～

### 【関連計画】

第11次市勢発展長期計画

真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略

真岡市地域福祉計画・地域福祉活動計画(第2期)

真岡市健康21プラン(2期計画)

第二期真岡市国民健康保険特定健康診査等実施計画

真岡市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画【第6期】

真岡市障害者計画(第2期計画)

真岡市障害福祉計画(第4期計画)

真岡市国民健康保険  
データヘルス計画

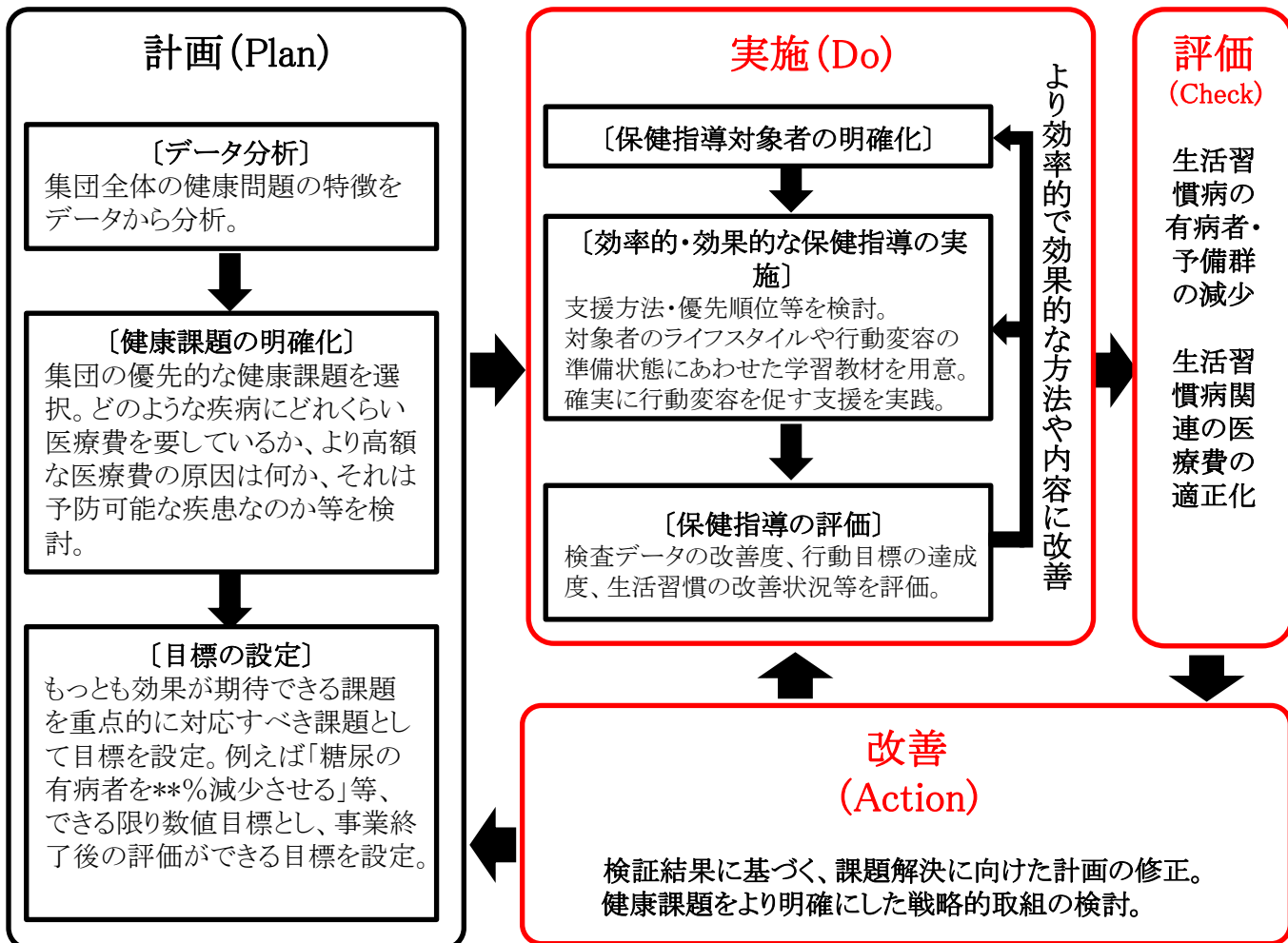
### 3. 基本方針

データヘルス計画では、短期的に取り組むべき対策と、中長期的に取り組むべき対策について、それぞれの段階にあった事業を行うことを計画する。

目標とする成果を達成するために、以下の基本方針でデータヘルス計画を策定する。

1. 潜在する課題を確認するため、疾病ごとの医療費比較、高額レセプトの発生状況や発生元となる疾病の把握を行い課題を明確にする。
2. 明確となった課題より、「短期的な対策」・「中長期的な対策」を選択する。費用対効果の見込める集団を特定し、PDCAサイクルを意識した継続的な事業を実施する。
3. データヘルス計画には、① 実施事業に対する明確な目標を設定し記載する。また、この目標を達成することのできる ② 効果的な実施方法を検討し明示する。目標に対する客観的な効果測定が必要であることから、③ 事業実施後の効果測定方法についても記載することとする。

#### 【保健事業のPDCAサイクル】



## 4. 保険者の特性把握

### (1) 基本情報

本市の平成27年10月1日現在の人口は、79,539人である。高齢化率(65歳以上)は23.9%で栃木県25.9%及び国26.6%と比較すると低い。

国民健康保険被保険者数は、23,729人で、市の人口に占める国民健康保険加入率は29.8%である。国民健康保険被保険者平均年齢は49.7歳である。

60歳代の被保険者数構成割合が県・国と比べて高い。

#### 人口構成概要(H27年度)

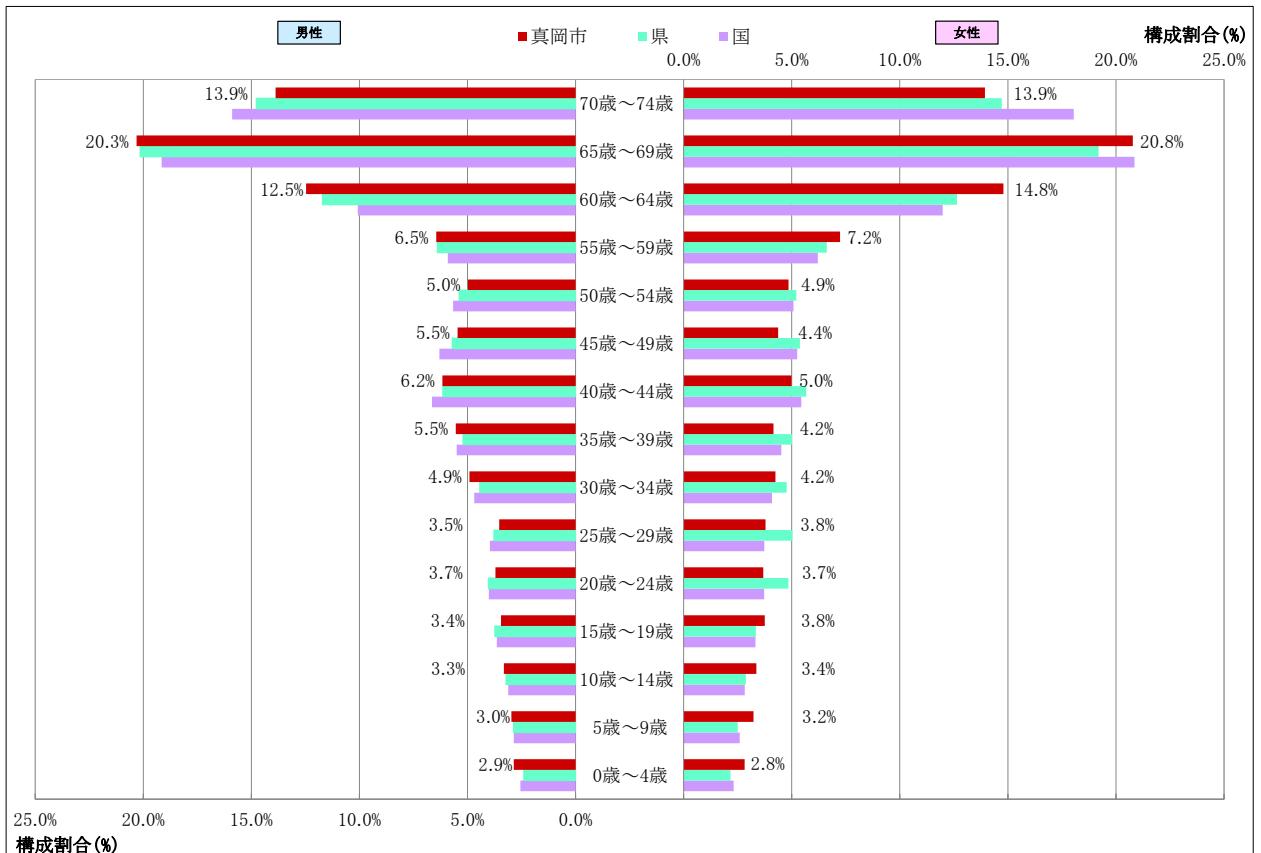
	人口総数(人)	高齢化率 (65歳以上)	国保被保険者数 (人)	国保加入率	国保被保険者 平均年齢(歳)	出生率	死亡率
<b>真岡市</b>	<b>79,539</b>	<b>23.9%</b>	<b>23,729</b>	<b>29.8%</b>	<b>49.7</b>	<b>8.2‰</b>	<b>11.2‰</b>
県	1,974,255	25.9%	609,952	31.2%	49.7	7.9‰	10.5‰
国	127,094,745	26.6%	33,767,446	28.2%	50.4	8.0‰	10.3‰

※「県」は栃木県を指す。以下すべての表において同様である。

出典：「平成27年度国勢調査結果」(総務省統計局)、

国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

#### 男女別・年齢階層別被保険者数構成割合ピラミッド(H27年度)



出典：国保データベース(KDB)システム「人口及び被保険者の状況」

## (2) 医療費等の状況

本市の医療基礎情報を以下に示す。

### 医療基礎情報(H27年度)

医療項目	真岡市	県	国
千人当たり			
病院数	0.1	0.2	0.2
診療所数	2.6	2.3	2.8
病床数	30.0	35.6	44.8
医師数	5.7	7.0	8.4
外来患者数	682.4	651.4	667.5
入院患者数	15.6	15.6	18.2
受診率	697.9	667.1	685.7
一件当たり医療費(円)	31,710	33,010	35,660
一般(円)	31,980	32,930	35,580
退職(円)	27,100	34,740	37,800
外来			
外来費用の割合	65.0%	63.5%	60.8%
外来受診率	682.4	651.4	667.5
一件当たり医療費(円)	21,090	21,460	22,280
一人当たり医療費(円)	14,390	13,980	14,870
一日当たり医療費(円)	14,550	13,870	14,000
一件当たり受診回数	1.4	1.5	1.6
入院			
入院費用の割合	35.0%	36.5%	39.2%
入院率	15.6	15.6	18.2
一件当たり医療費(円)	497,260	514,110	527,160
一人当たり医療費(円)	7,740	8,040	9,580
一日当たり医療費(円)	31,310	32,650	33,570
一件当たり在院日数	15.9	15.7	15.7
歯科			
外来受診率	129.5	124.2	143.2
一件当たり医療費(円)	12,410	12,190	13,020
一人当たり医療費(円)	1,610	1,510	1,860
一日当たり医療費(円)	6,150	6,250	6,730
一件当たり受診回数	2.0	2.0	1.9

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

### (3) 特定健康診査受診状況及び特定保健指導実施状況

#### ① 特定健康診査

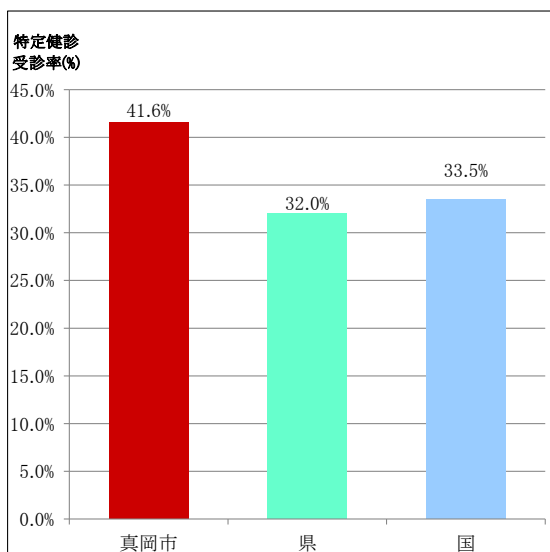
本市の平成27年度における、40～74歳の特定健康診査の受診率を以下に示す。

特定健康診査受診状況(H27年度)

	特定健診受診率	動機付け支援対象者数割合	積極的支援対象者数割合	支援対象者数割合	特定保健指導実施率
<b>真岡市</b>	<b>41.6%</b>	<b>8.7%</b>	<b>3.8%</b>	<b>12.6%</b>	<b>45.3%</b>
県	32.0%	8.6%	3.1%	11.7%	26.2%
国	33.5%	8.6%	3.3%	11.9%	20.2%

※動機付け支援対象者数割合・積極的支援対象者数割合・支援対象者数割合…特定健康診査を受診した人に対する割合。  
 出典：真岡市は法定報告、県・国は国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

特定健康診査受診率(H27年度)

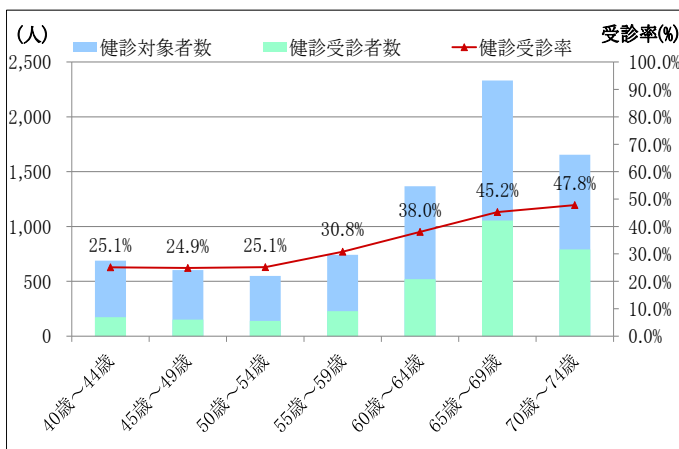


出典：国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

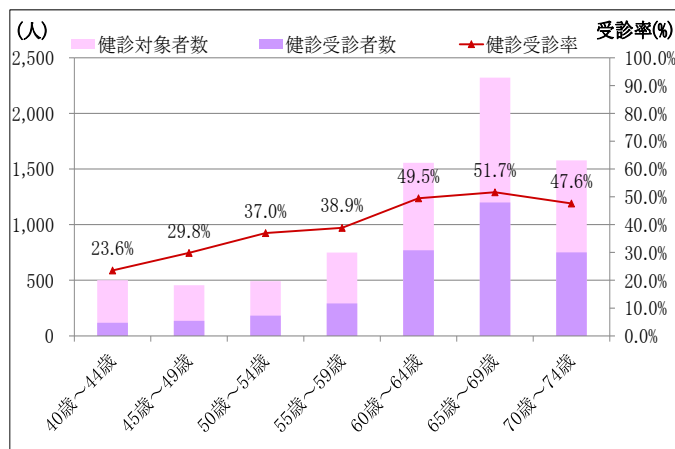
男女別・年齢階層別特定健康診査受診率をみると、男女ともに40, 50代の受診率が低い。

年齢別特定健康診査受診率(H27年度)

男性



女性



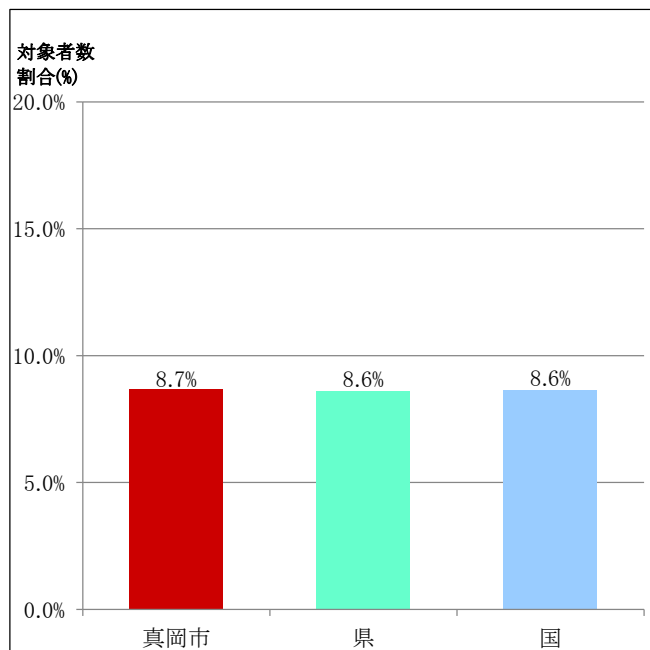
出典：国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」



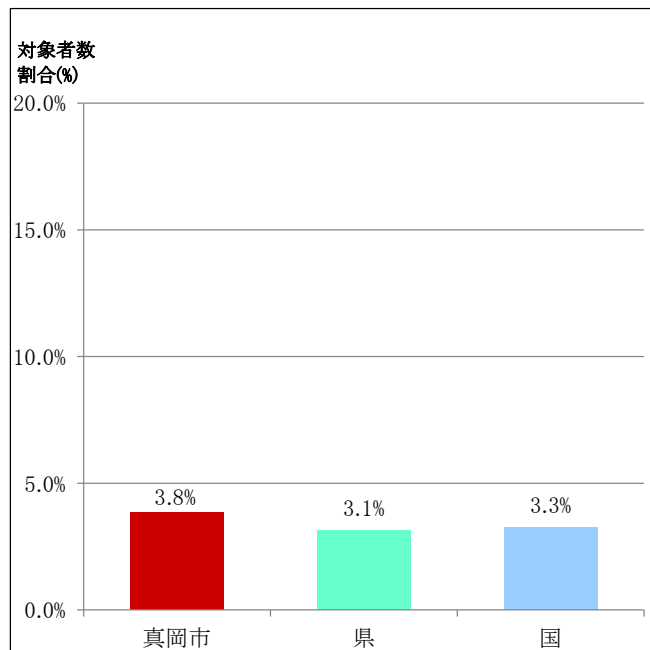
## ②特定保健指導

本市の平成27年度における、特定保健指導の対象者割合及び実施率を以下に示す。

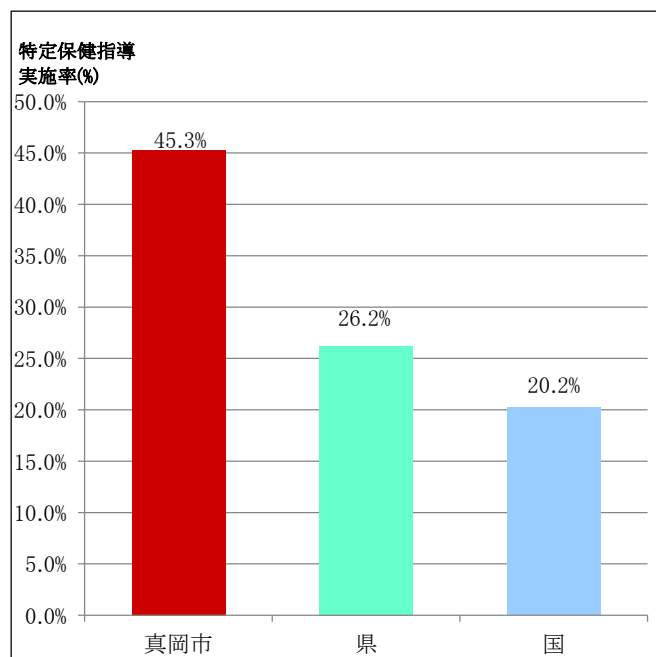
健診受診者に対する動機付け支援対象者数割合



健診受診者に対する積極的支援対象者数割合



健診受診者に対する特定保健指導実施率



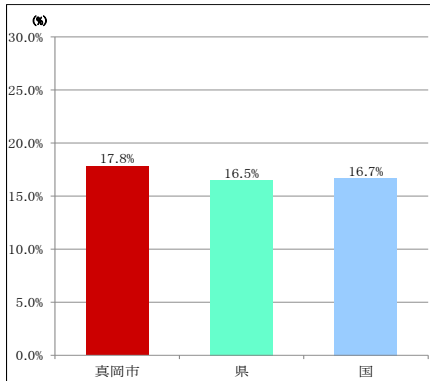
出典: 国保データベース (KDB) システム 「地域の全体像の把握」

#### (4) 平成27年度特定健康診査による検査値及び問診結果(県・国との比較)

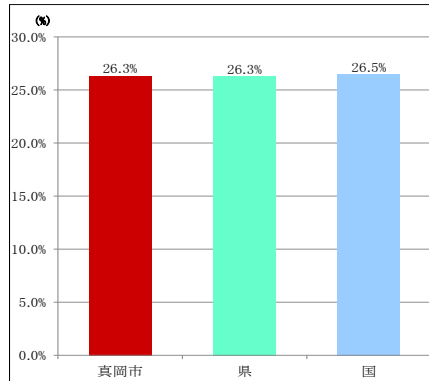
##### ①特定健康診査結果

##### (i)メタボリックシンドローム該当者割合

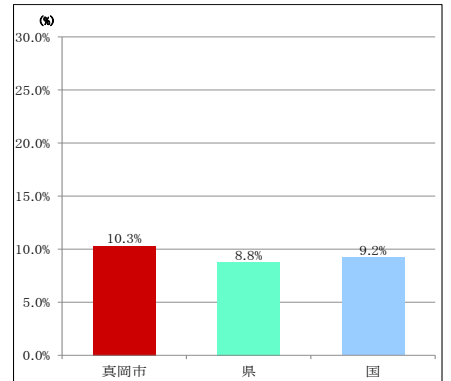
全体



男性

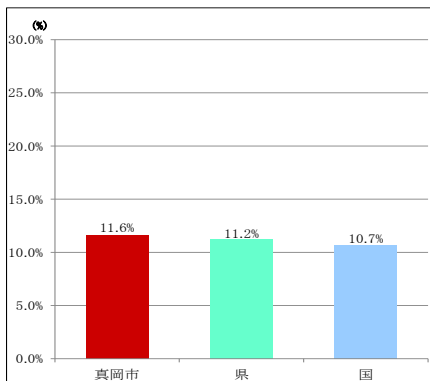


女性

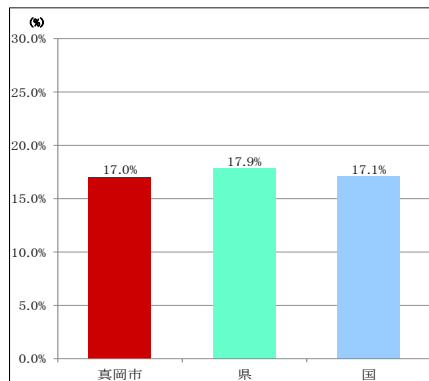


##### (ii)メタボリックシンドローム予備群者割合

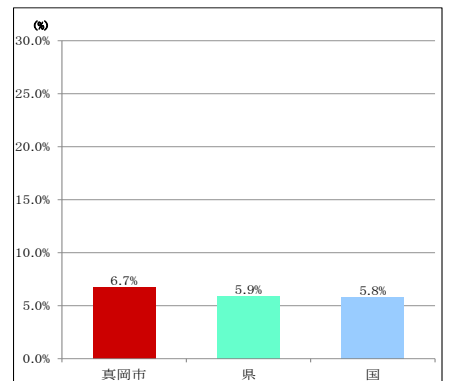
全体



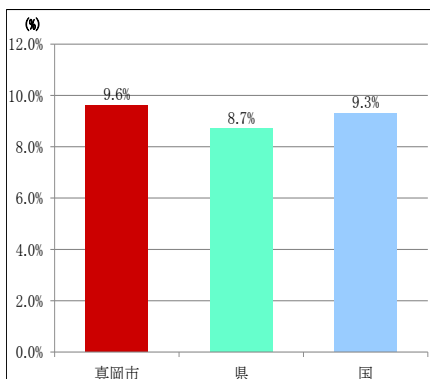
男性



女性



##### (iii)非肥満高血糖者割合



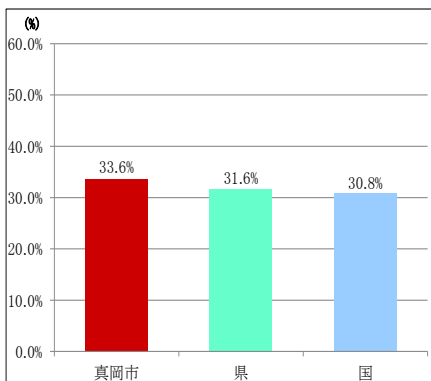
高血糖：空腹時血糖110mg/dl以上  
またはHbA1cが6.0%以上  
または服薬あり

出典：国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

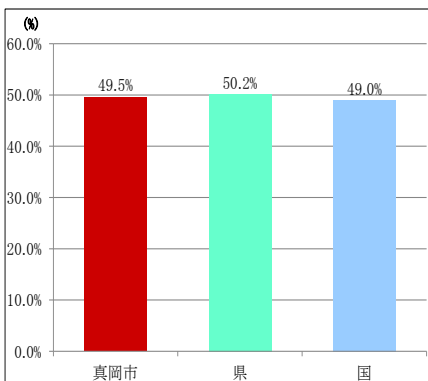
(iv)検査値(メタボ、予備群レベル)

●腹囲

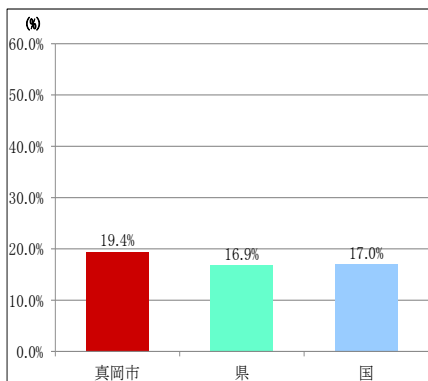
全体



男性



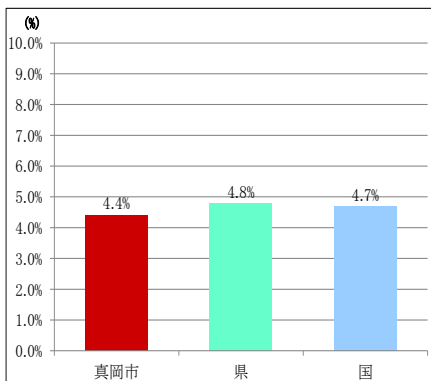
女性



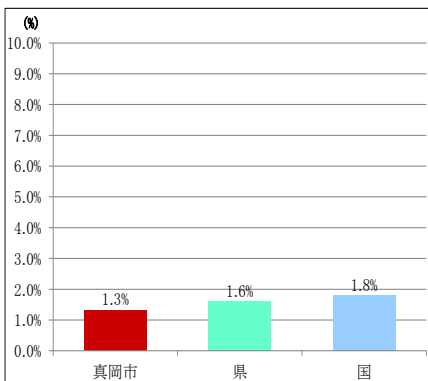
腹囲:男性85cm以上、女性90cm以上

●BMI

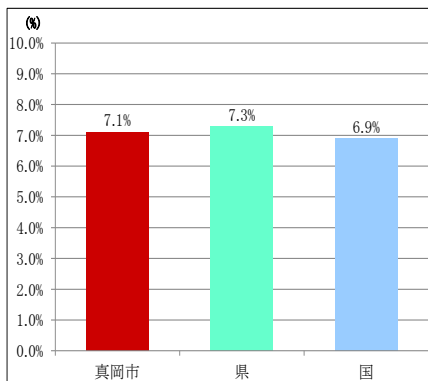
全体



男性

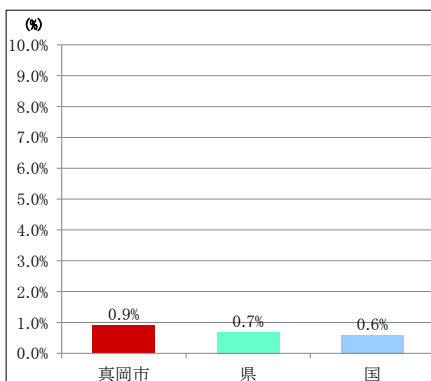


女性



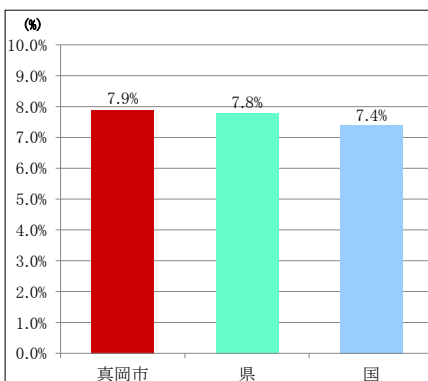
BMI:25以上

●血糖



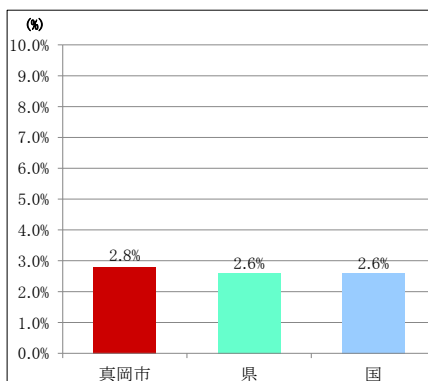
高血糖:空腹時血糖110mg/dl以上  
またはHbA1cが6.0%以上  
または服薬あり

●血圧



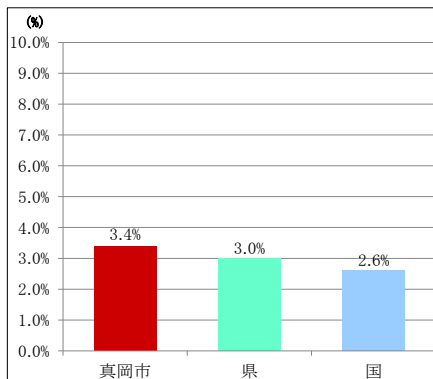
血圧:収縮期血圧130mmHg以上  
または拡張期血圧85mmHg以上  
または服薬あり

●脂質

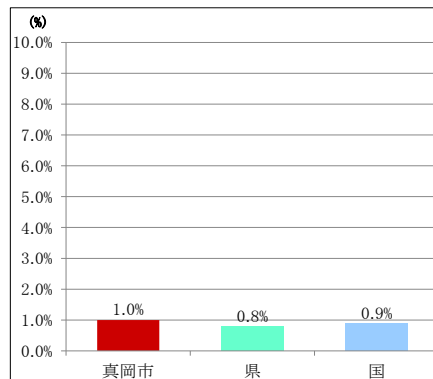


脂質:中性脂肪150mg/dl以上  
またはHDLコレステロール40mg/dl未満  
または服薬あり

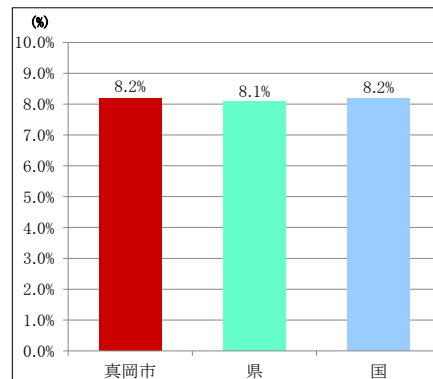
●血糖・血圧



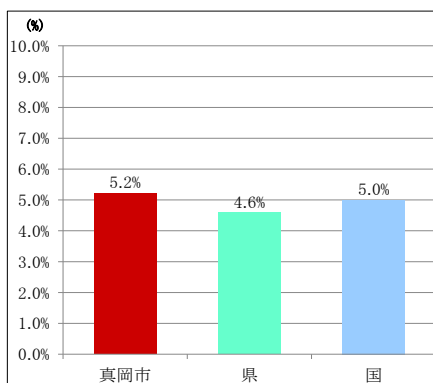
●血糖・脂質



●血圧・脂質

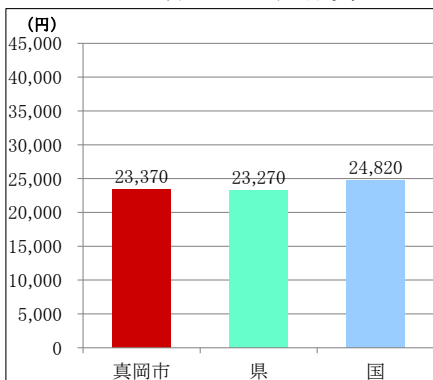


●血糖・血圧・脂質

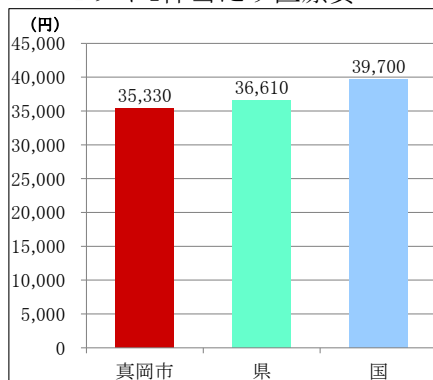


(v) 健診受診者と未受診者のレセプト1件当たり医療費

●特定健診受診者  
レセプト1件当たり医療費



●特定健診未受診者  
レセプト1件当たり医療費

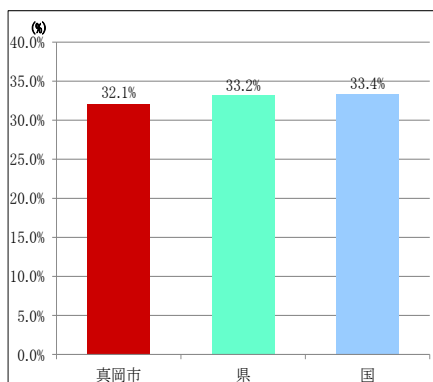


出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

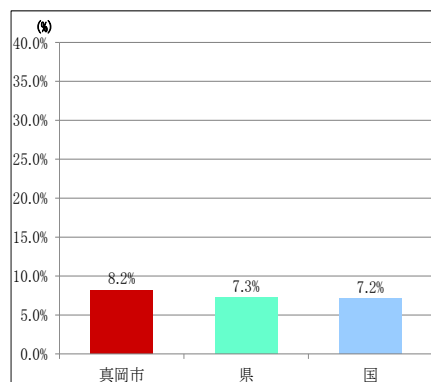
## ②質問票調査項目別

### (i)服薬状況

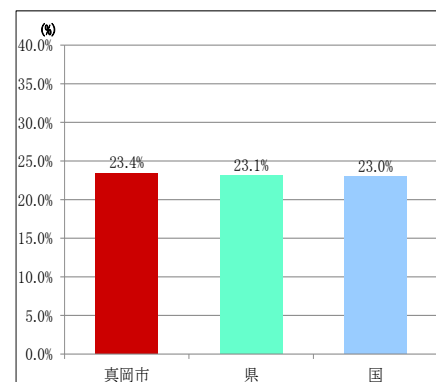
#### ●高血圧症



#### ●糖尿病

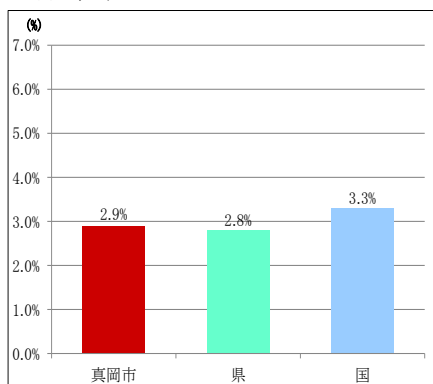


#### ●脂質異常症

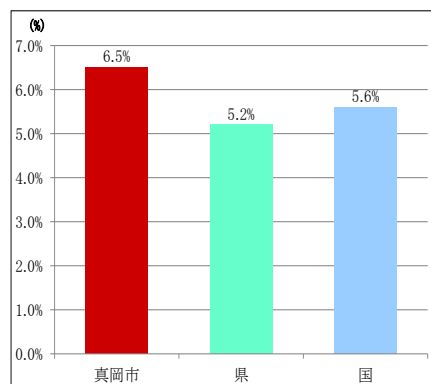


### (ii)既往歴

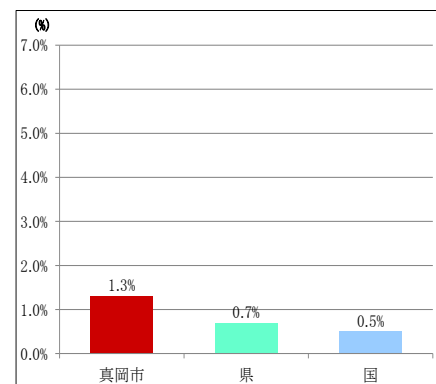
#### ●脳卒中



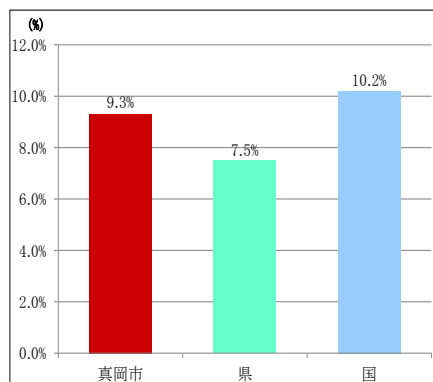
#### ●心臓病



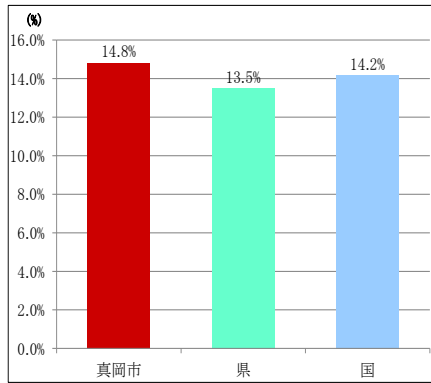
#### ●腎不全



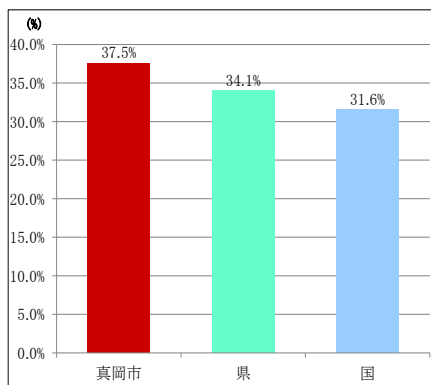
#### ●貧血



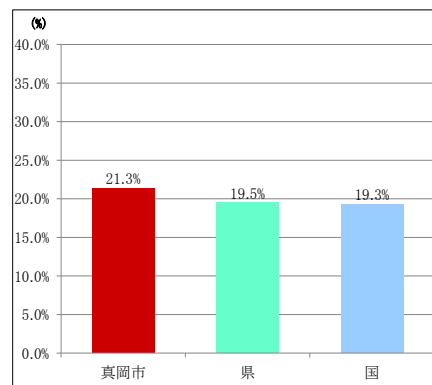
(iii) 喫煙



(iv) 20歳時体重から10kg以上増加

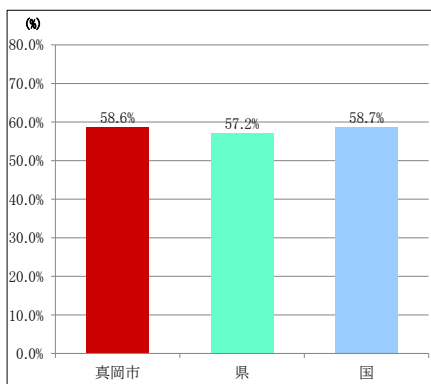


(vi) 1年間で体重増減3kg以上

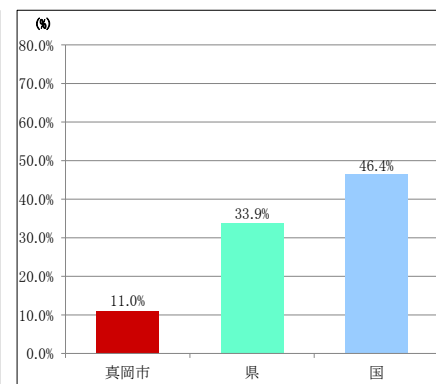


(v) 運動習慣

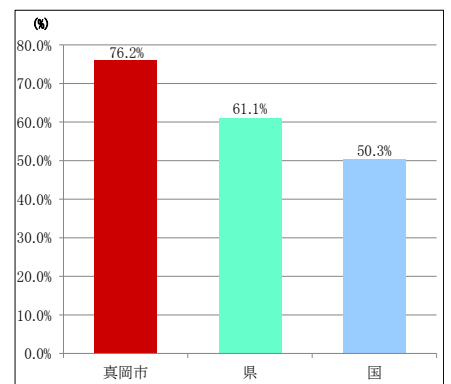
● 1回30分以上の運動習慣なし



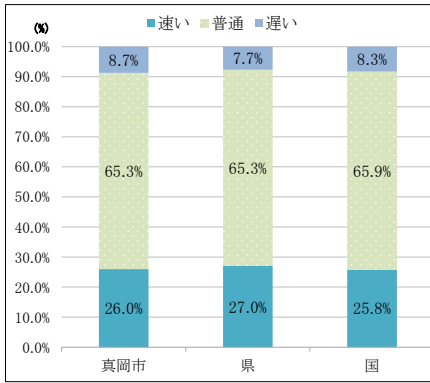
● 1日1時間以上運動なし



● 歩行速度遅い

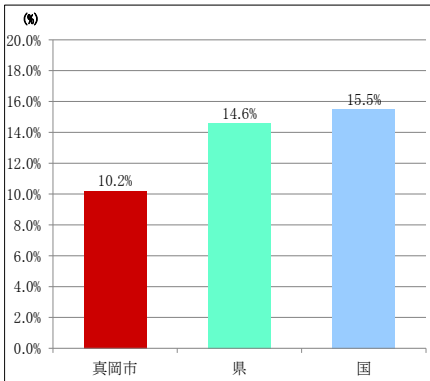


(vii) 食事速度

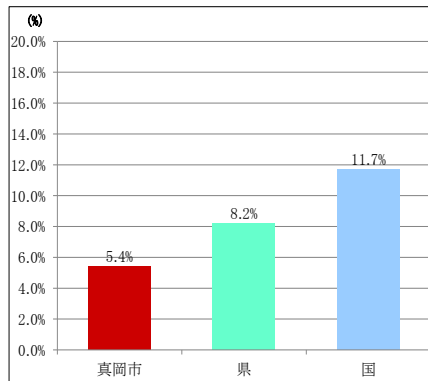


(viii) 食事習慣

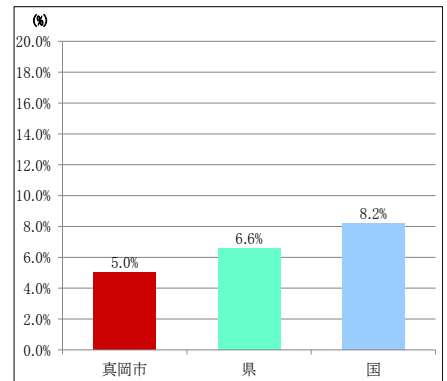
● 週3回以上就寝前夕食



● 週3回以上食後間食

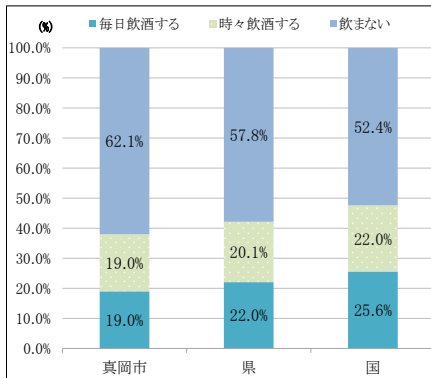


● 週3回以上朝食を抜く

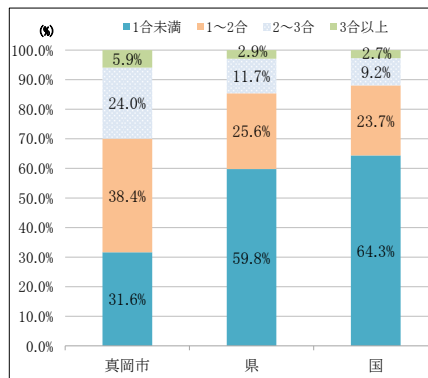


(ix) 飲酒習慣

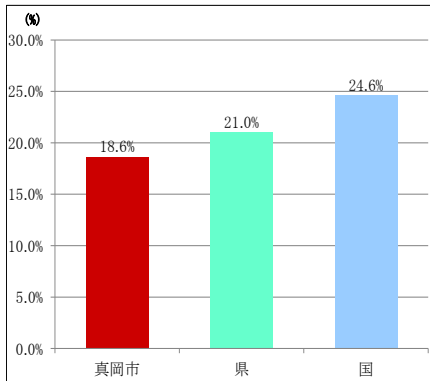
● 飲酒頻度



● 1日飲酒量

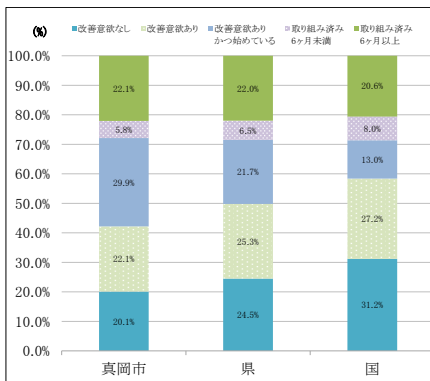


(x) 睡眠不足

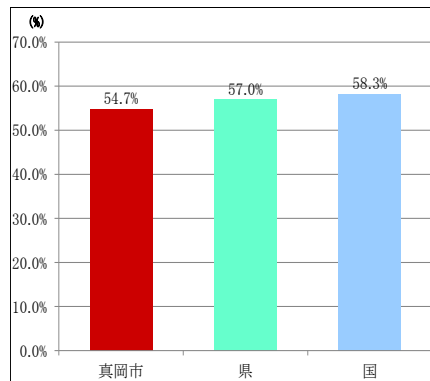


(xi) 意識調査

●生活習慣の改善の意思



●保健指導を受ける意思



保健指導を受ける機会があっても利用しない  
 (「生活習慣の改善について保健指導を受ける  
 機会があれば利用しますか」の質問に対し「いいえ」の回答数を集計)

出典: 国保データベース (KDB) システム 「地域の全体像の把握」



## (5) 介護保険の状況

本市の介護保険認定率及び給付費等の状況を以下に示す。認定率は、県、国を下回るが、要介護3、要介護4、要介護5の認定者の割合が高く、一件当たりの給付費が県、国を上回っている。

### 介護保険認定率等の状況 (H27年度)

区分	真岡市	県	国
認定率	14.5%	15.7%	17.9%
認定者数(人)	2,893	83,181	6,203,923
第1号(65歳以上)	2,797	81,040	6,068,408
第2号(40～64歳)	96	2,141	135,515

※認定率は、第1号被保険者に対する認定者数の割合  
出典:介護保険事業状況報告

### 要介護状態区分ごとの認定者数 (H27年度)

区分	真岡市		県		国	
	認定者数(人)	割合(%)	認定者数(人)	割合(%)	認定者数(人)	割合(%)
要支援1	191	6.6	10,243	12.3	889,645	14.3
要支援2	266	9.2	11,719	14.1	858,446	13.8
要介護1	515	17.8	15,310	18.4	1,220,477	19.7
要介護2	571	19.7	14,674	17.6	1,080,481	17.4
要介護3	478	16.5	11,740	14.1	809,617	13.1
要介護4	491	17.0	11,241	13.5	743,913	12.0
要介護5	381	13.2	8,254	9.9	601,344	9.7
計	2,893	100.0	83,181	100.0	6,203,923	100.0

出典:介護保険事業状況報告

### 給付費等の状況 (H27年度)

区分	真岡市	県	国
一件当たり給付費(円)			
給付費	66,853	62,702	58,761
要支援1	9,986	10,905	10,916
要支援2	16,243	17,131	16,550
要介護1	38,821	41,948	39,036
要介護2	48,072	51,452	49,419
要介護3	78,162	83,601	79,970
要介護4	99,074	105,437	105,493
要介護5	125,133	130,209	121,184

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

要介護認定者の疾病別有病率を以下に示す。

疾病毎の有病者数を合計すると、9,104人となり、認定者数2,893人の約3.1倍である。認定者一人当たり、真岡市では3.1種類の疾病を併発しており、県では3.1種類、国では2.5種類の疾病を併発していることがわかる。

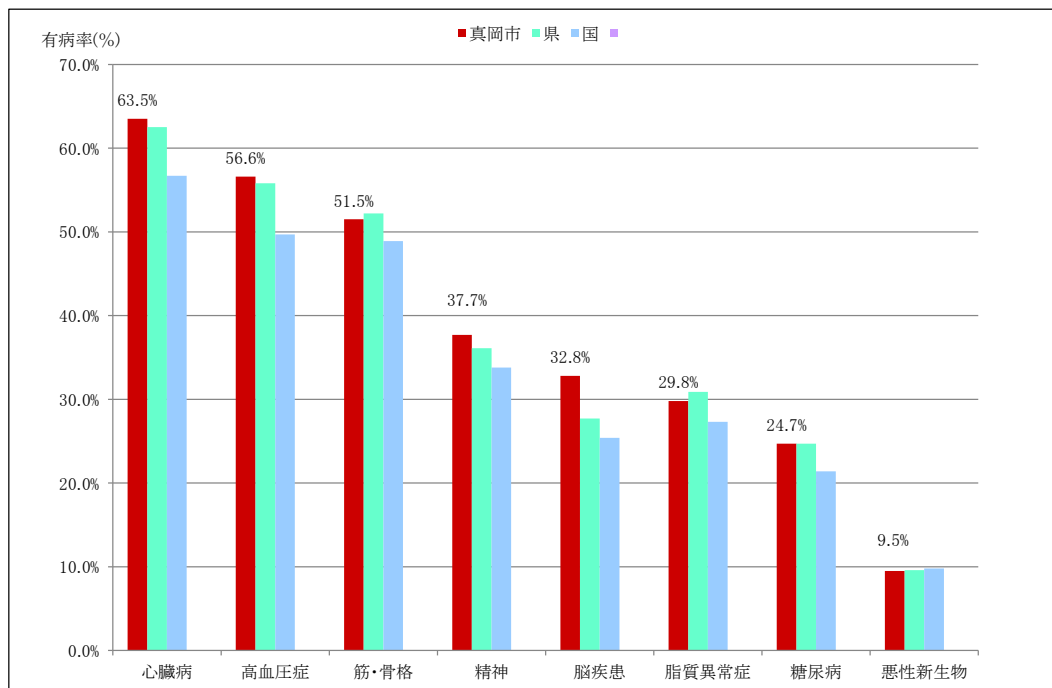
要介護(支援)認定者の疾病別有病状況(H27年度)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

区分	真岡市	順位	県	順位	国	順位
認定者数(人)	2,893		83,181		6,203,923	
心臓病	実人数(人)	1,866	53,518	1	3,261,576	1
	有病率	63.5%	62.5%		56.7%	
高血圧症	実人数(人)	1,675	47,894	2	2,865,466	2
	有病率	56.6%	55.8%		49.7%	
筋・骨格	実人数(人)	1,540	44,955	3	2,813,795	3
	有病率	51.5%	52.2%		48.9%	
精神	実人数(人)	1,134	30,995	4	1,963,213	4
	有病率	37.7%	36.1%		33.8%	
脳疾患	実人数(人)	992	23,547	5	1,455,985	6
	有病率	32.8%	27.7%		25.4%	
脂質異常症	実人数(人)	888	26,897	6	1,586,963	5
	有病率	29.8%	30.9%		27.3%	
糖尿病	実人数(人)	725	21,219	7	1,241,024	7
	有病率	24.7%	24.7%		21.4%	
悪性新生物	実人数(人)	284	8,434	8	569,967	8
	有病率	9.5%	9.6%		9.8%	
合計	実人数(人)	9,104	257,459		15,757,989	

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

要介護認定者の疾病別有病状況(H27年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

## (6) 死因の状況

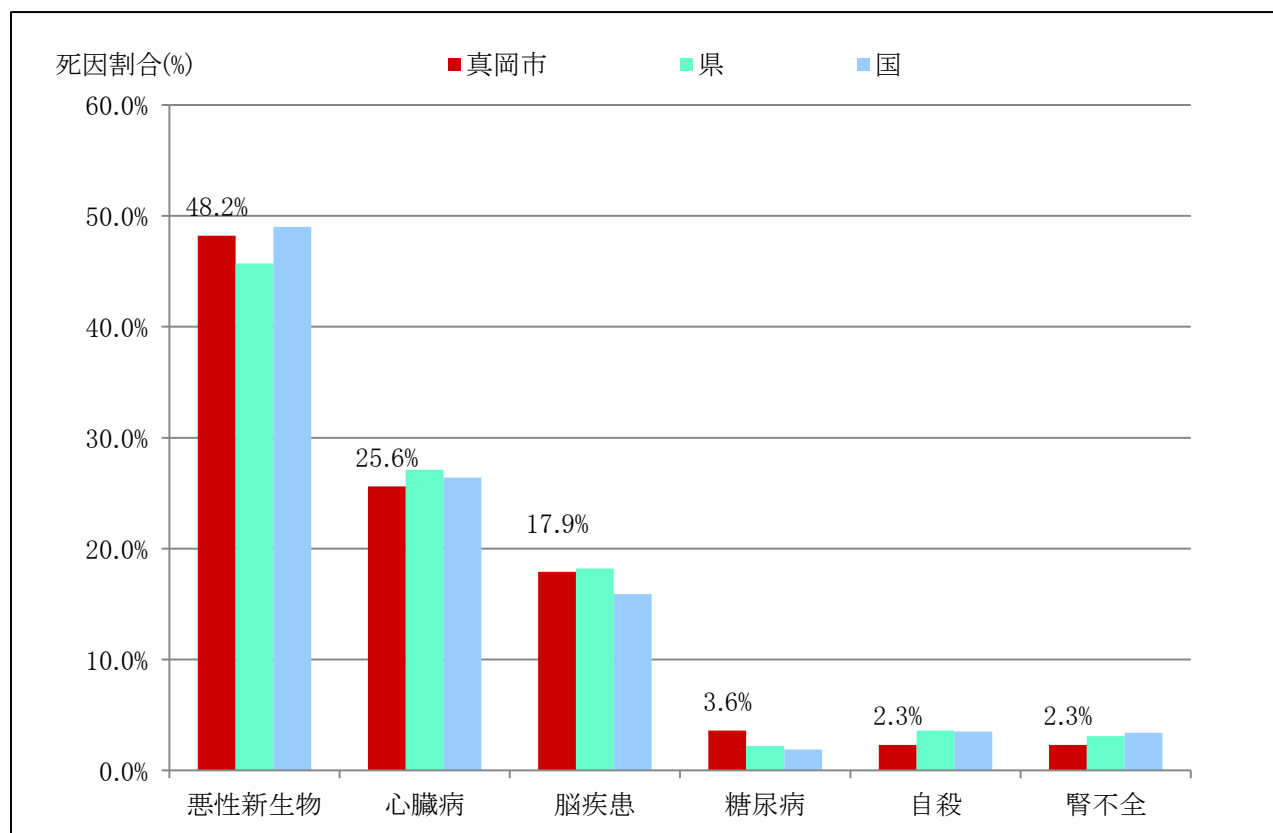
本市の主たる死因とその割合を以下に示す。

主たる死因とその割合 (H27年度)

疾病項目	人数(人)	真岡市	県	国
悪性新生物	226	48.2%	45.7%	49.0%
心臓病	120	25.6%	27.1%	26.4%
脳疾患	84	17.9%	18.2%	15.9%
糖尿病	17	3.6%	2.2%	1.9%
自殺	11	2.3%	3.6%	3.5%
腎不全	11	2.3%	3.1%	3.4%
合計	469			

出典:国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

主たる死因とその割合 (H27年度)



出典:国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

## 5. 過去の取り組みの考察

### (1) 特定健康診査・特定保健指導の導入

平成18年の医療制度改革において、「高齢者の医療の確保に関する法律」の改定に伴い、平成20年度より医療保険者にその実施を義務付ける特定健康診査・特定保健指導の仕組みが導入された。

法第18条に規定する基本指針に基づき、「特定健康診査及び特定保健指導実施計画」を策定し、被保険者に対し、生活習慣病の発症に大きく関与するとされるメタボリックシンドロームに着目した特定健康診査を実施している。

また、特定健康診査の結果に基づき、生活習慣病のリスクを持った人への特定保健指導に取り組んでいる。

### (2) 保健事業実施状況

#### ① 特定健康診査

##### (i) 目的

メタボリックシンドロームに着目し、内臓脂肪の蓄積を把握することにより、糖尿病、高血圧症、脂質異常症等の生活習慣病の予防を図ることを目的とする。

##### (ii) 対象

被保険者のうち、特定健康診査当該年度において、40歳～74歳までの被保険者を対象とする。

##### (iii) 実施方法

保健センター及び各地区の会場において集団健康診査を実施する。

##### (iv) 実施内容

問診、身体計測（身長・体重・BMI・腹囲）、血圧、血液検査（脂質・糖尿病・肝機能・貧血・腎機能）、尿検査、医師の診察、心電図、眼底

##### (v) 事業の成果

平成27年度における特定健康診査の法定報告の受診率は41.6%（平成26年度39.9%）であった。

##### (vi) 関係部署が実施する保健事業との関連

上記の保健事業以外にも、健康づくりのためのさまざまな取り組みを実施しており、これらの取り組みと連携し、効果的に保健事業を実施していくことが重要となる。特定健康診査・特定保健指導と健康づくり関連施策の連携を図る。

## ②特定保健指導

### (i) 目的

生活習慣病のリスクが高い対象者が、本支援により生活習慣を改善し、生活習慣病の予防を図ることを目的とする。

### (ii) 対象

国が示す基準を参考に、特定健康診査の結果より対象者を特定する。

### (iii) 実施方法

腹囲及び追加リスク・喫煙歴により「動機付け支援」と「積極的支援」に分けて実施する。

### (iv) 実施内容

#### ・動機付け支援

対象者への個別支援またはグループ支援により、対象者が自らの生活習慣を振り返り、行動目標を立てることができるとともに、保健指導終了後、その生活が継続できるよう支援する。

#### ・積極的支援

動機付け支援に加えて、定期的・継続的な支援により、自らの生活習慣を振り返り、行動目標を設定し、目標達成に向けた実践に取り組みながら、支援プログラム終了後にはその生活が継続できるよう支援する。

### (v) 事業の成果

平成27年度における特定保健指導の終了率は積極的支援が32.0%(平成26年度17.2%)、動機付け支援が49.7%(平成26年度54.4%)であった。

#### 特定保健指導の実施状況

	保健指導対象者数 (人)	初回面接実施者数 (人)	終了者数 (人)	終了率 (%)
動機付け支援	580人	380人	288人	49.7%
積極的支援	256人	169人	82人	32.0%

出典：対象者数は平成27年度真岡市事業概要報告書。終了率は平成28年11月末実数。

### (vi) 関係部署が実施する保健事業との関連

上記の保健事業以外にも、健康づくりのためのさまざまな取り組みを実施しており、これらの取り組みと連携し、効果的に保健事業を実施していくことが重要となる。特定健康診査・特定保健指導と健康づくり関連施策の連携を図る。

### ③人間ドック・脳ドック検診

#### (i) 目的

35歳以上の被保険者に対して人間ドック・脳ドック検診費用の助成を行うことで、疾病の早期発見、早期治療を促進し、被保険者の健康増進を図ることを目的とする。

#### (ii) 対象

35歳以上の国民健康保険被保険者

#### (iii) 実施方法

人間ドック・脳ドック検診受診者に対し、検診費用の1/2相当額(2万円限度)を助成する。

#### (iv) 実施内容

指定医療機関にて人間ドック・脳ドック検診を受診する方に対し、検診費用の1/2相当額(2万円限度)を助成する。

#### (v) 事業の成果

平成27年度において、323人に対し助成を行った(平成26年度303人)。

#### (vi) 課題

人間ドック検診の結果、メタボリックシンドローム該当者又は予備群となった被保険者についても、特定健康診査受診者と同様に特定保健指導を実施する必要がある。

#### ④ジェネリック医薬品差額通知

##### (i) 目的

生活習慣病等の慢性疾患により医薬品の長期投与をされている被保険者に対し、後発医薬品(ジェネリック医薬品)の差額通知を送付し、ジェネリック医薬品の普及啓発を行うことで、医療費の削減を図ることを目的とする。

##### (ii) 対象

下記の対象外医薬品を除く指定医薬品を長期投与されており、ジェネリック医薬品に切替えることにより、1薬剤あたり200円以上の差額効果がある、20歳以上の被保険者を対象とする。

##### 【対象外医薬品】

中枢神経用薬、抹消神経系用剤、ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)、外皮用薬、血液・体液用薬、人工透析用薬、腫瘍用薬、放射性医薬品、化学療法剤

##### (iii) 実施方法

年2回、差額通知を発送する。

##### (iv) 実施内容

年2回

通知月：8月(5月調剤分)、2月(11月調剤分)

※平成27年度は2月のみ

##### (v) 事業の成果

平成27年度において2月に1,439件差額通知を発送した。差額通知の他にジェネリック医薬品希望シールや案内ちらしの配布等、ジェネリック医薬品の使用促進のための取組みを行っている。

##### (vi) 課題

国の普及率目標値(平成29年央までに70%、平成30~32年度末までの間の早い時期に80%)に近づけるため、ジェネリック医薬品の普及啓発を推進し、普及率向上を図る必要がある。

### (3) 保健事業の課題

#### ① 特定健康診査

特定健康診査の課題は、下表のとおりである。

特定健康診査の課題及び実施状況

No	課題	対処方法	実施状況
1	40, 50歳代の受診率が低い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代からの健康に対する意識づけ</li> <li>・受診しやすい体制をつくる</li> <li>・受診の必要性について周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30歳代を対象としたヤング健診</li> <li>・40, 50歳代に限定した健診日設定</li> <li>・土日の健診日を設定</li> <li>・未予約者に対し、健診受診勧奨通知</li> </ul>
2	一度も受診したことがない人への対応	受診の必要性について周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診受診勧奨通知(未受診理由アンケート付)年度初めに一斉通知、新40歳に通知、モデル地区に通知など、1名に対し複数回通知</li> </ul>
3	毎年受診しない人への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続受診の必要性について周知</li> <li>・インセンティブの導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去2年間に受診歴がある者に対し、次年度同時期に予約を入れ通知</li> <li>・予約者で未受診の者には受診勧奨通知及び電話勧奨</li> <li>・受診者に対し、市内3施設で使用できる利用補助券配布</li> </ul>

1～3全体に対して:・地区の健康度を上げる→健康づくりモデル地区事業  
 ・追加健診の実施

#### ② 特定保健指導

特定保健指導の課題は、下表のとおりである。

特定保健指導の課題及び実施状況

No	課題	対処方法	実施状況
1	繰り返し該当になる者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を継続し、健康に対する意識づけ</li> <li>・経年的な結果に着目した保健指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の希望に応じた日程の設定</li> <li>・指導ツールの変更</li> <li>・訪問指導</li> </ul>
2	積極的支援の終了者が50%以下である	モチベーションの維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間に血液検査を実施し取り組みの効果を確認</li> <li>・支援レターの送付</li> <li>・健康教室等の事業案内の送付</li> </ul>



## Ⅱ. 現状分析と課題

### 1. 医療費状況の把握

当医療費統計は、真岡市国民健康保険における、平成27年4月～平成28年3月診療分の12カ月分の入院(DPCを含む)、入院外、調剤レセプトを対象とし、各月国保の資格確認して集計、分析する。

#### (1) 基礎統計

被保険者数、レセプト件数、医療費、患者数等の平均は、以下の通りである。患者一人当たりの月平均医療費は44,520円となった。また、国保加入者の50.1%は医療機関にかかっている。

基礎統計

		月平均	年度合計	
A	被保険者数(人)	23,734		
B	レセプト件数(件)	入院外	16,318	195,815
		入院	372	4,458
		調剤	11,321	135,852
		合計	28,010	336,125
C	医療費(円) ※	529,727,323	6,356,727,880	
D	患者数(人) ※	11,899	142,783	
C/A	被保険者一人当たりの平均医療費(円)	22,320		
C/B	レセプト一件当たりの平均医療費(円)	18,912		
C/D	患者一人当たりの平均医療費(円)	44,520		
B/A	受診率(%)	118.0%		
D/A	有病率(%)	50.1%		

※医療費…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている、保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示。

※患者数…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトの人数を集計。同診療年月で一人の方に複数のレセプトが発行された場合は、一人として集計。

## (2) 高額レセプトの件数及び要因

### ① 高額レセプトの件数及び割合

発生しているレセプトのうち、医療費が50万円以上のものを高額レセプトとし、以下の通り集計した。

高額レセプトは、月平均132件発生しており、レセプト件数全体の0.5%を占める。高額レセプトの医療費は月平均1億3,620万円程度となり、医療費全体の25.7%を占める。

高額(50万円以上)レセプト件数及び割合

		月平均	年度合計
A	レセプト件数全体(件)	28,010	336,125
B	高額(50万円以上)レセプト件数(件)	132	1,589
B/A	件数構成比(%)	0.5%	
C	医療費全体(円) ※	529,727,323	6,356,727,880
D	高額(50万円以上)レセプトの医療費(円)	136,196,907	1,634,362,880
D/C	金額構成比(%)	25.7%	

※医療費全体…データ化範囲(分析対象)全体での医療費を算出。

### ② 高額レセプトの年齢階層別統計

高額レセプトの年齢階層別医療費、年齢階層別患者数、年齢階層別レセプト件数を以下に示す。医療費・患者数・レセプト件数は共に構成比が60歳から大幅に増えている。

高額(50万円以上)レセプトの年齢階層別医療費

年齢階層	入院外(円)	入院(円)	総計(円)	構成比(%)
0歳 ~ 4歳	0	68,340,400	68,340,400	4.2%
5歳 ~ 9歳	0	7,808,470	7,808,470	0.5%
10歳 ~ 14歳	3,630,920	4,129,490	7,760,410	0.5%
15歳 ~ 19歳	10,184,990	4,674,360	14,859,350	0.9%
20歳 ~ 24歳	0	16,119,150	16,119,150	1.0%
25歳 ~ 29歳	1,201,580	11,424,330	12,625,910	0.8%
30歳 ~ 34歳	3,973,290	18,910,630	22,883,920	1.4%
35歳 ~ 39歳	6,044,860	46,671,550	52,716,410	3.2%
40歳 ~ 44歳	22,883,710	28,453,280	51,336,990	3.1%
45歳 ~ 49歳	10,980,500	51,026,820	62,007,320	3.8%
50歳 ~ 54歳	15,460,230	32,270,770	47,731,000	2.9%
55歳 ~ 59歳	31,827,730	86,990,020	118,817,750	7.3%
60歳 ~ 64歳	50,050,510	198,420,410	248,470,920	15.2%
65歳 ~ 69歳	67,685,570	346,539,350	414,224,920	25.3%
70歳 ~ 74歳	49,198,340	439,461,620	488,659,960	29.9%
合計	273,122,230	1,361,240,650	1,634,362,880	

高額(50万円以上)レセプトの年齢階層別患者数

年齢階層	入院外(人)	入院(人)	入院外および入院(人)	構成比(%)
0歳～4歳	0	31	31	3.5%
5歳～9歳	0	7	7	0.8%
10歳～14歳	1	3	4	0.5%
15歳～19歳	2	4	5	0.6%
20歳～24歳	0	9	9	1.0%
25歳～29歳	2	11	13	1.5%
30歳～34歳	1	20	21	2.4%
35歳～39歳	2	31	33	3.7%
40歳～44歳	4	19	20	2.3%
45歳～49歳	4	26	29	3.3%
50歳～54歳	7	22	28	3.2%
55歳～59歳	8	40	46	5.2%
60歳～64歳	18	121	132	14.9%
65歳～69歳	22	229	242	27.3%
70歳～74歳	22	249	265	29.9%
合計	93	822	885	

入院外と入院で重複する患者がいるので総計は一致しない。

高額(50万円以上)レセプトの年齢階層別レセプト件数

年齢階層	入院外(件)	入院(件)	入院外および入院(件)	構成比(%)
0歳～4歳	0	49	49	3.1%
5歳～9歳	0	9	9	0.6%
10歳～14歳	4	5	9	0.6%
15歳～19歳	8	6	14	0.9%
20歳～24歳	0	20	20	1.3%
25歳～29歳	2	13	15	0.9%
30歳～34歳	2	22	24	1.5%
35歳～39歳	3	60	63	4.0%
40歳～44歳	27	32	59	3.7%
45歳～49歳	10	51	61	3.8%
50歳～54歳	13	24	37	2.3%
55歳～59歳	33	77	110	6.9%
60歳～64歳	54	204	258	16.2%
65歳～69歳	59	337	396	24.9%
70歳～74歳	47	418	465	29.3%
合計	262	1,327	1,589	

### ③高額レセプトの要因となる疾病傾向

発生しているレセプトのうち、医療費が50万円以上のものを高額レセプトとし集計した。対象者の分析対象期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費がかかっている疾病、患者数の多い疾病を特定し、以下に示す。

生活習慣病関連の疾患に注目すると、患者一人当たりの医療費順では、4位に腎不全、6位にくも膜下出血があがっている。

患者が多い順では、2位に腎不全で、6位に虚血性心疾患、8位に脳梗塞があがっている。

### 高額(50万円以上)レセプトの要因となる疾病(患者一人当たりの医療費順)

順位	中分類	中分類名	主要傷病名	患者数(人)	医療費(円)			患者一人当たりの医療費(円)
					入院	入院外	合計	
1	0209	白血病	急性骨髄性白血病, 慢性骨髄単球性白血病	4	34,531,410	8,690,300	43,221,710	10,805,428
2	1701	心臓の先天奇形	心室中隔欠損症	1	4,087,830	1,933,410	6,021,240	6,021,240
3	0107	真菌症	アスペルギルス症, 肺アスペルギルス症, 真菌症	4	19,669,030	4,415,720	24,084,750	6,021,188
4	1402	腎不全	慢性腎不全, 末期腎不全, 急性腎後性腎不全	40	88,513,070	138,498,980	227,012,050	5,675,301
5	0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	脳性麻痺, 片麻痺	4	20,396,480	6,460	20,402,940	5,100,735
6	0904	くも膜下出血	くも膜下出血, 前交通動脈瘤破裂によるくも膜下出血	3	13,481,340	262,860	13,744,200	4,581,400
7	0105	ウイルス肝炎	C型慢性肝炎, C型肝炎, C型肝炎変	36	6,413,730	157,990,160	164,403,890	4,566,775
8	1702	その他の先天奇形, 変形及び染色体異常	鎖肛, ターナー症候群, 脊髄髄膜瘤	4	10,108,790	6,379,240	16,488,030	4,122,008
9	1109	その他の肝疾患	肝性脳症, 肝梗塞, 肝膿瘍	5	17,539,270	2,612,610	20,151,880	4,030,376
10	1307	その他の脊柱障害	腰椎すべり症, 脊柱後弯, 腰椎分離すべり症	4	13,730,660	2,088,090	15,818,750	3,954,688
11	0205	気管, 気管支及び肺の悪性新生物	下葉肺癌, 上葉肺腺癌, 上葉肺癌	21	47,539,770	32,569,090	80,108,860	3,814,708
12	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	成長ホルモン分泌不全性低身長症, カルニチン欠乏症, 先端巨大症	9	14,137,000	20,195,090	34,332,090	3,814,677
13	0912	その他の循環器系の疾患	腹部大動脈瘤, 急性大動脈解離, 胸部大動脈瘤	13	42,955,540	4,132,690	47,088,230	3,622,172
14	0208	悪性リンパ腫	濾胞性リンパ腫, びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫, B細胞リンパ腫	5	6,167,730	11,575,240	17,742,970	3,548,594
15	0903	その他の心疾患	うっ血性心不全, 僧帽弁閉鎖不全症, 大動脈弁閉鎖不全症	23	61,679,250	19,773,800	81,453,050	3,541,437
16	0507	その他の精神及び行動の障害	高次脳機能障害, 注意欠陥多動障害	2	5,940,240	940,080	6,880,320	3,440,160
17	1302	関節症	変形性股関節症, 変形性膝関節症, 続発性股関節症	15	42,455,700	8,541,540	50,997,240	3,399,816
18	0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	播種性血管内凝固, 出血傾向	7	19,331,720	3,471,740	22,803,460	3,257,637
19	0210	その他の悪性新生物	前立腺癌, 多発性骨髄腫, 腎癌	79	160,250,210	92,230,680	252,480,890	3,195,961
20	0905	脳内出血	視床出血, 被殻出血, 橋出血	12	36,339,250	1,135,800	37,475,050	3,122,921

高額(50万円以上)レセプトの要因となる疾病(患者数順)

順位	中分類	中分類名	主要傷病名	患者数 (人)	医療費(円)			患者一人 当たりの医療費 (円)
					入院	入院外	合計	
1	0210	その他の悪性新生物	前立腺癌, 多発性骨髄腫, 腎癌	79	160,250,210	92,230,680	252,480,890	3,195,961
2	1402	腎不全	慢性腎不全, 末期腎不全, 急性腎後性腎不全	40	88,513,070	138,498,980	227,012,050	5,675,301
3	0105	ウイルス肝炎	C型慢性肝炎, C型肝炎, C型肝炎硬変	36	6,413,730	157,990,160	164,403,890	4,566,775
4	1303	脊椎障害(脊椎症を含む)	腰部脊柱管狭窄症, 頸椎症性脊髄症, 変形性腰椎症	32	69,459,030	13,622,480	83,081,510	2,596,297
4	1901	骨折	橈骨遠位端骨折, 大腿骨転子部骨折, 大腿骨頸部骨折	32	49,404,460	7,835,090	57,239,550	1,788,736
6	0704	その他の眼及び付属器の疾患	裂孔原性網膜剥離, 網膜前膜, 黄斑円孔	31	20,806,620	13,583,420	34,390,040	1,109,356
6	0902	虚血性心疾患	狭心症, 急性下壁心筋梗塞, 不安定狭心症	31	43,968,540	9,980,170	53,948,710	1,740,281
8	0906	脳梗塞	脳梗塞, アテローム血栓性脳梗塞, 脳梗塞後遺症	30	77,230,580	8,911,280	86,141,860	2,871,395
9	1110	胆石症及び胆のう炎	総胆管結石, 胆のう結石症, 総胆管結石性胆管炎	27	31,893,630	7,829,570	39,723,200	1,471,230
10	0201	胃の悪性新生物	胃癌, 胃体部癌, 幽門前庭部癌	24	45,374,170	10,805,110	56,179,280	2,340,803
11	0903	その他の心疾患	うっ血性心不全, 僧帽弁閉鎖不全症, 大動脈弁閉鎖不全症	23	61,679,250	19,773,800	81,453,050	3,541,437
11	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	骨折, 頸髄損傷, 内側半月板損傷	23	39,293,440	8,845,630	48,139,070	2,093,003
13	0211	良性新生物及びその他の新生物	聴神経鞘腫, 耳下腺良性腫瘍, 子宮粘膜下筋腫	22	30,475,850	6,397,940	36,873,790	1,676,081
14	0202	結腸の悪性新生物	S状結腸癌, 上行結腸癌, 盲腸癌	21	31,458,080	22,080,740	53,538,820	2,549,468
14	0205	気管, 気管支及び肺の悪性新生物	下葉肺癌, 上葉肺腺癌, 上葉肺癌	21	47,539,770	32,569,090	80,108,860	3,814,708
16	0206	乳房の悪性新生物	乳癌, 乳房上外側部乳癌, 乳房上内側部乳癌	20	21,879,180	24,760,860	46,640,040	2,332,002
17	1112	その他の消化器系の疾患	閉塞性黄疸, 急性虫垂炎, イレウス	18	22,562,420	5,917,460	28,479,880	1,582,216
18	1504	その他の妊娠, 分娩及び産じょく	切迫早産, 全前置胎盤, 筋腫合併妊娠	17	21,601,720	1,580,670	23,182,390	1,363,670
19	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	直腸癌, 直腸S状部結腸癌, 直腸癌穿孔	16	26,542,450	16,978,920	43,521,370	2,720,086
20	1302	関節症	変形性股関節症, 変形性膝関節症, 続発性股関節症	15	42,455,700	8,541,540	50,997,240	3,399,816

### (3) 疾病別医療費

#### ①大分類による疾病別医療費統計

##### (i) 真岡市国民健康保険全体

以下の通り、疾病項目毎に医療費総計、レセプト件数、患者数を算出した。生活習慣病の改善により予防効果が大きく期待できる、高血圧や心臓病、脳血管疾患、動脈硬化等の「循環器系の疾患」が医療費合計の15.5%を占めている。

大分類による疾病別医療費統計

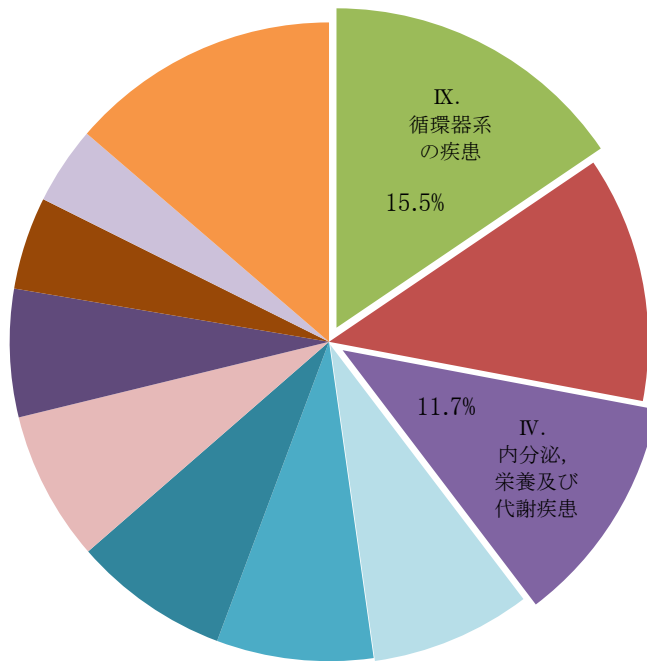
※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	297,993,412	4.7%	9	27,033	10	6,875	8	43,344	11
II. 新生物	790,018,944	12.5%	2	21,903	13	5,718	10	138,164	4
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	64,407,484	1.0%	15	8,361	16	2,151	16	29,943	17
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	741,290,621	11.7%	3	119,343	2	10,196	3	72,704	7
V. 精神及び行動の障害	503,250,422	7.9%	5	25,897	11	2,536	14	198,443	2
VI. 神経系の疾患	249,506,622	3.9%	10	49,620	6	4,675	11	53,370	9
VII. 眼及び付属器の疾患	244,614,563	3.9%	11	36,323	7	7,200	6	33,974	16
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	29,620,183	0.5%	18	9,095	15	2,250	15	13,165	21
IX. 循環器系の疾患	984,348,984	15.5%	1	124,732	1	9,314	4	105,685	6
X. 呼吸器系の疾患	410,677,699	6.5%	8	66,129	5	11,909	1	34,485	15
X I. 消化器系の疾患 ※	514,242,107	8.1%	4	99,330	3	10,694	2	48,087	10
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	121,227,253	1.9%	13	31,702	9	6,599	9	18,371	19
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	501,380,354	7.9%	6	69,941	4	8,131	5	61,663	8
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	481,604,743	7.6%	7	25,363	12	4,496	12	107,118	5
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	35,211,960	0.6%	17	680	20	243	19	144,905	3
X VI. 周産期に発生した病態 ※	37,159,571	0.6%	16	159	21	86	21	432,088	1
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	29,266,968	0.5%	19	5,062	18	753	18	38,867	13
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	100,191,683	1.6%	14	32,844	8	6,945	7	14,426	20
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	183,398,839	2.9%	12	13,799	14	4,451	13	41,204	12
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	16,766,120	0.3%	20	6,038	17	819	17	20,471	18
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	7,193,258	0.1%	21	724	19	195	20	36,889	14
合計	6,343,371,790			334,612		21,000		302,065	

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。  
 ※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。  
 ※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

疾病項目別の医療費構成比は、生活習慣病を起因とする「循環器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」の医療費で27.2%を占める。

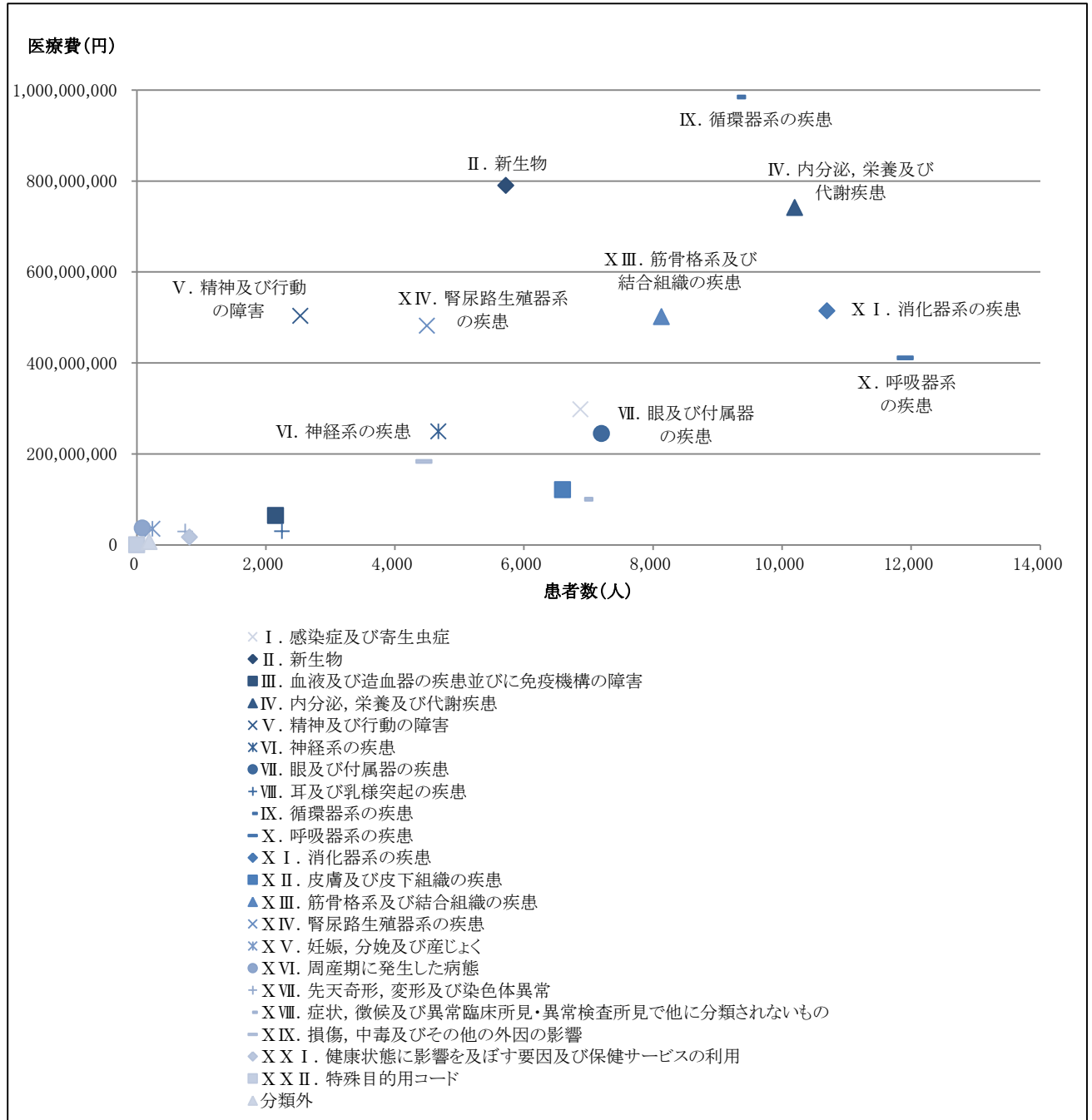
疾病項目別医療費構成比



- IX. 循環器系の疾患
- II. 新生物
- IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
- XI. 消化器系の疾患
- V. 精神及び行動の障害
- XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患
- XIV. 腎尿路生殖器系の疾患
- X. 呼吸器系の疾患
- I. 感染症及び寄生虫症
- VI. 神経系の疾患
- その他

疾病項目毎の医療費、及び患者数をグラフにて示す。

大分類による疾病別医療費統計 グラフ

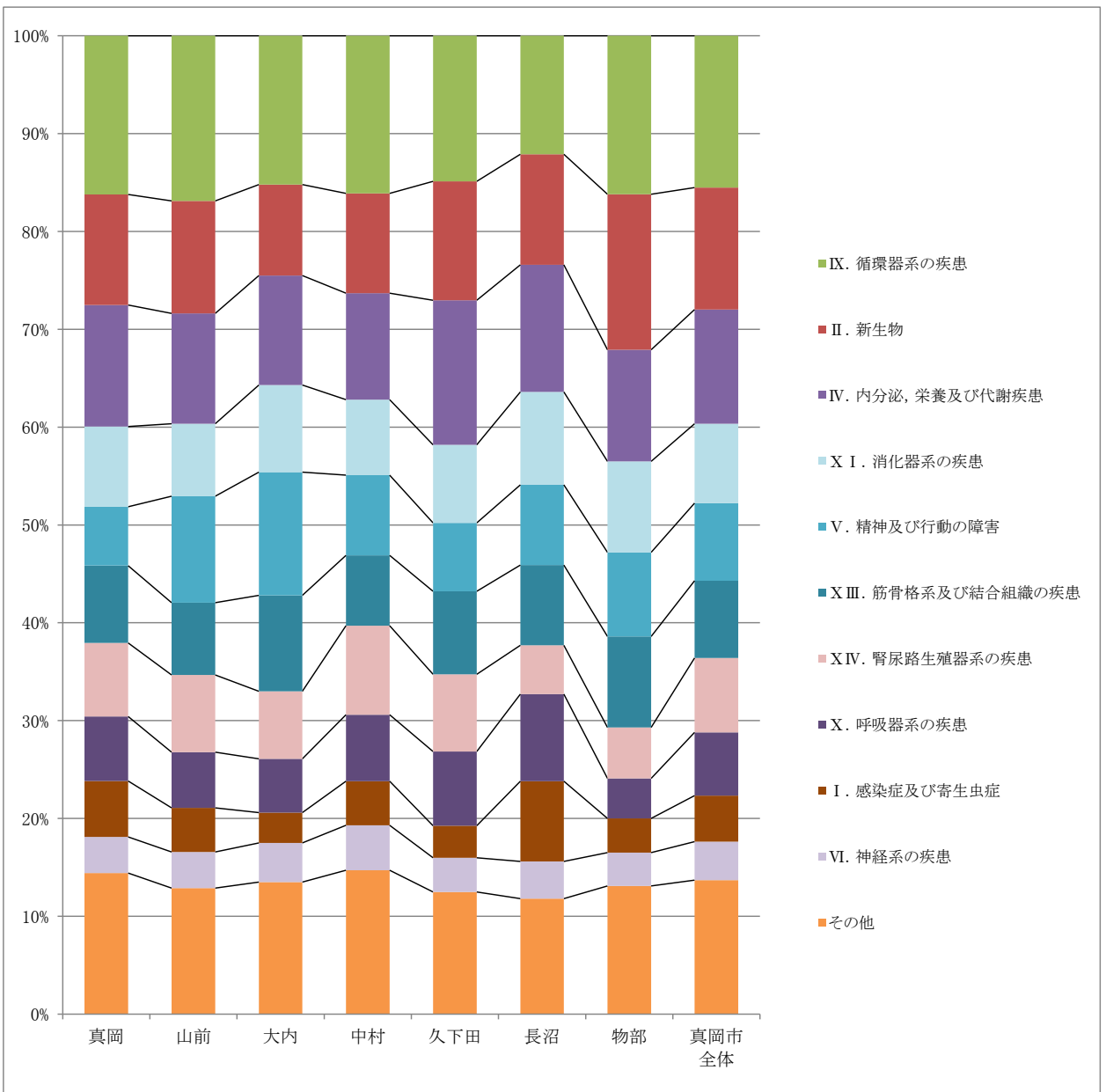




(ii) 地区別の医療費構成比の比較

真岡市を7つの地区に区分し医療費構成比を比較すると、若干違いはあるが、ほとんどの地区で1位は循環器系疾患である。2位、3位には内分泌の疾患、新生物があがっている。

医療費割合	真岡	山前	大内	中村	久下田	長沼	物部	真岡市全体
IX. 循環器系の疾患	16.2	16.9	15.2	16.1	14.9	12.1	16.2	15.5%
II. 新生物	11.3	11.5	9.3	10.2	12.2	11.3	15.9	12.5%
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	12.4	11.3	11.2	10.9	14.8	13	11.4	11.7%
X I. 消化器系の疾患	8.2	7.4	8.9	7.7	8	9.5	9.3	8.1%
V. 精神及び行動の障害	6	10.9	12.6	8.2	7	8.2	8.6	7.9%
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	7.9	7.4	9.8	7.2	8.5	8.2	9.3	7.9%
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	7.5	7.9	6.9	9.1	7.9	5	5.2	7.6%
X. 呼吸器系の疾患	6.6	5.7	5.5	6.8	7.6	8.9	4.1	6.5%
I. 感染症及び寄生虫症	5.7	4.5	3.1	4.5	3.3	8.2	3.5	4.7%
VI. 神経系の疾患	3.7	3.7	4	4.6	3.5	3.8	3.4	3.9%
その他	14.4	12.9	13.5	14.7	12.5	11.8	13.1	13.7%
合計	100	100	100	100	100	100	100	100



## ②中分類による疾病別医療費統計

### (i)真岡市国民健康保険全体

疾病中分類毎に集計し、医療費、患者数、患者一人当たりの医療費、各項目の上位10疾病を示す。

#### 中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0901	高血圧性疾患	420,125,884	6.6%	7,003
2	0402	糖尿病	386,625,723	6.1%	6,479
3	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	328,480,469	5.2%	7,650
4	1402	腎不全	328,337,249	5.2%	381
5	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	308,725,698	4.9%	622
6	0210	その他の悪性新生物	284,781,804	4.5%	2,156
7	1112	その他の消化器系の疾患	253,934,471	4.0%	6,735
8	0903	その他の心疾患	175,174,630	2.8%	2,937
9	0105	ウイルス肝炎	166,518,325	2.6%	956
10	0606	その他の神経系の疾患	155,085,571	2.4%	4,246

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

#### 中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	328,480,469	7,650	36.4%
2	0901	高血圧性疾患	420,125,884	7,003	33.3%
3	1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	100,191,683	6,945	33.1%
4	1112	その他の消化器系の疾患	253,934,471	6,735	32.1%
5	0402	糖尿病	386,625,723	6,479	30.9%
6	1003	その他の急性上気道感染症	35,623,540	5,603	26.7%
7	1105	胃炎及び十二指腸炎	83,930,896	5,526	26.3%
8	0703	屈折及び調節の障害	30,946,138	5,497	26.2%
9	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	48,370,187	5,261	25.1%
10	1006	アレルギー性鼻炎	61,398,688	5,162	24.6%

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

中分類による疾病別統計(患者一人当たりの医療費が高額な上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人)	患者一人当たりの 医療費(円) ※
1	1402	腎不全	328,337,249	381	861,778
2	0209	白血病	27,274,513	40	681,863
3	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	308,725,698	622	496,344
4	1602	その他の周産期に発生した病態	24,413,722	65	375,596
5	1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	12,745,849	41	310,874
6	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	39,252,948	128	306,664
7	0208	悪性リンパ腫	19,073,720	88	216,747
8	0601	パーキンソン病	28,534,335	159	179,461
9	0205	気管, 気管支及び肺の悪性新生物	85,068,460	485	175,399
10	0105	ウイルス肝炎	166,518,325	956	174,182

※患者一人当たりの医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

中分類による疾病別医療費統計(全項目)

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。  
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※			レセプト件数 ※			患者数 ※		
	6,343,371,790			334,612			21,000		

疾病項目	医療費総計 (円) ※			レセプト件数 (延べ件数) ※			患者数 (延べ人数) ※			患者一人 当たりの 医療費 (円)	
	構成比 (%)	順位		構成比 (%)	順位		構成比 (%)	順位		順位	
<b>I. 感染症及び寄生虫症</b>	297,993,412	4.7%		27,033	8.1%		6,875	32.7%		43,344	
0101 腸管感染症	20,329,018	0.3%		6,981	2.1%		2,588	12.3%		7,855	
0102 結核	3,131,919	0.0%		586	0.2%		190	0.9%		16,484	
0103 主として性的伝播様式をとる感染症	2,925,811	0.0%		1,474	0.4%		709	3.4%		4,127	
0104 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患	18,967,789	0.3%		4,147	1.2%		1,348	6.4%		14,071	
0105 ウイルス肝炎	166,518,325	2.6%	9	4,282	1.3%		956	4.6%		174,182	10
0106 その他のウイルス疾患	16,304,248	0.3%		834	0.2%		359	1.7%		45,416	
0107 真菌症	36,397,998	0.6%		6,417	1.9%		1,730	8.2%		21,039	
0108 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	130,602	0.0%		122	0.0%		20	0.1%		6,530	
0109 その他の感染症及び寄生虫症	33,287,702	0.5%		5,515	1.6%		1,692	8.1%		19,674	
<b>II. 新生物</b>	790,018,944	12.5%		21,903	6.5%		5,718	27.2%		138,164	
0201 胃の悪性新生物	70,665,791	1.1%		3,649	1.1%		1,343	6.4%		52,618	
0202 結腸の悪性新生物	63,428,697	1.0%		3,050	0.9%		1,097	5.2%		57,820	
0203 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	39,252,948	0.6%		628	0.2%		128	0.6%		306,664	6
0204 肝及び肝内胆管の悪性新生物	39,079,074	0.6%		1,466	0.4%		419	2.0%		93,267	
0205 気管、気管支及び肺の悪性新生物	85,068,460	1.3%		1,631	0.5%		485	2.3%		175,399	9
0206 乳房の悪性新生物	64,425,132	1.0%		1,688	0.5%		415	2.0%		155,241	
0207 子宮の悪性新生物	17,966,023	0.3%		884	0.3%		369	1.8%		48,688	
0208 悪性リンパ腫	19,073,720	0.3%		496	0.1%		88	0.4%		216,747	7
0209 白血病	27,274,513	0.4%		253	0.1%		40	0.2%		681,863	2
0210 その他の悪性新生物	284,781,804	4.5%	6	8,402	2.5%		2,156	10.3%		132,088	
0211 良性新生物及びその他の新生物	79,002,782	1.2%		5,588	1.7%		2,456	11.7%		32,167	
<b>III. 血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害</b>	64,407,484	1.0%		8,361	2.5%		2,151	10.2%		29,943	
0301 貧血	29,139,747	0.5%		6,043	1.8%		1,530	7.3%		19,046	
0302 その他の血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害	35,267,737	0.6%		2,837	0.8%		938	4.5%		37,599	
<b>IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患</b>	741,290,621	11.7%		119,343	35.7%		10,196	48.6%		72,704	
0401 甲状腺障害	26,184,429	0.4%		5,766	1.7%		1,127	5.4%		23,234	
0402 糖尿病	386,625,723	6.1%	2	57,401	17.2%	4	6,479	30.9%	5	59,674	
0403 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	328,480,469	5.2%	3	88,495	26.4%	2	7,650	36.4%	1	42,939	
<b>V. 精神及び行動の障害</b>	503,250,422	7.9%		25,897	7.7%		2,536	12.1%		198,443	
0501 血管性及び詳細不明の認知症	1,124,643	0.0%		105	0.0%		43	0.2%		26,154	
0502 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	8,540,406	0.1%		459	0.1%		90	0.4%		94,893	
0503 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	308,725,698	4.9%	5	7,590	2.3%		622	3.0%		496,344	3
0504 気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	109,727,469	1.7%		11,318	3.4%		908	4.3%		120,845	
0505 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	34,041,734	0.5%		15,378	4.6%		1,614	7.7%		21,092	

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。  
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※	患者数 ※
	6,343,371,790	334,612	21,000

疾病項目	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 (延べ件数) ※	構成比 (%)	順位	患者数 (延べ人数) ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
	0506	知的障害<精神遅滞>	2,854,840	0.0%	63	0.0%		35	0.2%		81,567
0507	その他の精神及び行動の障害	38,235,632	0.6%	1,599	0.5%		241	1.1%		158,654	
VI.	神経系の疾患	249,506,622	3.9%	49,620	14.8%		4,675	22.3%		53,370	
0601	パーキンソン病	28,534,335	0.4%	2,027	0.6%		159	0.8%		179,461	8
0602	アルツハイマー病	15,345,257	0.2%	1,196	0.4%		107	0.5%		143,414	
0603	てんかん	32,805,345	0.5%	4,554	1.4%		449	2.1%		73,063	
0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	14,049,674	0.2%	398	0.1%		104	0.5%		135,093	
0605	自律神経系の障害	3,686,440	0.1%	2,539	0.8%		254	1.2%		14,514	
0606	その他の神経系の疾患	155,085,571	2.4%	43,742	13.1%	5	4,246	20.2%		36,525	
VII.	眼及び付属器の疾患	244,614,563	3.9%	36,323	10.9%		7,200	34.3%		33,974	
0701	結膜炎	18,920,888	0.3%	11,532	3.4%		3,052	14.5%		6,200	
0702	白内障	43,031,730	0.7%	10,558	3.2%		1,637	7.8%		26,287	
0703	屈折及び調節の障害	30,946,138	0.5%	28,368	8.5%	8	5,497	26.2%	8	5,630	
0704	その他の眼及び付属器の疾患	151,715,807	2.4%	26,542	7.9%	9	4,640	22.1%		32,697	
VIII.	耳及び乳様突起の疾患	29,620,183	0.5%	9,095	2.7%		2,250	10.7%		13,165	
0801	外耳炎	3,055,697	0.0%	3,630	1.1%		1,144	5.4%		2,671	
0802	その他の外耳疾患	2,772,184	0.0%	1,545	0.5%		721	3.4%		3,845	
0803	中耳炎	4,934,803	0.1%	1,683	0.5%		486	2.3%		10,154	
0804	その他の中耳及び乳様突起の疾患	2,802,111	0.0%	1,093	0.3%		342	1.6%		8,193	
0805	メニエール病	3,230,197	0.1%	1,360	0.4%		255	1.2%		12,667	
0806	その他の内耳疾患	7,422,082	0.1%	1,810	0.5%		394	1.9%		18,838	
0807	その他の耳疾患	5,403,109	0.1%	2,323	0.7%		619	2.9%		8,729	
IX.	循環器系の疾患	984,348,984	15.5%	124,732	37.3%		9,314	44.4%		105,685	
0901	高血圧性疾患	420,125,884	6.6%	106,897	31.9%	1	7,003	33.3%	2	59,992	
0902	虚血性心疾患	94,304,022	1.5%	16,119	4.8%		1,707	8.1%		55,245	
0903	その他の心疾患	175,174,630	2.8%	18,797	5.6%		2,937	14.0%		59,644	
0904	くも膜下出血	15,165,912	0.2%	279	0.1%		92	0.4%		164,847	
0905	脳内出血	36,979,258	0.6%	1,080	0.3%		335	1.6%		110,386	
0906	脳梗塞	114,339,893	1.8%	14,359	4.3%		1,377	6.6%		83,036	
0907	脳動脈硬化	562,938	0.0%	108	0.0%		34	0.2%		16,557	
0908	その他の脳血管疾患	46,157,448	0.7%	2,402	0.7%		437	2.1%		105,623	
0909	動脈硬化	8,850,323	0.1%	2,423	0.7%		505	2.4%		17,525	
0910	痔核	7,858,199	0.1%	2,078	0.6%		445	2.1%		17,659	
0911	低血圧	1,284,985	0.0%	496	0.1%		72	0.3%		17,847	
0912	その他の循環器系の疾患	63,545,492	1.0%	6,597	2.0%		978	4.7%		64,975	
X.	呼吸器系の疾患	410,677,699	6.5%	66,129	19.8%		11,909	56.7%		34,485	
1001	急性鼻咽喉炎[かぜ]<感冒>	4,318,693	0.1%	3,666	1.1%		1,321	6.3%		3,269	
1002	急性咽喉炎及び急性扁桃炎	15,804,002	0.2%	9,005	2.7%		3,244	15.4%		4,872	
1003	その他の急性上気道感染症	35,623,540	0.6%	18,346	5.5%		5,603	26.7%	6	6,358	
1004	肺炎	42,371,017	0.7%	2,718	0.8%		1,088	5.2%		38,944	
1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	48,370,187	0.8%	19,190	5.7%		5,261	25.1%	9	9,194	

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。  
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※	患者数 ※
	6,343,371,790	334,612	21,000

疾病項目	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 (延べ件数) ※	構成比 (%)	順位	患者数 (延べ人数) ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位	
	1006	アレルギー性鼻炎	61,398,688	1.0%		23,083	6.9%		5,162	24.6%	10	11,894
1007	慢性副鼻腔炎	15,261,670	0.2%		7,612	2.3%		1,786	8.5%		8,545	
1008	急性又は慢性と明示されない 気管支炎	5,274,033	0.1%		2,863	0.9%		1,043	5.0%		5,057	
1009	慢性閉塞性肺疾患	27,045,797	0.4%		5,504	1.6%		770	3.7%		35,124	
1010	喘息	97,781,805	1.5%		15,111	4.5%		2,382	11.3%		41,050	
1011	その他の呼吸器系の疾患	57,428,267	0.9%		8,958	2.7%		3,193	15.2%		17,986	
X I. 消化器系の疾患		514,242,107	8.1%		99,330	29.7%		10,694	50.9%		48,087	
1101	う蝕 ※	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
1102	歯肉炎及び歯周疾患	51,745	0.0%		28	0.0%		12	0.1%		4,312	
1103	その他の歯及び歯の支持組織の 障害	75,690	0.0%		40	0.0%		19	0.1%		3,984	
1104	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	63,895,985	1.0%		24,925	7.4%	10	2,874	13.7%		22,232	
1105	胃炎及び十二指腸炎	83,930,896	1.3%		39,945	11.9%	6	5,526	26.3%	7	15,188	
1106	アルコール性肝疾患	4,715,988	0.1%		745	0.2%		117	0.6%		40,308	
1107	慢性肝炎 (アルコール性のものを除く)	8,481,351	0.1%		4,129	1.2%		466	2.2%		18,200	
1108	肝硬変 (アルコール性のものを除く)	11,661,191	0.2%		1,357	0.4%		190	0.9%		61,375	
1109	その他の肝疾患	33,726,894	0.5%		10,709	3.2%		2,666	12.7%		12,651	
1110	胆石症及び胆のう炎	41,883,302	0.7%		3,646	1.1%		724	3.4%		57,850	
1111	膵疾患	11,884,594	0.2%		2,735	0.8%		778	3.7%		15,276	
1112	その他の消化器系の疾患	253,934,471	4.0%	7	63,408	18.9%	3	6,735	32.1%	4	37,704	
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患		121,227,253	1.9%		31,702	9.5%		6,599	31.4%		18,371	
1201	皮膚及び皮下組織の感染症	16,573,728	0.3%		3,860	1.2%		1,427	6.8%		11,614	
1202	皮膚炎及び湿疹	58,139,840	0.9%		22,325	6.7%		4,847	23.1%		11,995	
1203	その他の皮膚及び 皮下組織の疾患	46,513,685	0.7%		12,668	3.8%		2,997	14.3%		15,520	
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患		501,380,354	7.9%		69,941	20.9%		8,131	38.7%		61,663	
1301	炎症性多発性関節障害	61,681,589	1.0%		11,108	3.3%		1,248	5.9%		49,424	
1302	関節症	82,551,824	1.3%		15,047	4.5%		1,899	9.0%		43,471	
1303	脊椎障害(脊椎症を含む)	98,407,594	1.6%		13,349	4.0%		1,888	9.0%		52,123	
1304	椎間板障害	21,404,367	0.3%		3,462	1.0%		614	2.9%		34,861	
1305	頰腕症候群	9,329,669	0.1%		6,076	1.8%		941	4.5%		9,915	
1306	腰痛症及び坐骨神経痛	53,178,026	0.8%		24,903	7.4%		3,551	16.9%		14,976	
1307	その他の脊柱障害	22,322,577	0.4%		1,778	0.5%		378	1.8%		59,054	
1308	肩の傷害<損傷>	19,203,458	0.3%		10,178	3.0%		1,406	6.7%		13,658	
1309	骨の密度及び構造の障害	69,942,751	1.1%		13,883	4.1%		1,338	6.4%		52,274	
1310	その他の筋骨格系及び 結合組織の疾患	63,358,499	1.0%		16,105	4.8%		3,055	14.5%		20,739	
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患		481,604,743	7.6%		25,363	7.6%		4,496	21.4%		107,118	
1401	糸球体疾患及び 腎尿管間質性疾患	25,052,423	0.4%		3,213	1.0%		657	3.1%		38,132	
1402	腎不全	328,337,249	5.2%	4	4,195	1.3%		381	1.8%		861,778	1
1403	尿路結石症	16,302,606	0.3%		1,478	0.4%		409	1.9%		39,860	

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。  
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※	患者数 ※
	6,343,371,790	334,612	21,000

疾病項目	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 (延べ件数) ※	構成比 (%)	順位	患者数 (延べ人数) ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
1405	前立腺肥大	42,532,953	0.7%	7,425	2.2%		752	3.6%		56,560	
1406	その他の男性生殖器の疾患	3,399,712	0.1%	804	0.2%		227	1.1%		14,977	
1407	月経障害及び閉経周辺期障害	5,033,668	0.1%	1,535	0.5%		364	1.7%		13,829	
1408	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	20,198,292	0.3%	2,454	0.7%		1,153	5.5%		17,518	
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく		35,211,960	0.6%	680	0.2%		243	1.2%		144,905	
1501	流産	2,347,969	0.0%	70	0.0%		37	0.2%		63,459	
1502	妊娠高血圧症候群	1,204,926	0.0%	25	0.0%		9	0.0%		133,881	
1503	単胎自然分娩	0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%		0	
1504	その他の妊娠, 分娩及び産じょく	31,659,065	0.5%	626	0.2%		230	1.1%		137,648	
X VI. 周産期に発生した病態		37,159,571	0.6%	159	0.0%		86	0.4%		432,088	
1601	妊娠及び胎児発育に 関連する障害	12,745,849	0.2%	78	0.0%		41	0.2%		310,874	5
1602	その他の周産期に発生した病態	24,413,722	0.4%	100	0.0%		65	0.3%		375,596	4
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常		29,266,968	0.5%	5,062	1.5%		753	3.6%		38,867	
1701	心臓の先天奇形	5,385,634	0.1%	145	0.0%		46	0.2%		117,079	
1702	その他の先天奇形, 変形及び染色体異常	23,881,334	0.4%	4,941	1.5%		716	3.4%		33,354	
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床 所見・異常検査所見で他に分類 されないもの		100,191,683	1.6%	32,844	9.8%		6,945	33.1%		14,426	
1800	症状, 徴候及び異常臨床 所見・異常検査所見で他に分類 されないもの	100,191,683	1.6%	32,844	9.8%	7	6,945	33.1%	3	14,426	
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響		183,398,839	2.9%	13,799	4.1%		4,451	21.2%		41,204	
1901	骨折	73,163,188	1.2%	3,279	1.0%		814	3.9%		89,881	
1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	6,662,578	0.1%	208	0.1%		116	0.6%		57,436	
1903	熱傷及び腐食	936,950	0.0%	253	0.1%		109	0.5%		8,596	
1904	中毒	3,546,728	0.1%	909	0.3%		455	2.2%		7,795	
1905	その他の損傷及びその他の外因 の影響	99,089,395	1.6%	10,128	3.0%		3,636	17.3%		27,252	
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因 及び保健サービスの利用		16,766,120	0.3%	6,038	1.8%		819	3.9%		20,471	
2101	検査及び診査のための保健 サービスの利用者	37,368	0.0%	11	0.0%		7	0.0%		5,338	
2102	予防接種	0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%		0	
2103	正常妊娠及び産じょくの管理 並びに家族計画	42,539	0.0%	12	0.0%		7	0.0%		6,077	
2104	歯の補てつ	0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%		0	
2105	特定の処置(歯の補てつを 除く)及び保健ケアのための保健 サービスの利用者	34,854	0.0%	6	0.0%		3	0.0%		11,618	
2106	その他の理由による保健サービス の利用者	16,651,359	0.3%	6,009	1.8%		803	3.8%		20,736	

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。  
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※	患者数 ※
	6,343,371,790	334,612	21,000

疾病項目	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 (延べ件数) ※	構成比 (%)	順位	患者数 (延べ人数) ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
	X X II . 特殊目的用コード	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0
2210 重症急性呼吸器症候群[SARS]	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
2220 その他の特殊目的用コード	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
分類外	7,193,258	0.1%		724	0.2%		195	0.9%		36,889	
9999 分類外	7,193,258	0.1%		724	0.2%		195	0.9%		36,889	

※医療費総計…中分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※う蝕…「う蝕」等歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。



#### (4) 医療機関受診状況の把握

医療機関への過度な受診の可能性がある、重複、頻回受診者数を以下に示す。また、同一薬効の医薬品を重複して処方されている重複服薬者数を以下に示す。

##### 重複受診者数

	平成27年4月	平成27年5月	平成27年6月	平成27年7月	平成27年8月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月
重複受診者数(人) ※	16	21	12	12	9	11	12	21	20	13	19	22
12カ月間の延べ人数											188	
12カ月間の実人数											154	

※重複受診者数…1カ月間に同系の疾病を理由に、3医療機関以上受診している人を対象とする。透析中、治療行為を行っていないレセプトは対象外とする。

##### 頻回受診者数

	平成27年4月	平成27年5月	平成27年6月	平成27年7月	平成27年8月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月
頻回受診者数(人) ※	38	28	51	47	40	33	44	48	36	31	34	45
12カ月間の延べ人数											475	
12カ月間の実人数											189	

※頻回受診者数…1カ月間に12回以上受診している患者を対象とする。透析患者は対象外とする。

##### 重複服薬者数

	平成27年4月	平成27年5月	平成27年6月	平成27年7月	平成27年8月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月
重複服薬者数(人) ※	12	52	50	50	47	65	60	62	68	69	61	80
12カ月間の延べ人数											676	
12カ月間の実人数											352	

※重複服薬者数…1カ月間に、同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える患者を対象とする。

## (5) 人工透析患者の実態

長期化し、高額な医療費が発生する人工透析患者の分析を行った。「透析」は傷病名ではないため、「透析」にあたる診療行為が行われている患者を特定し、集計した(データ化範囲期間内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計し、現時点で資格喪失している被保険者についても集計した。緊急透析と思われる患者は除く)。

分析の結果、起因が明らかとなった患者のうち、75.3%が生活習慣病を起因とするものであり、その74.0%が糖尿病を起因として透析となる、糖尿病性腎症であることが分かった。

対象レセプト期間内で「透析」に関する診療行為が行われている患者数

透析療法の種類	透析患者数 (人)
血液透析のみ	76
腹膜透析のみ	0
血液透析及び腹膜透析	1
透析患者合計	77

次に人工透析に至った起因を、平成27年4月～平成28年3月診療分の12カ月分のレセプトに記載されている傷病名から判定した。但し、レセプトに「腎不全」や「慢性腎不全」のみの記載しかない場合は、起因が特定できない患者となる。

人工透析患者77人のうち、生活習慣を起因とする疾病から人工透析に至ったと考えられる患者は58人である。

透析患者の起因

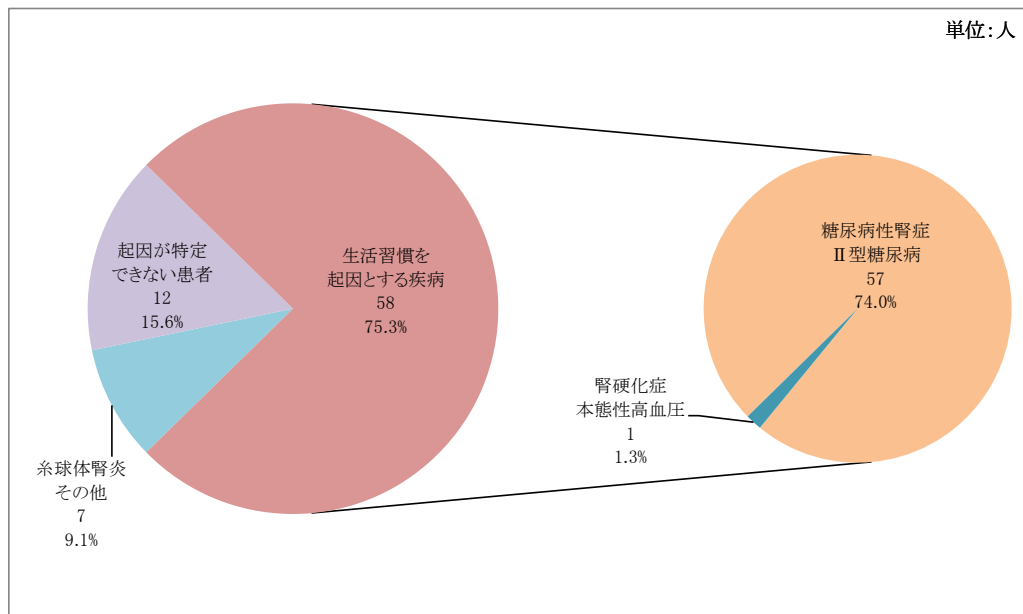
透析に至った起因	透析患者数 (人)	割合 ※ (%)	生活習慣を 起因とする疾病	食事療法等指導することで 重症化を遅延できる 可能性が高い疾病
① 糖尿病性腎症 II型糖尿病	57	74.0%	●	●
② 糸球体腎炎 その他	7	9.1%	-	●
③ 腎硬化症 本態性高血圧	1	1.3%	●	●
④ 起因が特定できない患者 ※	12	15.6%	-	-
透析患者合計	77			

※割合…小数第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

※④起因が特定できない患者…①～③の傷病名組み合わせに該当しない患者。

④起因が特定できない患者12人のうち高血圧症が確認できる患者は11人、高血圧性心疾患が確認できる患者は0人、痛風が確認できる患者は0人。高血圧症、高血圧性心疾患、痛風のいずれも確認できない患者は1人。複数の疾病を持つ患者がいるため、合計人数は一致しない。

## 透析患者の起因



※割合…小数第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

次に、人工透析患者77人を対象に、以下の通り医療費を分析した。平成27年4月～平成28年3月診療分の12カ月分での患者一人当たりの医療費平均は517万円程度、このうち透析関連の医療費が489万円程度、透析関連以外の医療費が28万円程度である。

## 透析患者の医療費

透析患者の起因	透析患者数 (人)	割合 (%)	医療費 (円)			医療費 (円) 【一人当たり】			医療費 (円) 【一人当たりひと月当たり】		
			透析関連	透析関連以外	合計	透析関連	透析関連以外	合計	透析関連	透析関連以外	合計
① 糖尿病性腎症 II型糖尿病	57	74.0%	275,280,810	16,637,990	291,918,800	4,829,488	291,895	5,121,382	402,457	24,325	426,782
② 糸球体腎炎 その他	7	9.1%	22,879,830	3,630,410	26,510,240	3,268,547	518,630	3,787,177	272,379	43,219	315,598
③ 腎硬化症 本態性高血圧	1	1.3%	4,789,990	97,420	4,887,410	4,789,990	97,420	4,887,410	399,166	8,118	407,284
④ 起因为特定できない患者 ※	12	15.6%	73,792,490	1,431,970	75,224,460	6,149,374	119,331	6,268,705	512,448	9,944	522,392
透析患者全体	77		376,743,120	21,797,790	398,540,910						
患者一人当たり医療費平均			4,892,768	283,088	5,175,856						
患者一人当たりひと月当たり医療費平均			407,731	23,591	431,321						

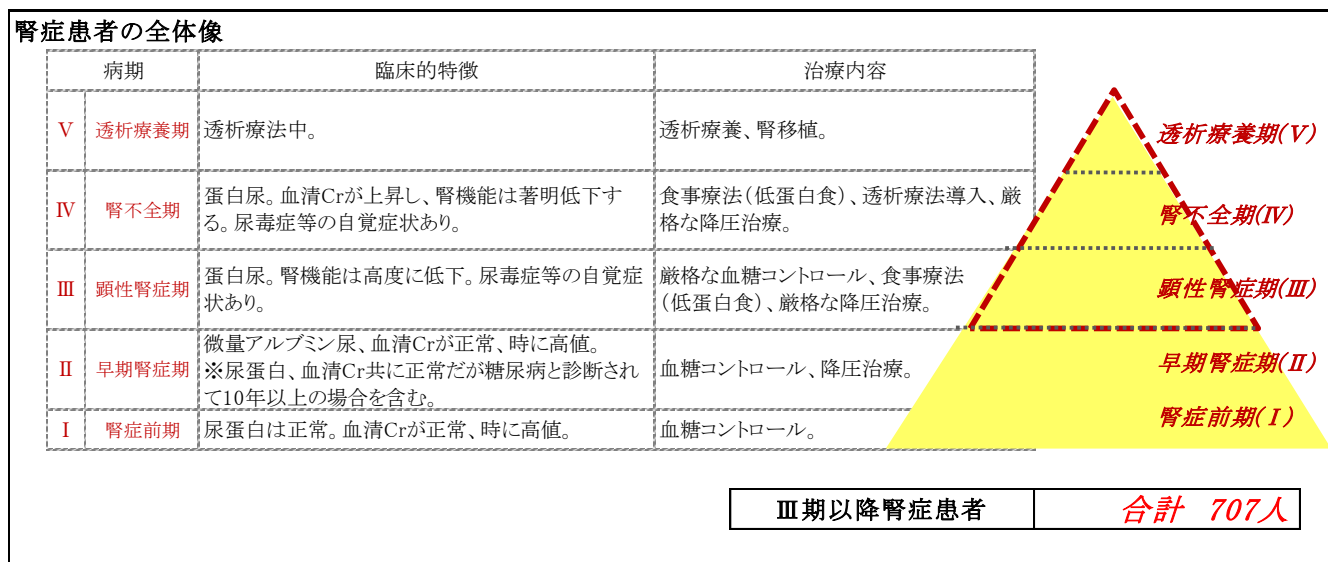
※④起因为特定できない患者…①～③の傷病名組み合わせに該当しない患者。

## (6) 糖尿病性腎症重症化予防対象者分析

「腎症の起因分析と指導対象者適合分析」「Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者」「保健指導対象者の優先順位」の3段階を経て分析し、適切な対象者集団を特定する。

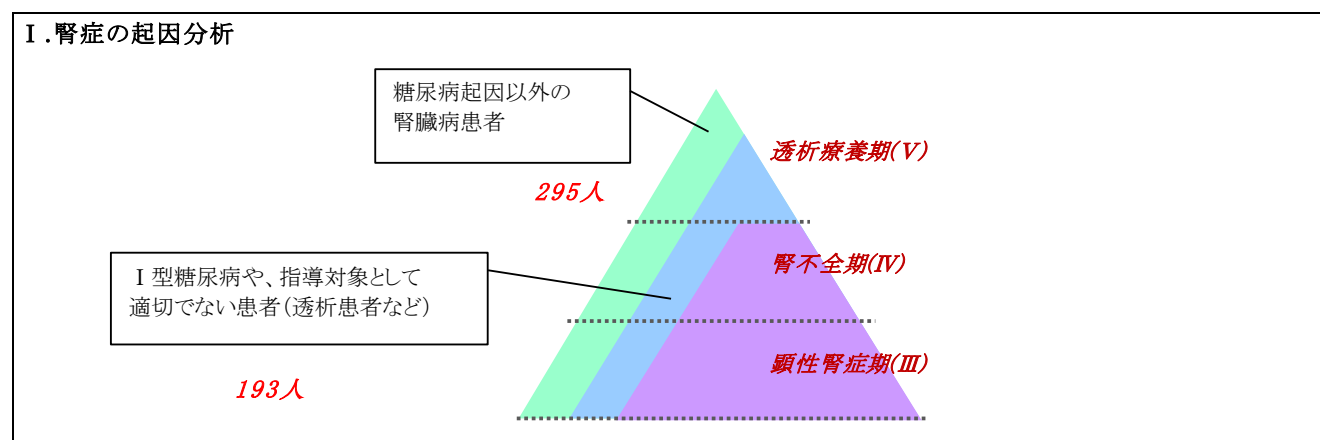
その結果、腎症患者707人中159人の適切な指導対象者を特定した。腎症患者の全体像を以下に示す。

### 腎症患者の全体像



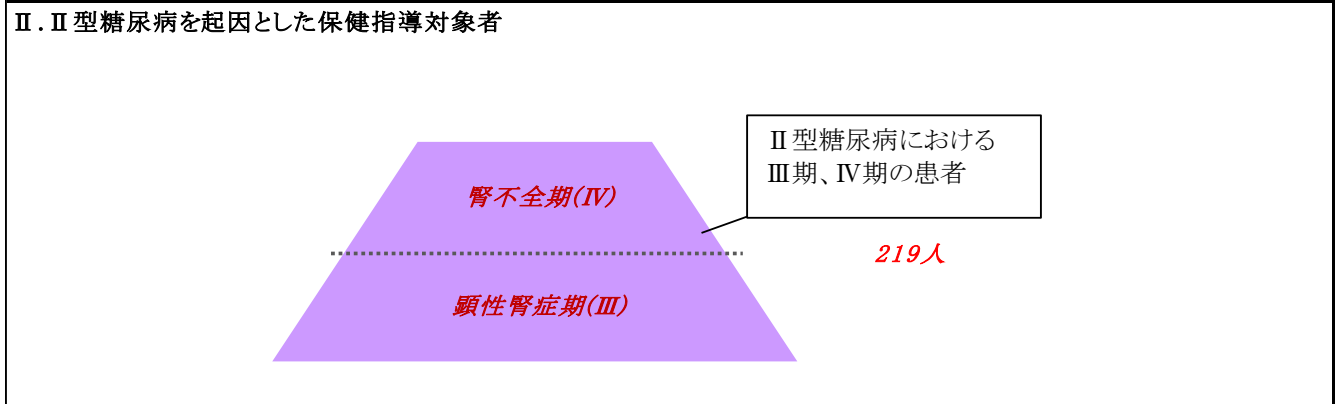
次に「腎症の起因分析と指導対象者適合分析」を以下に示す。緑色部分は糖尿病起因以外の腎臓病患者と考えられ、295人の患者が存在する。また、青色部分は糖尿病患者であるが、生活習慣を起因としていない糖尿病患者や、指導対象として適切でない患者(透析患者、腎臓移植した可能性がある患者、すでに資格喪失している等)と考えられ、193人の患者が存在する。紫色部分は生活習慣起因の糖尿病または腎症と考えられる患者で、この患者層が保健指導対象者として適切となる。

### 腎症の起因分析と指導対象者適合分析



次に「Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者」を以下の通り示す。腎不全期または顕性腎症期の患者は合わせて219人となった。重症化予防を実施するに当たり、適切な病期は、透析への移行が近い腎不全期、腎機能が急激に低下する顕性腎症期となる。

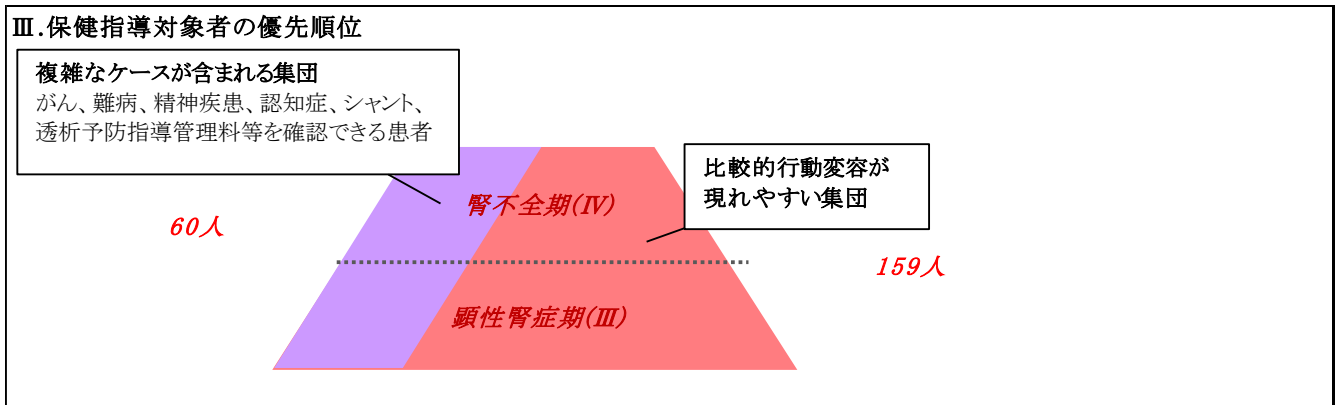
## Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者



次に個人毎の状態を見極め、「保健指導対象者の優先順位」について分析した。219人のうち「複雑なケースが含まれる集団」、つまり、癌、難病、精神疾患、認知症等が含まれる患者は、60人存在する。

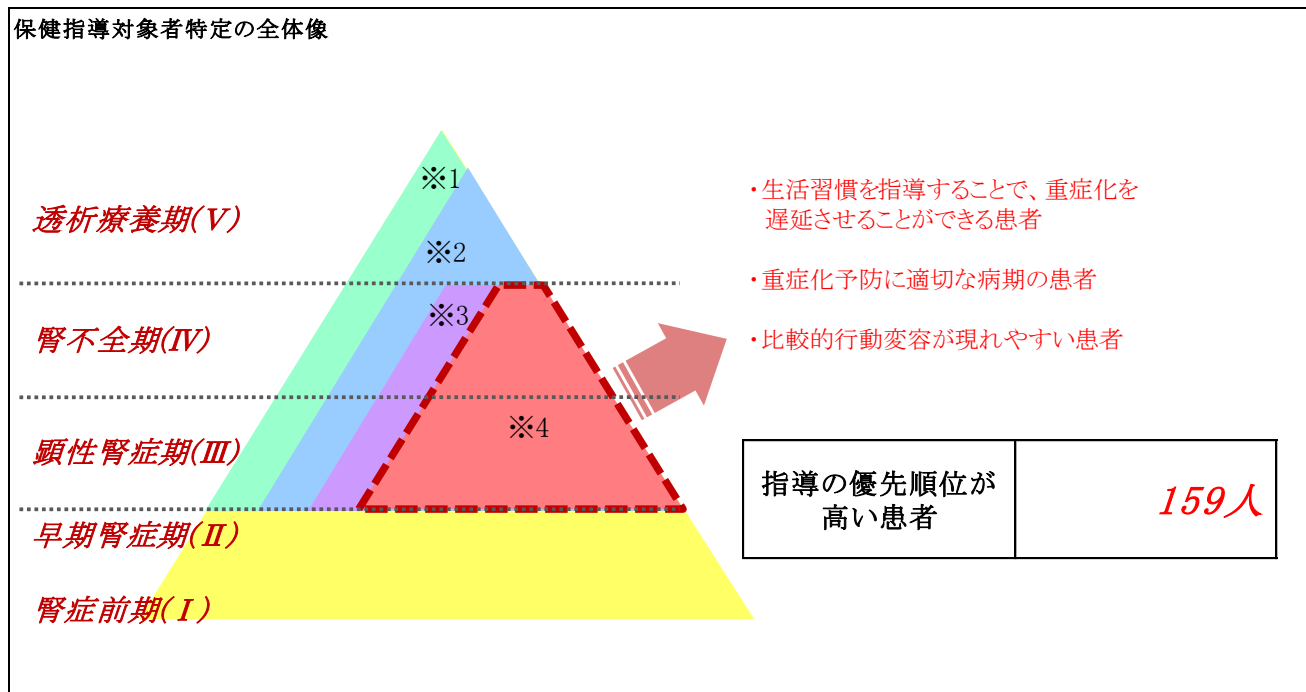
一方、それらの疾病が確認できない「比較的行動変容が現れやすい集団」は、159人存在する。保健事業を行う上で、これら2つのグループには費用対効果に大きな違いがある。「比較的行動変容が現れやすい集団」が本事業の対象者である。

## 保健指導対象者の優先順位



以上の分析のように「腎症の起因分析と指導対象者適合分析」「Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者」「保健指導対象者の優先順位」の3ステップを踏まえ、適切な指導対象者は、159人となった。この分析の全体像を以下に示す。

### 保健指導対象者特定の全体像



※1…糖尿病起因以外の腎臓病患者

※2…Ⅰ型糖尿病や、指導対象として適切でない患者(透析患者など)

※3…複雑なケースが含まれる集団(がん、難病、精神疾患、認知症等を確認できる患者)

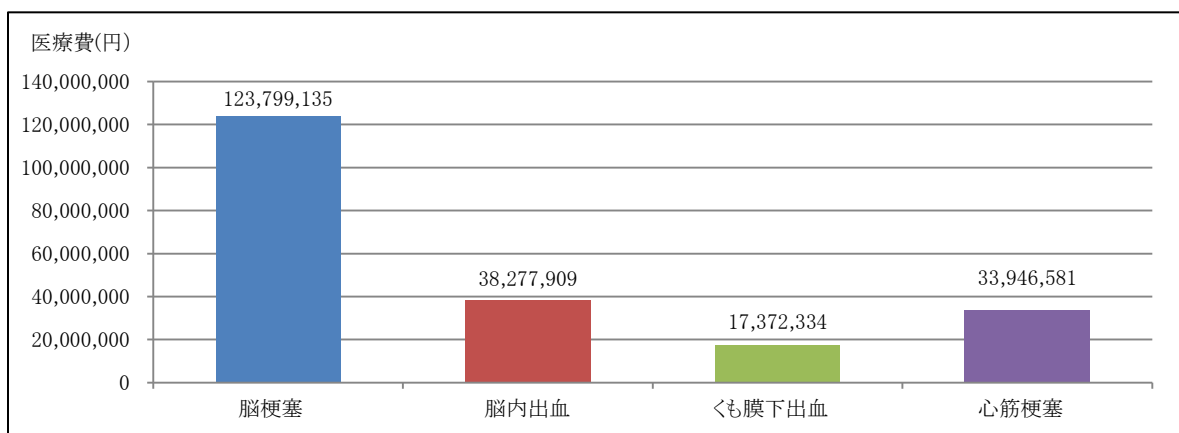
※4…比較的行動変容が現れやすい患者

## (7)脳卒中・心筋梗塞の疾病別医療費及び患者数

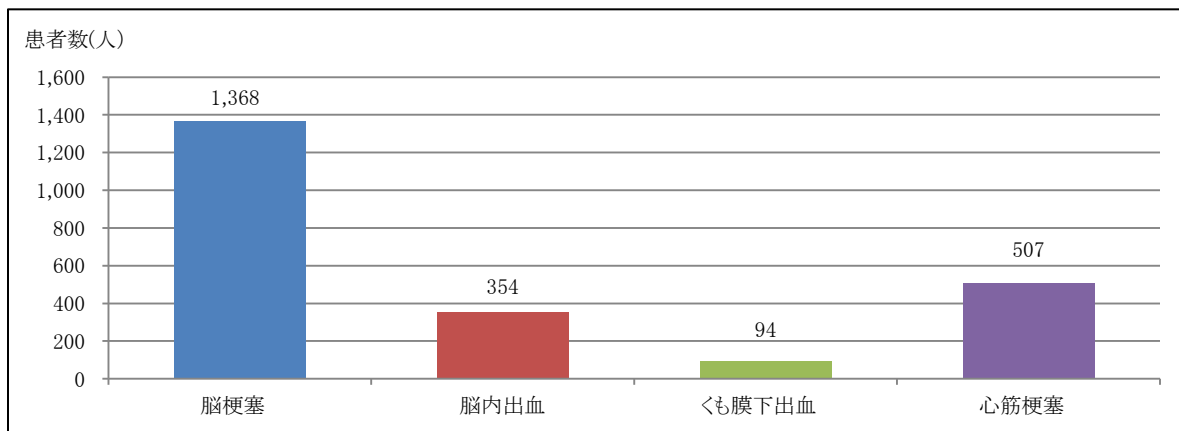
厚生労働省「平成25年人口動態統計月報年計」において死亡率の高い疾病第2位の心疾患、第4位の脳血管疾患に関して分析を行う。脳卒中においては後遺症が残る恐れがあり、厚生労働省「平成25年 国民生活基礎調査」において要介護者となった主な原因の第1位となっている。

再発率が高く、治療完了後の生活習慣の改善が必要となる脳卒中(脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血)・心筋梗塞における医療費合計は、213,395,959円、患者数2,323人である。特に脳梗塞が多く、医療費は、123,799,135円で、患者数は1,368人である。

脳卒中(脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血)、心筋梗塞における医療費



脳卒中(脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血)、心筋梗塞における患者数



疾病分類	医療費(円)	患者数 ※ (人)	一人当たり 医療費(円)
脳梗塞	123,799,135	1,368	90,496
脳内出血	38,277,909	354	108,130
くも膜下出血	17,372,334	94	184,812
心筋梗塞	33,946,581	507	66,956
合計	213,395,959	2,323	91,862

データ化範囲(分析対象)期間内に「脳卒中」もしくは「心筋梗塞」に関する診療行為がある患者を対象に集計。

※中分類による疾病別医療費統計の分析結果と一致しないのは、「0908その他の脳血管疾患」の分類内訳を「脳梗塞」「脳内出血」「くも膜下出血」に振り分けたため、一致しない。

※患者数…一人の患者に複数の傷病名が確認できるため、合計は一致しない。

## (8) COPD患者の実態

COPD(慢性閉塞性肺疾患)は、主に長期の喫煙によってもたらされる肺の炎症性疾患で咳・痰・息切れ等の症状があり、緩徐に呼吸障害が進行する疾患である。世界的にみるとCOPDによる死亡者は年間300万人と推定され、死因順位4位である。日本においてもCOPDによる死亡者は増加傾向にあり、2010年は1万6千人以上となり死因順位9位である。日本の煙草消費量は近年減少傾向にあるが、過去の喫煙習慣による長期的な影響と急速な高齢化により、今後さらに罹患率、有病率、死亡率の増加が続くと予想される。

日本における40歳以上のCOPD患者は、530万人と推定されているが、実際に治療を行っている患者は約26万1千人に過ぎない。認知度の低さから医療機関にかからないまま重症化しており、早期発見ができていないと推測される。

COPDの認知度を向上させるため、医療機関と連携し、ハイリスク者への医療機関受診勧奨を行い、早期発見を促す必要がある。

ここでは「COPD患者の実態と潜在患者」「COPDの認知度及び医療機関の現状」「早期発見に向けた啓発事業」「成果の確認方法」について述べる。

### ①COPD患者の実態と潜在患者

COPD患者の実態と潜在患者について以下の通り示す。日本においてCOPDの治療を行っている患者は約26万1千人、それに対して潜在患者は530万人と推定されている。一方、真岡市国民健康保険の被保険者を対象に平成27年4月～平成28年3月診療分の12カ月分で分析したところ、治療を行っている患者は213人であった。真岡市国民健康保険被保険者に換算すると、潜在患者は1,445人程度と想定する。

#### COPD患者の治療状況と潜在患者数

治療状況	治療患者数	潜在患者数
日本	26万1千人 ※	推定530万人 ※
真岡市国民健康保険 被保険者 ※	213人 内訳: 男性143人(67%)、女性70人(33%)	推定1,445人

※真岡市国民健康保険被保険者…平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)のレセプトによる調査。薬物療法が発生している患者のみ。

参考資料

※治癒患者数…平成26年患者調査(総患者数, 性・年齢階層×傷病小分類別)

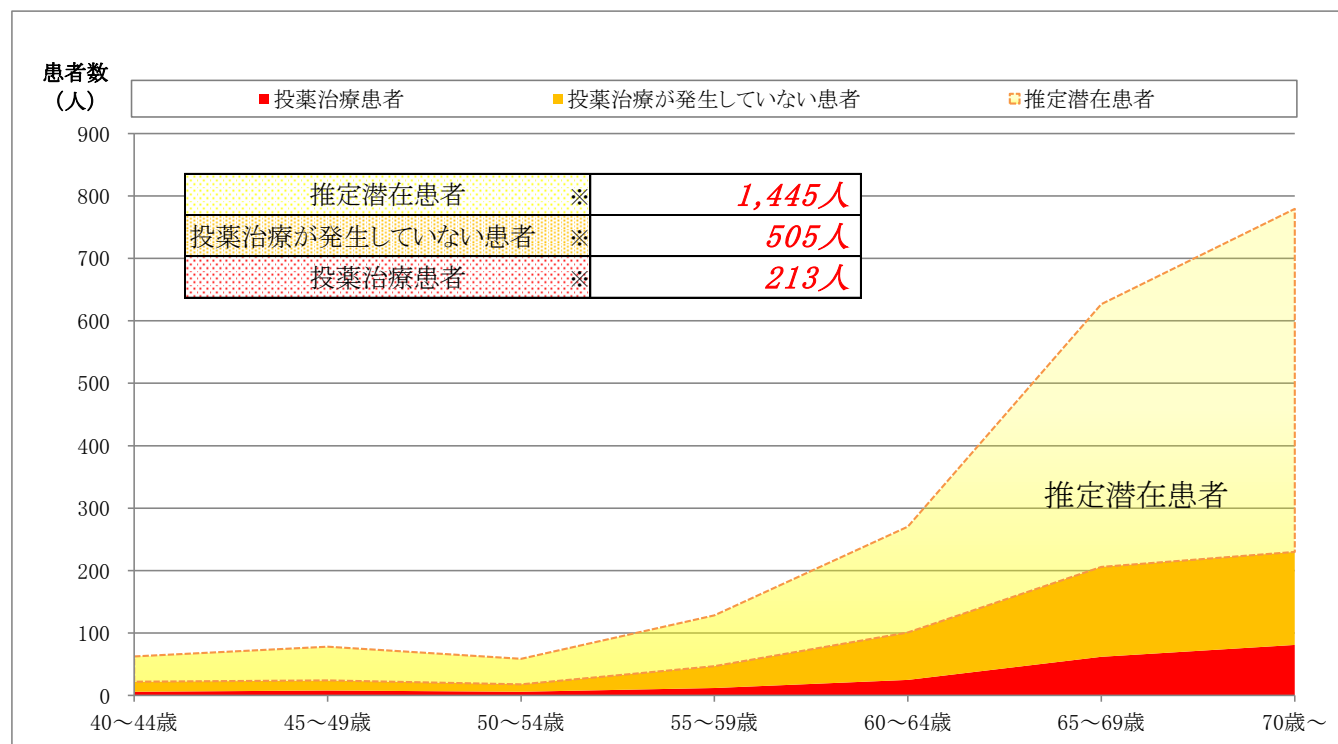
[http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?\\_toGL08020103\\_listID=000001141596](http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_listID=000001141596)(アクセス日:平成28年6月1日)

※潜在患者数…Fukuchi Y, et al, COPD in Japan: the Nippon COPD Epidemiology study, *Respirology*.2004Nov;9(4):458-65



以下の通り、COPD患者の年齢階層別「投薬治療患者」「投薬治療が発生していない患者」「推定潜在患者」を示す。

### COPD患者の治療状況と潜在患者数



※推定潜在患者…投薬治療患者の数に対し、日本の潜在患者数を参考に推定した患者数。  
 ※投薬治療が発生していない患者…データ化範囲内において傷病名に慢性閉塞性肺疾患があるが投薬は確認できない患者数。  
 ※投薬治療患者…データ化範囲内において傷病名に慢性閉塞性肺疾患があり、投薬も確認できる患者数。

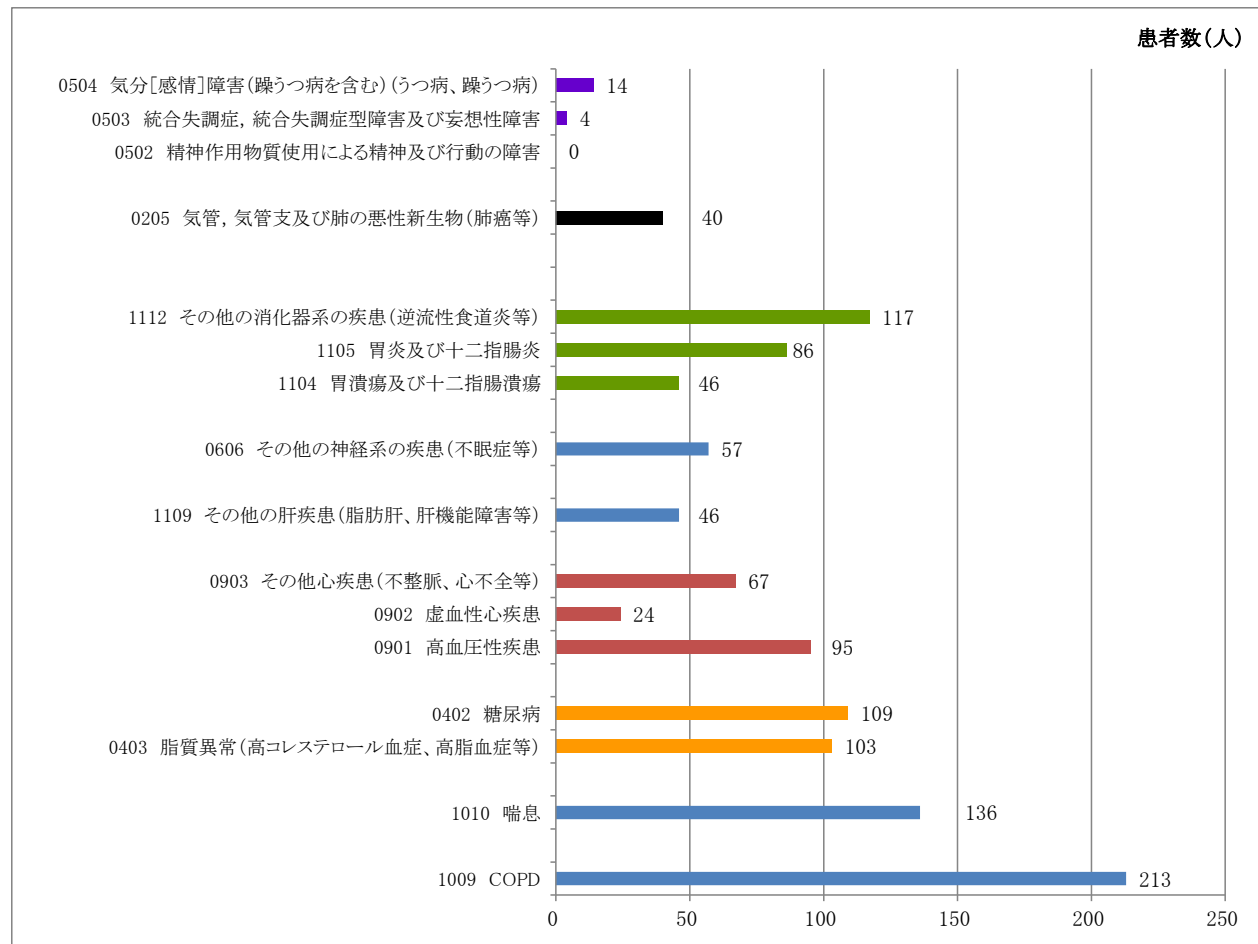
また、COPD患者213人の医療費を分析したところ、以下の通りとなった。12カ月間での患者一人当たりの医療費平均は61万円程度、このうちCOPD関連の医療費が2万円程度、COPD関連以外の医療費が59万円程度である。COPD関連の医療費自体は高額ではないが、患者毎に見ると、生活習慣病である糖尿病・高血圧・脂質異常等を併存している患者が多い。

### COPD患者の医療費平均

	一人当たり医療費(円)
医療費合計	617,158
COPD関連	24,484
COPD関連以外	592,674

COPD患者213人が併存している疾患を以下の通り示す。COPD患者は高血圧・心疾患等の循環器系疾患や、糖尿病及び脂質異常等の生活習慣病を併存している。また、肺癌は213人のうち18.8%の40人が併存している。肺癌等の悪性新生物、うつ病・躁うつ病、統合失調症については、患者一人当たりの医療費が高額な疾病である。

### COPD患者の併存疾患



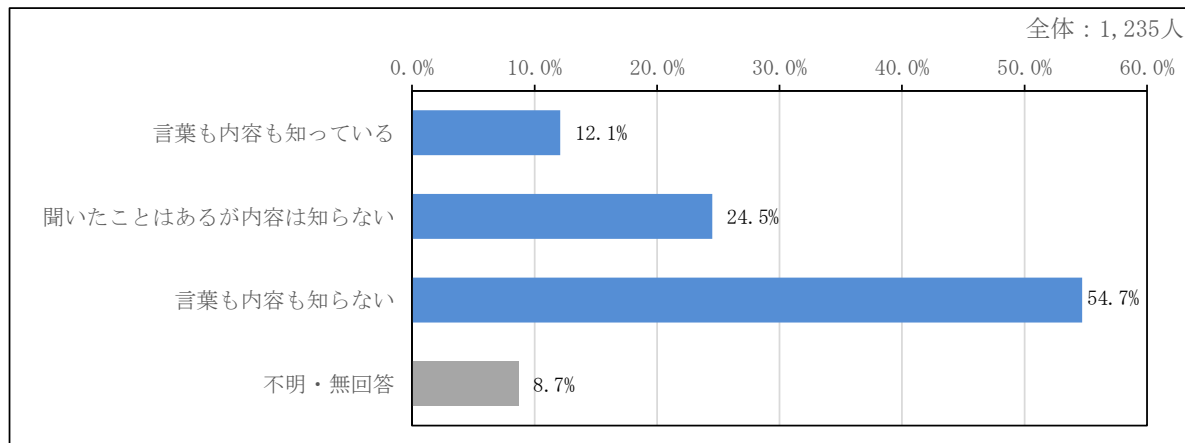
COPDの併存疾患		COPDの合併疾患
●全身性炎症	●抑うつ	●肺癌
●栄養障害	●糖尿病	●喘息
●骨格筋機能障害	●睡眠障害	
●心・血管疾患(心筋梗塞・狭心症・脳血管障害)	●緑内障	
●骨粗鬆症	●貧血	

出典: 日本呼吸器学会COPDガイドライン第3版作成委員会  
「COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン第3版」全身の併存疾患、合併疾患  
日本呼吸器学会 平成20年6月 ISBN:978-4-7792-0431-9

## ②COPDの認知度及び医療機関の現状

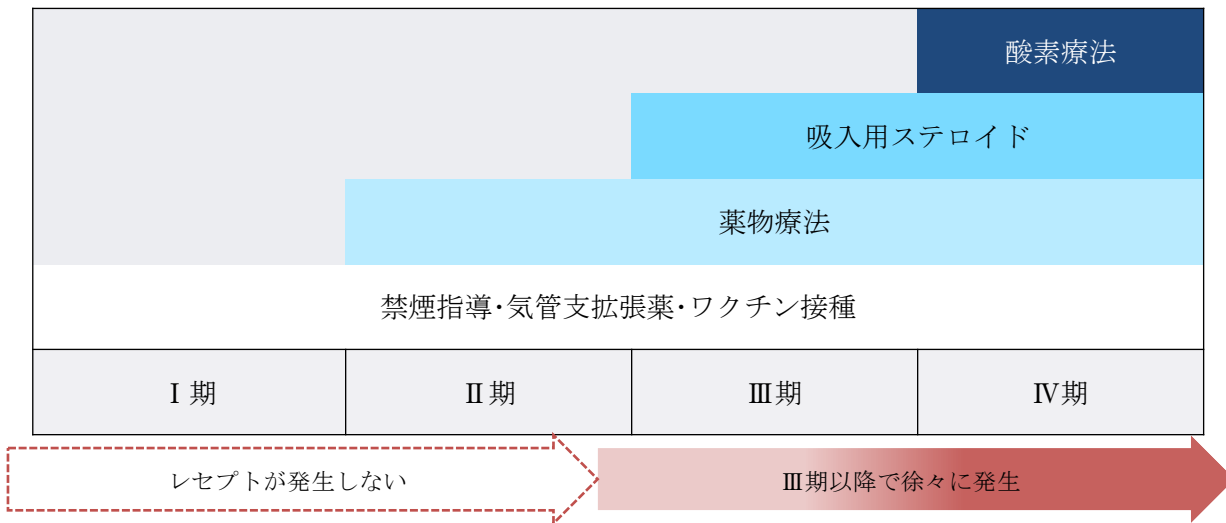
本市におけるCOPDの認知度は、平成27年度市民健康意識調査において「言葉も内容も知っている」人が12.1%、「聞いたことはあるが内容は知らない」人が24.5%であった。厚生労働省は健康日本21(第二次)において2022年度(平成34年度)までに認知度を80%に向上させる目標を明らかにしている。COPDの病期は軽度のⅠ期から重度のⅣ期までであるが、Ⅰ期・Ⅱ期の段階ではレセプトはほとんど発生せず、Ⅲ期・Ⅳ期からレセプトが発生することが多い。これは早期に医療機関にかからず、重症化してからようやく医療機関にかかっていることを示している。

### 真岡市によるCOPDの認知度状況



出典：平成27年度市民健康意識調査

### COPDの病期とレセプト発生状況



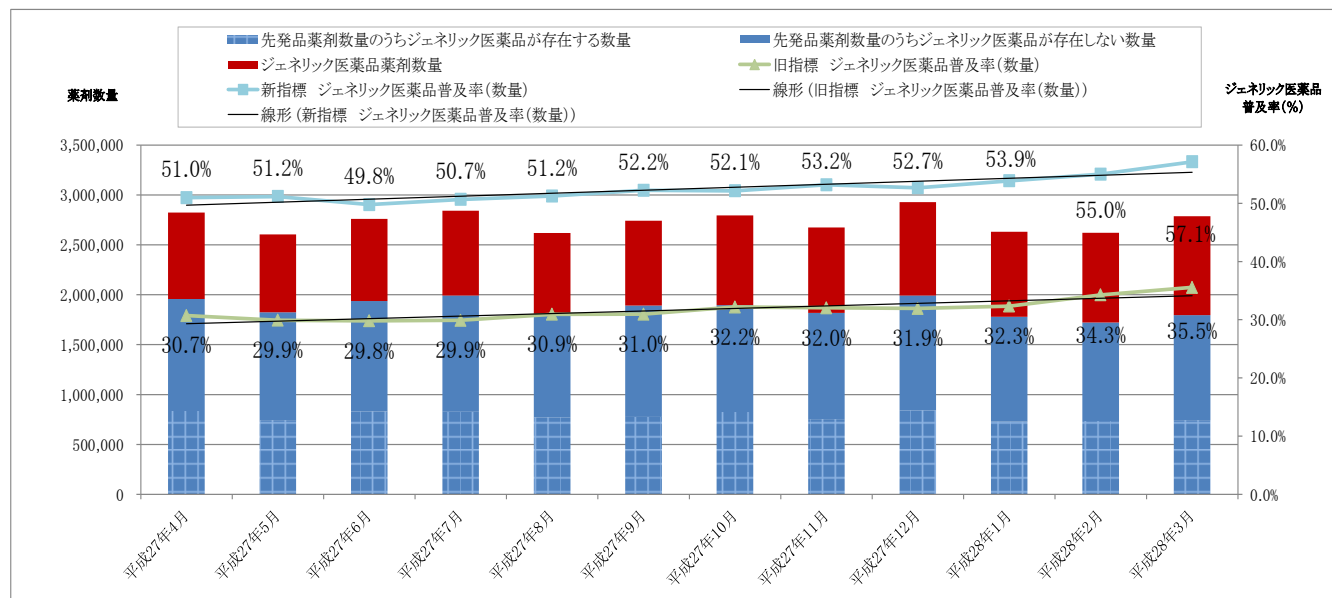
COPDの診断はスパイロメータ(呼吸機能を検査するための医療機器)による検査で行える。しかし、スパイロメータが設置されている医療機関は、呼吸器内科等ある程度限られているのが現状である。平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)のレセプトにおいて、スパイロメータの診療行為が発生している医療機関は54施設存在する。これらの医療機関と連携し、早期発見に向けた医療機関受診勧奨を行う必要がある。

## (9) ジェネリック医薬品の普及状況

### ① ジェネリック医薬品普及率（数量ベース）

以下の通り、診療年月毎の先発品薬剤数量、ジェネリック医薬品薬剤数量、全体の薬剤数量に対するジェネリック医薬品薬剤数の割合を示す。平成27年4月～平成28年3月診療分の12カ月分での平均ジェネリック医薬品普及率は、旧指標では31.7%、新指標では52.5%である。

ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)推移



※新指標…ジェネリック医薬品薬剤数量／(先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量 + ジェネリック医薬品薬剤数量)

※旧指標…ジェネリック医薬品薬剤数量／全医薬品の数量

## ②ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル

先発医薬品からジェネリック医薬品への切り替えを患者に促し薬剤費の削減を図る。保健事業と比較するとジェネリック医薬品への切り替えで削減できる一人当たりの医療費は軽微である。しかし、ジェネリック医薬品への切り替えは複数の疾病に対して行うことができる。つまり多くの患者に対してアプローチできる利点がある。ここでは、平成27年4月～平成28年3月診療分の12カ月分のレセプトを対象に、金額・数量・患者数においてジェネリック医薬品切り替えポテンシャルを分析した。

薬剤費の内訳を以下に示す。薬剤費総額20億1,495万円(A)のうち、先発品薬剤費は17億7,562万円(B)で88.1%を占め、このうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲は4億4,624万円(C)となり、22.1%を占める。さらに株式会社データホライゾン基準の通知対象薬剤のみに絞り込むと、1億8,152万円(C1)がジェネリック医薬品切り替え可能範囲となり、このうち削減可能額は1億215万円(E)となる。

### ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル(金額ベース)

A 薬剤費総額 2,014,948		単位: 千円				
F ジェネリック医薬品 薬剤費 239,324	11.9%					
B 先発品薬剤費 1,775,624	88.1%	C ジェネリック医薬品 が存在する金額範囲 446,238	22.1%	C1 通知対象の ※1 ジェネリック医薬品範囲 181,521	9.0%	ジェネリック医薬品 薬剤費
				C2 通知非対象の ジェネリック医薬品範囲 264,718	13.1%	E 削減可能額 ※2 102,150
		D ジェネリック医薬品 が存在しない金額 範囲 1,329,386	66.0%			

※1 通知対象… (株)データホライゾン通知対象薬剤基準による(ジェネリック医薬品が存在しても、癌・精神疾患・短期処方等、通知対象として不適切な場合は含まない)。

※2 削減可能額…通知対象のジェネリック医薬品範囲のうち、後発品へ切り替える事により削減可能な金額。

次に、薬剤総量の内訳を以下に示す。薬剤総量3,283万(A)のうち、先発品薬剤数量は2,242万(B)で68.3%を占め、このうちジェネリック医薬品が存在する数量は941万(C)となり、28.7%を占める。さらに株式会社データホライゾン基準の通知対象薬剤のみに絞り込むと、503万(C1)がジェネリック医薬品切り替え可能数量となる。現在のジェネリック医薬品普及率(数量ベース)は、厚生労働省の新指標で52.5%、旧指標で31.7%である。ジェネリック医薬品切り替え可能数量(C1)をすべてジェネリック医薬品へ切り替えたと仮定すると、ジェネリック医薬品に置き換えられる先発品及びジェネリック医薬品をベースとしたジェネリック医薬品普及率は、現在の52.5%から77.9%となる。

## ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル(数量ベース)

A 薬剤総量 32,833,691				単位: 数				
E ジェネリック医薬品 薬剤数量	10,411,359	旧指標 31.7%		E ジェネリック医薬品 薬剤数量	10,411,359	新指標 52.5%		
B 先発品薬剤数量	22,422,332	68.3%	C ジェネリック医薬品 が存在する数量	9,414,043	28.7%	C1 通知対象の ジェネリック医薬品 切替可能数量	5,034,267	15.3%
						C2 通知非対象の ジェネリック医薬品 切替可能数量	4,379,776	13.3%
			D ジェネリック医薬品 が存在しない数量	13,008,289	39.6%			
				ジェネリック率				
				現在	52.5%	→	切替後	77.9%

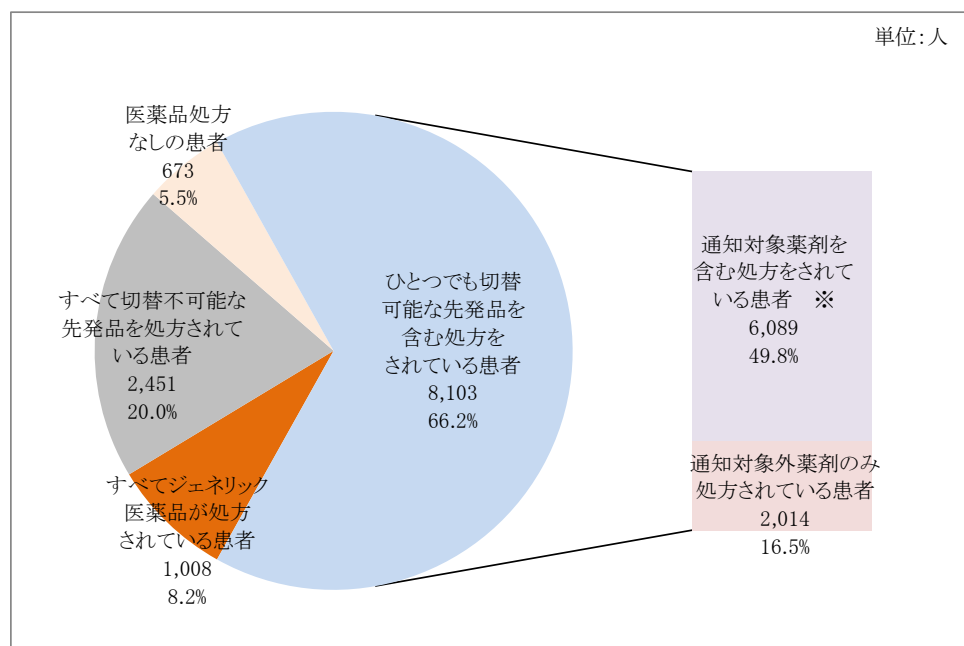
※通知対象…(株)データホライゾン通知対象薬剤基準による(ジェネリック医薬品が存在しても、癌・精神疾患・短期処方等、通知対象として不適切な場合は含まない)。

※新指標…ジェネリック医薬品薬剤数量/(先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量+ジェネリック医薬品薬剤数量)

※旧指標…ジェネリック医薬品薬剤数量/全医薬品の数量

平成28年3月診療分のレセプトで患者毎の薬剤処方状況を以下に示す。患者数は12,235人(入院レセプトのみの患者は除く)で、このうちひとつでもジェネリック医薬品に切り替え可能な先発品を含む処方をされている患者は8,103人で患者数全体の66.2%を占める。さらにこのうち株式会社データホライゾン基準の通知対象薬剤のみに絞り込むと、6,089人がジェネリック医薬品切り替え可能な薬剤を含む処方をされている患者となり、全体の49.8%となる。

## ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル(患者数ベース)



※通知対象薬剤を含む処方されている患者…(株)データホライゾン通知対象薬剤基準による(ジェネリック医薬品が存在しても癌・精神疾患・短期処方のものは含まない)。

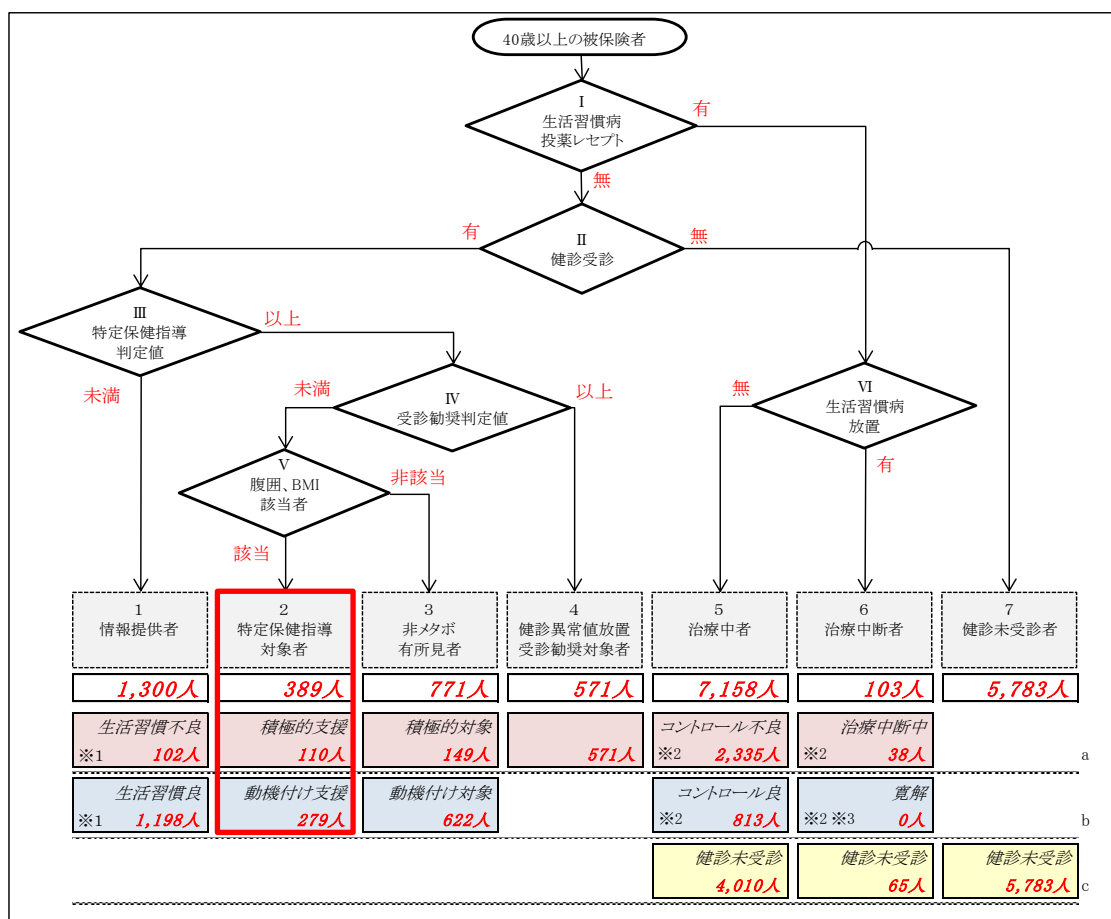
※構成比…小数第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

## (10) 特定保健指導事業

### ①指導対象者

健診履歴と生活習慣病投薬レセプトを使い、40歳以上の被保険者をグループ分けした。特定保健指導の対象者は2のグループである。

#### 健康診査及びレセプトによる指導対象者群分析



※1生活習慣インデックス((株)データホライゾン基準)にて分類。健康診査時の生活習慣に関する質問票において回答を点数化し生活習慣の“良”“不良”を判定。

※2健康リスクインデックス((株)データホライゾン基準)にて分類。レセプトから特定の疾患がある患者ない患者を判定し、患者毎に健康診査時の検査値についてリスク判定を行いコントロールの“良”“不良”を判定。

※3寛解(かんかい)…治療中断者の判定になっているが、健康診査時の検査値(血糖、血圧、脂質のすべて)において判定基準未満であり、症状が落ち着いて安定した状態。

## ②特定保健指導対象者集団の特定

前項の分析により、「2. 特定保健指導対象者」に該当するのは389人である。この内、積極的支援の対象者は110人、動機付け支援の対象者は279人である。

生活習慣病は、初期であれば生活改善により治癒が可能である。これら特定保健指導の対象者に効果的な指導を実施することで、生活習慣病への移行を防ぐことを目指す。

2 特定保健指導対象者	リスク判定 ※該当に●				対象者	
	① 血糖	② 血圧	③ 脂質	④ 喫煙	389人	
積極的支援	● ● ● ●	1人	110人	28%		
	● ● ●	7人				
	● ● ●	5人				
	● ● ● ●	7人				
	● ● ● ●	8人				
	● ● ●	29人				
	● ● ●	8人				
	● ● ●	10人				
	● ● ● ●	8人				
	● ● ● ●	8人				
動機付け支援	● ● ● ●	19人	279人	72%		
	● ● ●	12人				
	● ● ●	2人				
	● ● ● ●	3人				
	● ● ● ●	2人				
	● ● ● ●	0人				
	● ● ● ●	2人				
	● ● ● ●	50人				
● ● ● ●	72人					
● ● ● ●	35人					
65歳～(積極的支援)	- - - -	101人				

65歳以上の者については、日常生活動作能力、運動機能等を踏まえ、QOL(Quality of Life)の低下予防に配慮した生活習慣の改善が重要である等から、「積極的支援」の対象となった場合でも「動機付け支援」とする。

※該当に●の詳細は以下の通りとする。

①血糖…健康診査の検査値において、空腹時血糖100mg/dl以上またはHbA1c5.6%以上(NGSP)

②血圧…健康診査の検査値において、収縮期血圧が130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上

③脂質…健康診査の検査値において、中性脂肪150mg/dl以上またはHDLコレステロール40mg/dl未満

④喫煙…健康診査の生活習慣に関する質問票においてたばこを習慣的に吸っていると回答






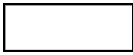
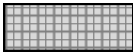
### ③健康診査データによる糖尿病重症度分類

健康診査項目の「空腹時血糖」及び「HbA1c」の値を用いて、以下の通り日本人間ドック学会の判定区分に基づき健診受診者を集計し、日本糖尿病学会の判定区分に基づき色分けした。

健康診査項目からステージに該当する人数 (HbA1c×空腹時血糖)

健診受診者数: 人

			HbA1c(NGSP) (ヘモグロビンA1c)					計
			A 異常なし	B 軽度異常	C 要経過観察・ 生活改善	D 要治療	未測定	
			0.0% ~	5.6% ~	6.0% ~	6.5% ~		
空腹時血糖	A 異常なし	0 ~	2,094	1,256	186	15	0	3,551
	B 軽度異常	100 ~	381	636	244	45	0	1,306
	C 要経過観察・ 生活改善	110 ~	81	204	263	137	0	685
	D 要治療	126 ~	6	19	78	348	0	451
	未測定		98	77	18	31	0	224
計			2,660	2,192	789	576	0	6,217

糖尿病		=348人	5.6%
糖尿病型		=300人	4.8%
境界型		=548人	8.8%
正常型		=4,797人	77.2%
不明		=224人	3.6%

参考資料: 日本人間ドック学会の判定区分 (2016年4月1日改定)、日本糖尿病学会「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013」  
株式会社南江堂 ISBN:978-4-524-26996-9  
※日本人間ドック学会の判定区分に従い人数を集計し、日本糖尿病学会の判定区分に従い色分けした。

#### ④生活習慣病患者の健康診査受診状況別の医療費

健診受診者と未受診者の生活習慣病の医療費を分析した。健診未受診者の医療費が高い傾向であった。

健診受診者の一人当たりの医療費は34万円程度、健診未受診者の一人当たりの医療費は46万円程度で、未受診者が12万円程度高い。

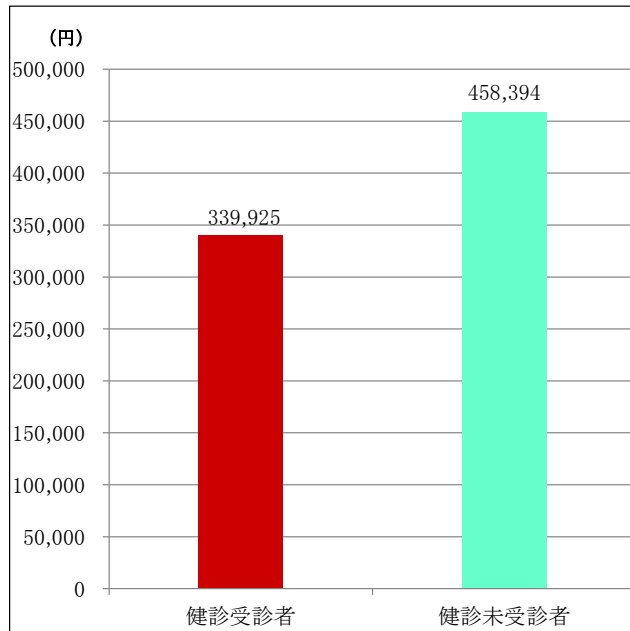
#### 健診受診者と未受診者の比較

投薬のある患者	患者数(人)※	医療費(円)		医療費合計(円)	一人当たり医療費(円)
		入院	入院外		
健診受診者	3,186	217,532,060	865,469,660	1,083,001,720	339,925
健診未受診者	4,075	685,194,450	1,546,279,670	2,231,474,120	458,394
差	889	467,662,390	680,810,010	1,148,472,400	118,469

※患者数…該当傷病名で投薬のある患者のみ集計する。

※医療費…データ化範囲内における該当患者の医療費全体。生活習慣病に関する医療費に限らない。

#### 健診受診者と未受診者における一人当たりの医療費の比較



## 2. 分析結果と課題及び対策の設定

### (1) 分析結果

平成27年4月から平成28年3月診療分（12ヶ月分）の入院（DPCを含む）、入院外、調剤レセプトを分析したところ、真岡市国民健康保険の抱える課題は、生活習慣病及び新生物の対策であることが分かった。

特に生活習慣病は、発症から重症化までの期間が長く、重症化した場合の医療費も大きくなることから、生活習慣病発症予防を目的とした長期的事業と、生活習慣病の重症化予防を目的とした中期的事業を並行して取り組むことが得策であると考えられる。

以下、分析結果をまとめた。

#### ① 疾病大分類別

循環器系が上位となっており、生活習慣病が課題となっていることがわかる。新生物、内分泌、栄養及び代謝疾患も上位である。患者一人当たりの医療費が高いのは、周産期に発生した病態が1位、精神及び行動の障害が2位、妊娠、分娩および産じょくが3位である。母子部門・福祉部門へ情報提供し、連携を図る。

医療費総計の高い疾病	
1位	循環器系の疾患
2位	新生物
3位	内分泌、栄養及び代謝疾患

患者数の多い疾病	
1位	呼吸器系の疾患
2位	消化器系の疾患
3位	内分泌、栄養及び代謝疾患

患者一人当たりの医療費が高額な疾病	
1位	周産期に発生した病態
2位	精神及び行動の障害
3位	妊娠、分娩及び産じょく

## ②疾病中分類別

大分類を細分化し、中分類で分析を行った結果、医療費・患者数では、大分類同様、生活習慣病関連の疾病が上位占めていた。生活習慣病の重症化予防が課題である。

医療費統計が高い疾病	
1位	高血圧性疾患
2位	糖尿病
3位	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患

患者数の多い疾病	
1位	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患
2位	高血圧性疾患
3位	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの

患者一人当たりの医療費が高額な疾病	
1位	腎不全
2位	白血病
3位	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害

## ③入院・入院外別

入院・入院外別での医療費が高い疾病傾向は、新生物・循環器・精神疾患・内分泌が上位である。

入院 医療費 割合	34.7%	入院における医療費総計が高い疾病(大分類)	
		1位	新生物
		2位	精神及び行動の障害
		3位	循環器系の疾患
入院外 医療費 割合	65.3%	入院外における医療費総計が高い疾病(大分類)	
		1位	内分泌，栄養及び代謝疾患
		2位	循環器系の疾患
		3位	腎尿路生殖器系の疾患

#### ④年齢階層別医療費

高齢になるにつれ医療費は高額化する。その中でも医療費総計が高い疾病は、いずれの年代でも循環器系の疾患が1位であった。生活習慣病は、重症化し医療費が高額化するまでに長い時間がかかることから、医療費の高い疾患を特定することも重要であると同時に、将来医療費が高額化すると予測される層への発症予防対策も重要である。また、新生物も65歳以上の年齢階層で2位であることから、がんの早期発見等対策が必要である。

医療費総計が高い年齢階層		医療費総計が高い疾病(大分類)	
1位	65歳 ~ 69歳	1位	循環器系の疾患
		2位	新生物
		3位	内分泌, 栄養及び代謝疾患
2位	70歳 ~ 74歳	1位	循環器系の疾患
		2位	新生物
		3位	内分泌, 栄養及び代謝疾患
3位	60歳 ~ 64歳	1位	循環器系の疾患
		2位	内分泌, 栄養及び代謝疾患
		3位	腎尿路生殖器系の疾患

#### ⑤高額（50万円以上）レセプトの件数と割合

高額レセプトの発生件数は、全体の0.5%でありながら医療費の25.7%を占めていることから、医療費適正化効果の観点から、上位にあがった疾患の対策は重要であると考えられる。

分析結果では、4位に腎不全があがっている。これからも生活習慣病の対策が重要であると考えられる。

高額レセプト件数	132件 (月間平均)	高額レセプトの要因となる疾病 一人当たりの医療費が高額な疾病(中分類)	
高額レセプト件数割合	0.5%	1位	白血病
高額レセプト医療費割合	25.7%	2位	心臓の先天奇形
		3位	真菌症
		4位	腎不全
		5位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群
		6位	くも膜下出血

## ⑥医療機関受診状況

重複受診者が154人、頻回受診者が189人、重複服薬者が352人確認できた。短期的な医療費適正化効果が期待できるため、対策が必要である。

重複受診者	154人
頻回受診者	189人
重複服薬者	352人

※平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)期間中の実人数

※重複受診者数…1カ月間に同系の疾病を理由に、3医療機関以上受診している人を対象とする。  
透析中、治療行為を行っていないレセプトは対象外とする。

※頻回受診者数…1カ月間に12回以上受診している患者を対象とする。透析患者は対象外とする。

※重複服薬者数…1カ月間に、同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える患者を対象とする。

## ⑦人工透析患者の実態

人工透析患者77名のうち、生活習慣を起因とする疾病から人工透析に至った患者が58名で、そのうち57名が2型糖尿病が起因であった。糖尿病性腎症重症化予防の取り組みが必要である。

## ⑧脳卒中・心筋梗塞の患者の実態

脳卒中（脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血）の患者は、1,816名、心筋梗塞の患者は、507名であった。

死亡率の高いこと、再発率が高いことから、発症予防と再発予防の取り組みが必要である。

## ⑨COPD患者の実態

現在COPDの治療が認められる患者は213名で、その患者一人当たり医療費はCOPD関連で24,484円、COPD関連以外で592,674円である。患者の大半が高血圧・心疾患等の循環器系疾患や、糖尿病及び脂質異常等の生活習慣病を併存し、医療費が高額化する傾向にある。対策が必要である。

## ⑩ジェネリック医薬品普及率

数量ベースのジェネリック医薬品普及率（新指標）は平成28年度3月診療分で57.1%である。厚生労働省は、平成27年8月26日に、平成32年度までに80%と普及目標を引き上げた。更なるジェネリック医薬品の普及をめざす。

## (2) 課題及び対策の設定

分析結果より導いた課題とその対策を以下に示す。

### ① 特定健診・特定保健指導を基盤とする生活習慣病予防

<課題> 疾病大分類や疾病中分類において医療費が高額な疾病、あるいは患者数が多い疾病や一人当たりの医療費が高額な疾病の中に、生活習慣病がある。

生活習慣病は、正しい生活習慣により予防することが可能である。また、たとえ発症しても軽度のうちに治療を行い、生活習慣を改善すれば進行をくいとめることができるにもかかわらず、多数の患者が存在し、医療費も多額である。

<対策> 特定健診・特定保健指導の制度を最大限に活用し、一次予防・二次予防を実施する。具体的には、特定健診受診率の向上、特定保健指導実施率の向上、健診を受診しているが異常値を放置している患者への受診勧奨通知等である。

### ② 生活習慣病の重症化予防

<課題> 患者数が多く、医療費が高い疾病は、高血圧や糖尿病、その他内分泌（高脂血症等）などの生活習慣病である。これらの生活習慣病は、重なり合うことで脳卒中や心筋梗塞、糖尿病による人工透析など重症化しやすいため、ご本人が定期的に通院し、服薬や食事管理をするなど病気をコントロールし、重症化を防ぐことが大切である。

<対策> 生活習慣病の重症化予防が必要な病期にあたる患者や、生活習慣病の治療を中断している患者を特定し、患者個人に保健指導を行い、定期的な受診を促す。

### ③ 受診行動適正化

<課題> 受診行動が適切ではない重複・頻回受診者、重複服薬者が多数存在する。適正な受診行動を促すことが必要である。

<対策> 医療機関への過度な受診が確認できる対象者等を特定し、適正な医療機関へのかかり方について指導を行う。また、かかりつけ医をもつこと、お薬手帳の活用について周知を図る。

### ④ ジェネリック医薬品普及率の向上

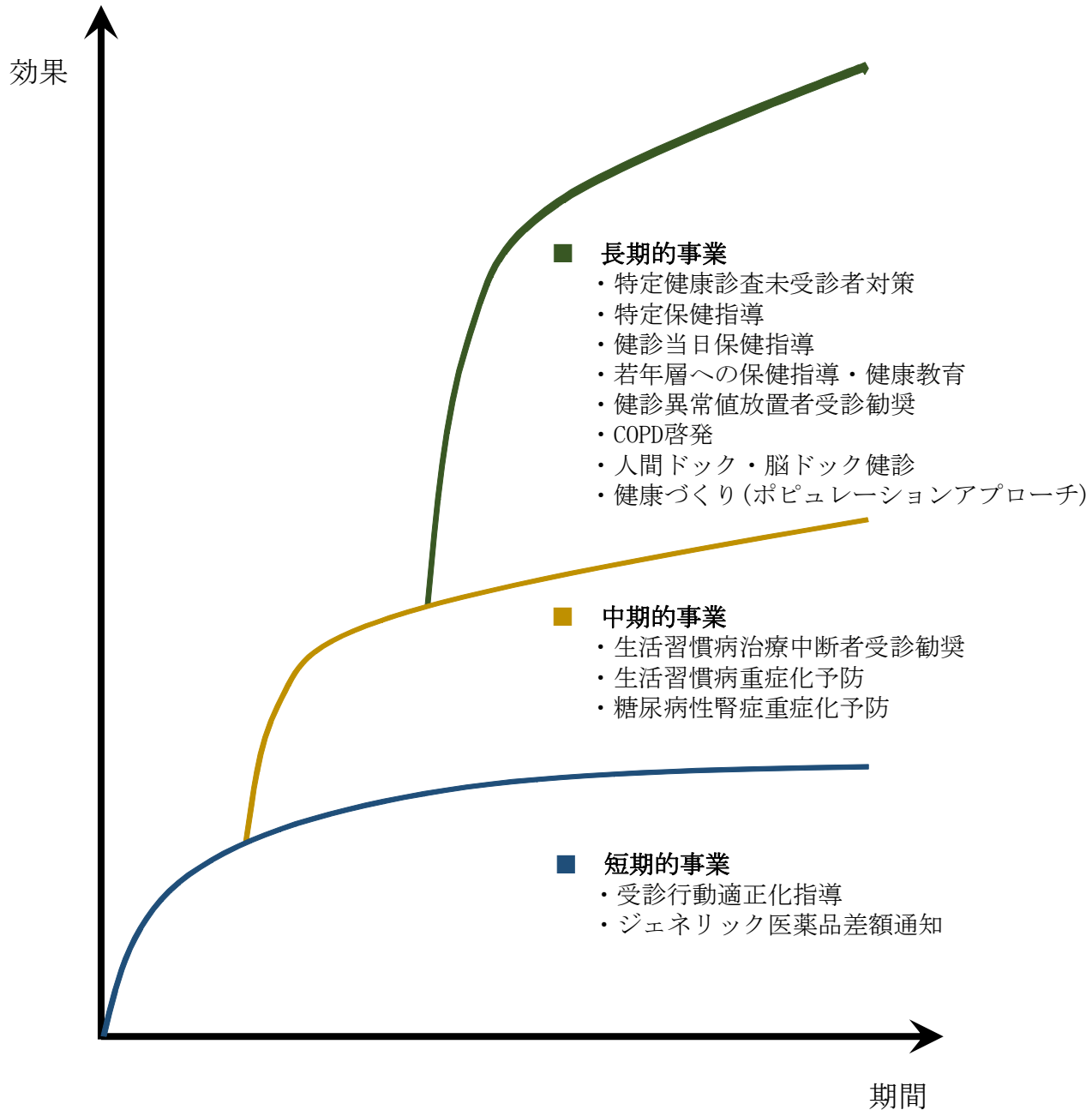
<課題> 厚生労働省が目標とするジェネリック医薬品普及率は平成29年度中の数量ベース（新基準）で70%以上であるが、現在、「真岡市国民健康保険」における同普及率は「57.1%（平成28年3月診療分）」である。

<対策> ジェネリック医薬品に切り替え可能な先発医薬品を服薬している患者を特定し、患者個人に切り替えを促す通知を行う。

事業には、即効性があるが効果額が小さい短期的事業と、即効性はないが将来の大きな医療費削減につながる中・長期的な事業がある。

下図は代表的な保健事業の組み合わせである。

これら事業を真岡市国民健康保険の実情に合わせて、効率良く実施する。





### Ⅲ. 実施事業

#### 1. 実施事業の目的と概要及び内容

##### (1) 長期的事業

No.	区分	事業名	事業の目的	事業の概要	対象者	
					年齢	対象者
1	一部新規	特定健康診査未受診者対策	初回受診者の増加及び継続受診率の向上を図り、特定健診未受診者を減少させ、健康の保持・増進につなげることで生活習慣病の発症・重症化を防ぐ	・受診しやすい体制の整備。 ・健診未受診者に対し、受診勧奨の通知や電話勧奨をする。 ・受診者に対し、市内施設で使用できる利用補助券を配布。	40～74歳	国民健康保険被保険者のうち特定健診未受診者
2	実施中	特定保健指導事業	内臓脂肪型肥満に着目し、生活習慣を改善するための保健指導を行うことにより、対象者自らの生活習慣における課題を認識して行動変容と自己管理を行うことで糖尿病等の生活習慣病を予防する	①積極的支援は直営で実施。 初回面接後、中間で血液検査を実施。 電話・面接・支援レター等を組み入れ、6ヶ月以上の継続的な支援を行う。 ②動機づけ支援は委託し実施。 初回面接を実施し、6ヶ月後にアンケート実施。	40～74歳	特定健診受診者のうち、積極的支援又は動機づけ支援該当者
3	新規	健診当日保健指導	健診受診会場では、生活習慣に関する意識が高い時である。その時期を逃さず、健診受診者全員に生活習慣病予防について、生活面を振り返る機会とする。	健診受診会場において受診者全員に生活改善個別指導を実施する。	40～74歳	国民健康保険被保険者のうち特定健診受診者
4	実施中	若年層への保健指導・健康教育	若い時期から健康に対する意識を高め、生活習慣病の発症予防・重症化予防に取り組む	・30歳代を対象としたヤング健診の実施。 減塩に対する意識向上のため、尿中塩分測定も実施する。 ・健診当日、ヤング特定健診受診者全員に個別指導を実施。運動・栄養・喫煙について健康 教育を実施。 ・受診者全員を対象に健診結果説明会を実施。	30～39歳	市民
5	一部新規	健診異常値放置者受診勧奨	精密検査受診率を向上させ、治療が必要な者を適切な医療へつなげることで、生活習慣病の重症化を防ぐ。	特定健診の結果、医療機関受診勧奨レベルで精密検査未受診の者に対して、通知・電話による受診勧奨を実施する。	30～74歳	特定健診受診者のうち、医療機関受診勧奨レベルで精密検査未受診の者
6	実施中	COPD啓発事業	COPDの認知度を高め、COPDとその予防方法について正しい知識の普及啓発を行う。また、早期発見・早期治療につなげ重症化を防ぐ。	・喫煙が及ぼす健康被害について、広報活動等を通じた知識の普及啓発を行う。 ・イベント等で肺年齢・一酸化炭素濃度測定を実施する。 ・特定保健指導や健診結果説明会時に喫煙指導とパンフレットを配布。	全ての年齢 特に30歳以上	市民と喫煙者
7	実施中	人間ドック・脳ドック検診事業	人間ドック・脳ドックの検診費用の助成を行うことで、疾病の早期発見、早期治療を促進し、被保険者の健康増進を図る。	人間ドック・脳ドック検診受診者に対し、検診費用の1/2相当額(2万円限度)、を助成する。	35～74歳	国民健康保険被保険者
8	実施中	健康づくり事業(ポピュレーションアプローチ)	生活習慣病の早期発見及び重症化予防の観点から、脳卒中や心臓病予防のための知識やメタボリックシンドロームの知識について普及啓発をし、生活改善の取り組みを促す。	生活習慣病予防及び生活改善に取り組める意識・意欲の向上を図るため、講演会や広報誌等を通じ健康情報の提供をする。	全ての年齢	市民

実施計画				評価指標	担当課
平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
4～1月まで健診実施 継続受診者は自動予約者として問診票の送付 予定日案内通知及び電話勧奨	インターネット予約の導入 実施時期や回数、内容を検討し継続	継続	継続	・特定健診受診率の向上 (H27 41.6%→H31 49.6%) ※平成27年度法定報告から毎年2%ずつ上昇。	国保年金課 健康増進課
4月から翌年9月まで実施	実施回数、内容を検討し継続	継続	継続	・特定保健指導実施率の向上 (H27 46.9%→H31 54.9%) ※平成27年度法定報告から毎年2%ずつ上昇。 ・メタボリックシンドローム該当・予備群の割合の減少 (該当者:H27 17.8%→H31 17.0%) (予備群者:H27 11.6%→H31 10.8%) ※KDBシステム(H29.1月時点) 地域の全体像の把握から国・県の現状を踏まえ、毎年0.2%ずつ減少。	健康増進課
40～50歳代に実施	健康づくりモデル地区である二宮地区で実施	山前地区・大内地区・中村地区・真岡西地区で実施	真岡地区で実施		健康増進課
6～10月に実施	実施時期や回数、内容を検討し継続	継続	継続	・メタボリックシンドローム該当・予備群の割合の減少 ※特定保健指導事業の評価指標と同様。	健康増進課
実施方法を検討	継続	受診勧奨を実施	継続	・受診勧奨を行った人数(100%) ・受診勧奨対象者の精密検査へつなげた人数 (通知発送者の20%以上) ・精密検査受診率の向上 (H27 57.9%→H31 65.9%) ※健康管理システム(H29.1月時点) 抽出結果より毎年2%上昇。	国保年金課 健康増進課
4月から3月まで実施	継続	継続	継続	・COPDの認知度(H31 32%) ※H27健康意識調査12.1%を参考に、毎年5%ずつ上昇。 H29からは市民意向調査で評価する。	健康増進課
4月から3月まで実施	継続	継続	継続	・受診者数の増加 前年度比5%増、31年度400人	国保年金課
・講演会4回 ・広報紙特集3回	実施時期や回数、内容を検討し継続	継続	継続	・健康づくりを実践している市民の割合 (市民意向調査) (H27 87.9%→H31 90%以上) ※真岡市健康21プラン2期計画と同様。	健康増進課

## (2) 中期的事業

No.	区分	事業名	事業の目的	事業の概要	対象者	
					年齢	対象者
1	新規	生活習慣病治療中断者受診勧奨事業	生活習慣病治療中断者が健診や医療機関にて健康管理を行い、重症化を防ぐ。	医療機関受診の必要性について通知するとともに、健診未受診者には健診の受診勧奨も合わせて行う。	40～74歳	生活習慣病治療中断者
2	一部新規	生活習慣病重症化予防事業	生活習慣病の重症化を予防するため、生活習慣病について理解を深め、生活習慣の振り返りと見直しを行い、重症化を予防する。	①特定健診受診者のうち、情報提供者をリスク別に分け、健診結果説明会にて個別指導を実施。 ②心疾患や脳卒中等発症予防のため、高血圧の教室を開催している。加えて、コレステロールの要指導者も対象とし、ハイリスク教室を実施する。	30～64歳	①特定健診結果において要指導以上の者 ②特定健診受診者のうち、血圧・脂質いずれかにおいて要指導の者
3	一部新規	糖尿病性腎症重症化予防事業	適切な医療機関への受診行動がとれ、高血糖・腎機能低下を予防するための行動をとることで、重症化を防ぐ。	①対象者のうち、精密検査未受診者に対し、通知・電話による受診勧奨の実施。 ②糖尿病性腎症の重症化を予防するため、健康教室の実施と参加勧奨。 ③専門医療機関への受診、市の健康栄養相談への勧奨通知の送付。 ④高血糖で要精検、治療継続であるがコントロール不良である者については訪問指導の実施。	30～74歳	①血糖・腎機能検査における要精検判定者 ②糖尿病で治療中の者のうち、腎症レベルⅠ・Ⅱの者 ③腎症レベルⅢ・Ⅳの者 ④血糖値コントロール不良者

## (3) 短期的事業

No.	区分	事業名	事業の目的	事業の概要	対象者	
					年齢	対象者
1	実施中	受診行動適正化指導事業	重複・頻回受診者、重複服薬者に対し、受診行動の適正化を図る	・医療機関への過度な受診が確認できる対象者、頻回に受診している対象者を特定し、適正な医療機関へのかかり方について指導を行う。 ・かかりつけ医をもつこと、お薬手帳の活用について周知を図る。	全ての年齢	重複受診者及び頻回受診者の中から指導が必要と認められるもの
2	実施中	ジェネリック医薬品差額通知事業	生活習慣病等の慢性疾患により医薬品の長期投与をされている被保険者に対し、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の差額通知を送付し、ジェネリック医薬品の普及啓発を行うことで、医療費の削減を図る。	①栃木県国民健康保険団体連合会に委託し、対象者を特定。 ②国保連合会においてジェネリック差額通知を作成。 ③ジェネリック差額通知を対象者に送付。	20歳以上	1 医薬品あたり200円以上差額効果がある被保険者

実施計画				評価指標	担当課
平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
実施方法の検討	継続	受診勧奨を実施	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診勧奨を行った人数（100%）</li> <li>治療中断者のうち、医療機関を受診した割合（50%）</li> </ul>	国保年金課 健康増進課
4月から3月まで実施	継続	継続	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導実施者数、教室参加者数</li> <li>メタボリックシンドローム該当・予備群の割合の減少</li> <li>※特定保健指導事業の評価指標と同様。</li> </ul>	健康増進課
4月から3月まで実施 糖尿病教室の実施	4月から3月まで実施 糖尿病（腎臓含む）教室については、実施時期、内容について検討し実施。	継続	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診勧奨を行った人数（100%）</li> <li>精密検査受診率の向上（H27 57.3%→H31 67.3%）</li> <li>※平成27年度事業概要報告書から毎年2.5%ずつ上昇。</li> <li>糖尿病性腎症における新規透析患者数の減少</li> </ul>	国保年金課 健康増進課

実施計画				評価指標	担当課
平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
対象者を特定し、指導	継続	継続	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>重複、頻回受診者数の減少</li> <li>28年度比 20%減少</li> </ul>	国保年金課 健康増進課
年2回 8月（5月調剤分） 2月（11月調剤分） 希望シールの配布	継続	継続	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェネリック医薬品の普及率国の指標</li> <li>平成29年半ばに70%</li> <li>平成30年から32年の早い時期に80%以上</li> </ul>	国保年金課

## 2. 全体スケジュール

事業計画策定(P)、指導の実施(D)、効果の測定(C)、次年度に向けた改善(A)を1サイクルとして実施する。

事業実施の4カ年間は、継続的にレセプトと健診データをデータベース化し、事業実施と効果測定を行う。また、この効果測定の結果をもって次年度実施事業の改善案を作成する。詳細な実施スケジュールは以下の通りとする。

データヘルス事業	平成28年度				平成29年度				平成30年度				平成31年度			
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
データ化、改善計画	レセプト、健診データデータ化															
特定健診未受診者対策	P	D				D				D				D		
				C				C				C				C
				A				A				A				A
				P				P				P				P
特定保健指導事業	P	D				D				D				D		
				C				C				C				C
				A				A				A				A
				P				P				P				P
健診当日保健指導	P	D				D				D				D		
				C				C				C				C
				A				A				A				A
				P				P				P				P
若年層への保健指導・健康教育	P	D				D				D				D		
				C				C				C				C
				A				A				A				A
				P				P				P				P
健診異常値放置者受診勧奨	P	P				D				D				D		
								C				C				C
								A				A				A
								P				P				P
COPD啓発事業	P	D				D				D				D		
				C				C				C				C
				A				A				A				A
				P				P				P				P
人間ドッグ・脳ドッグ健診事業	P	D				D				D				D		
				C				C				C				C
				A				A				A				A
				P				P				P				P

データヘルス事業	平成28年度				平成29年度				平成30年度				平成31年度			
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
データ化、改善計画	レセプト、健診データデータ化															
健康づくり事業 (ポピュレーション アプローチ)	P	D				D				D				D		
				C				C				C				C
				A				A				A				A
				P				P				P				P
生活習慣病治療中断者 受診勧奨事業	P					D			D			D			D	
							C				C				C	
			A				A				A				A	
			P				P				P				P	
生活習慣病重症化 予防事業	P	D				D				D				D		
				C				C				C				C
				A				A				A				A
				P				P				P				P
糖尿病性腎症 重症化予防事業	P	D				D				D				D		
				C				C				C				C
				A				A				A				A
				P				P				P				P
受診行動適正化 指導事業	P	D				D				D				D		
				C				C				C				C
				A				A				A				A
				P				P				P				P
ジェネリック医薬品 差額通知事業	P	D				D				D				D		
				C				C				C				C
				A				A				A				A
				P				P				P				P

### 3. データヘルス計画の見直し

#### (1) 評価

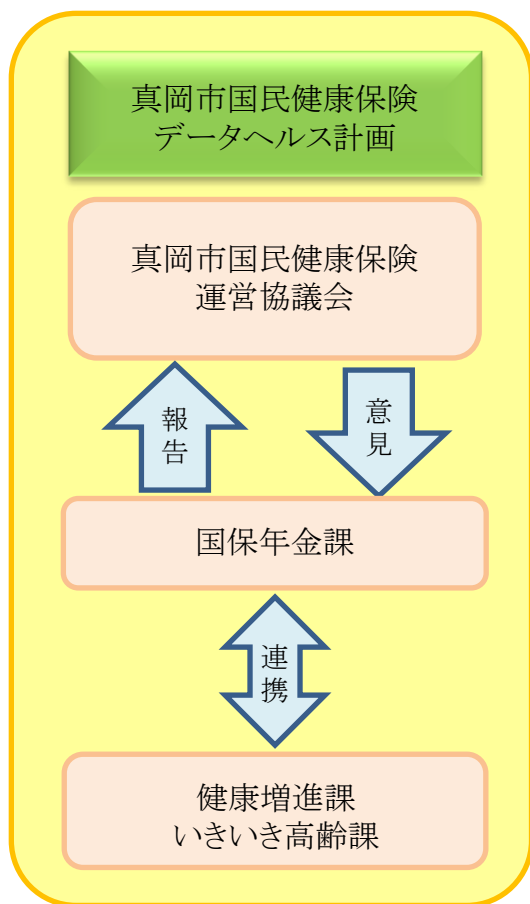
データヘルス計画の実施事業における目的及び目標の達成状況について評価を行うこととし、達成状況により、次年度実施計画の見直しを行う。

#### (2) 評価時期

各事業のスケジュールに基づき実施する。

#### (3) 見直し検討時の構成メンバー

見直しのための検討の場を設ける場合には、下記体制で実施する。



## IV. その他

### 1. データヘルス計画の公表・周知

本計画は、広報、ホームページ等で公表するとともに、本実施計画をあらゆる機会を通じて周知・啓発を図り、特定健康診査及び特定保健指導の実績(個人情報に関する部分を除く)、目標の達成状況等の公表に努め、本計画の円滑な実施、目標達成等について広く意見を求めるものとする。

### 2. 事業運営上の留意事項

#### (1) 各種検(健)診等の連携

特定健診の実施に当たっては、健康増進法及び介護保険法に基づき実施する検(健)診等についても可能な限り連携して実施するものとする。

#### (2) 健康づくり事業との連携

特定健康診査・特定保健指導は、被保険者のうち40歳から74歳までの方が対象になる。しかし、生活習慣病予防のためには、40歳より若い世代へ働きかけ、生活習慣病のリスクの周知や日々の生活スタイルを見直していくことが重要になる。そのためには、関係部署が実施する保健事業とも連携しながら、生活習慣病予防を推進していく必要がある。

### 3. 個人情報の保護

特定健康診査及び特定保健指導に関わる個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」「国民健康保険組合における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン」「個人情報保護条例」「情報セキュリティポリシー」に基づき管理する。

また、特定健康診査及び特定保健指導にかかわる業務を外部に委託する際も同様に扱われるよう委託契約書に定めるものとする。



# V. 資料編

## 1. 医療費状況の把握

### (1) 大分類による疾病別医療費

当医療費統計は、真岡市国民健康保険における、平成27年4月～平成28年3月診療分の12カ月分の入院(DPCを含む)、入院外、調剤レセプトを対象とし、資格確認日は各月資格を確認して集計し、分析する(消化器系の疾患において、歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない)。

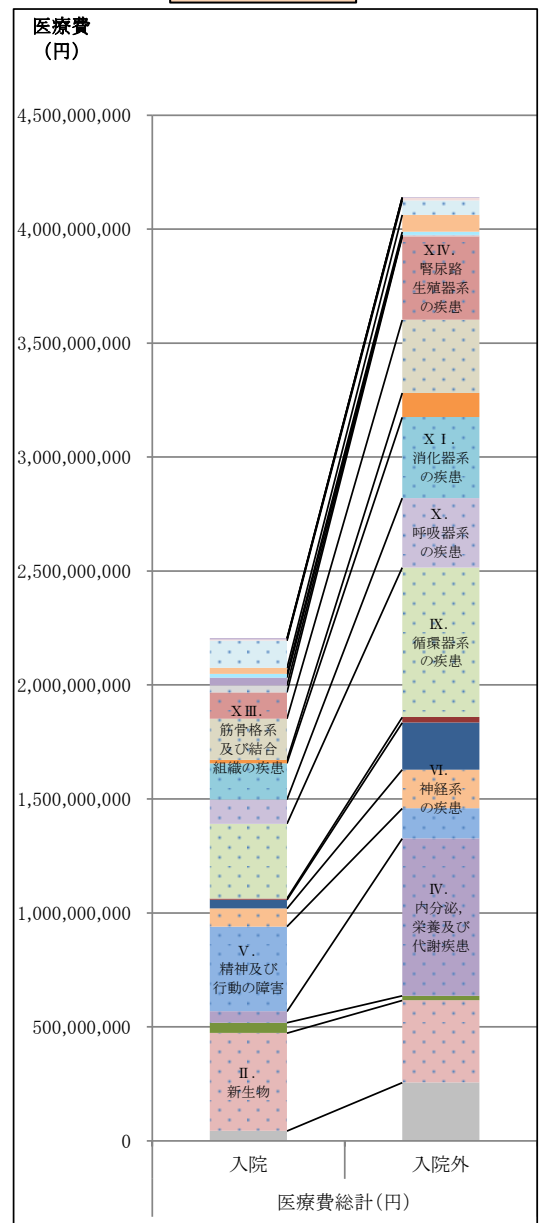
#### ①入院・入院外比較

真岡市国民健康保険における、疾病別医療費統計を入院・入院外別に示す。

大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

疾病項目(大分類)	医療費総計(円) ※	
	入院	入院外
I. 感染症及び寄生虫症	42,953,901	255,039,511
II. 新生物	429,407,728	360,611,216
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	44,645,745	19,761,739
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	50,574,827	690,715,794
V. 精神及び行動の障害	371,154,286	132,096,136
VI. 神経系の疾患	79,717,374	169,789,248
VII. 眼及び付属器の疾患	38,416,676	206,197,887
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	5,446,804	24,173,379
IX. 循環器系の疾患	327,955,985	656,392,999
X. 呼吸器系の疾患	106,414,480	304,263,219
X I. 消化器系の疾患 ※	158,973,142	355,268,965
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	14,810,882	106,416,371
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	180,685,798	320,694,556
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	115,592,672	366,012,071
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	30,349,464	4,862,496
X VI. 周産期に発生した病態 ※	34,851,277	2,308,294
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	16,498,329	12,768,639
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	25,811,532	74,380,151
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	119,507,235	63,891,604
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5,749,414	11,016,706
X X II. 特殊目的用コード	0	0
分類外	4,229,249	2,964,009
合計	2,203,746,800	4,139,624,990



※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

## ②男性・女性比較

真岡市国民健康保険における、疾病別医療費を男女別に示す。

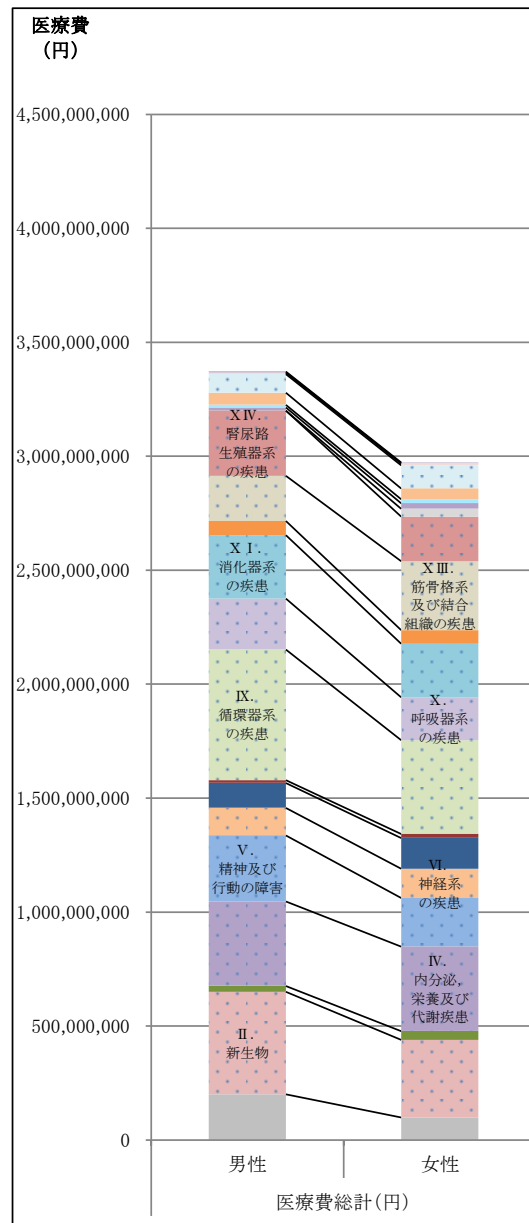
大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を

網掛け

表示する。

疾病項目(大分類)	医療費総計(円) ※	
	男性	女性
I. 感染症及び寄生虫症	199,924,861	98,068,551
II. 新生物	449,386,301	340,632,643
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	26,099,214	38,308,270
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	370,064,269	371,226,352
V. 精神及び行動の障害	290,605,257	212,645,165
VI. 神経系の疾患	120,863,648	128,642,974
VII. 眼及び付属器の疾患	109,287,518	135,327,045
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	12,212,083	17,408,100
IX. 循環器系の疾患	573,202,005	411,146,979
X. 呼吸器系の疾患	222,780,318	187,897,381
X I. 消化器系の疾患 ※	278,721,138	235,520,969
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	61,731,810	59,495,443
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	198,902,183	302,478,171
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	286,140,560	195,464,183
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	35,143	35,176,817
X VI. 周産期に発生した病態 ※	13,272,786	23,886,785
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	11,996,242	17,270,726
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	52,466,926	47,724,757
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	82,328,579	101,070,260
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	7,317,182	9,448,938
X X II. 特殊目的用コード	0	0
分類外	3,871,707	3,321,551
合計	3,371,209,730	2,972,162,060

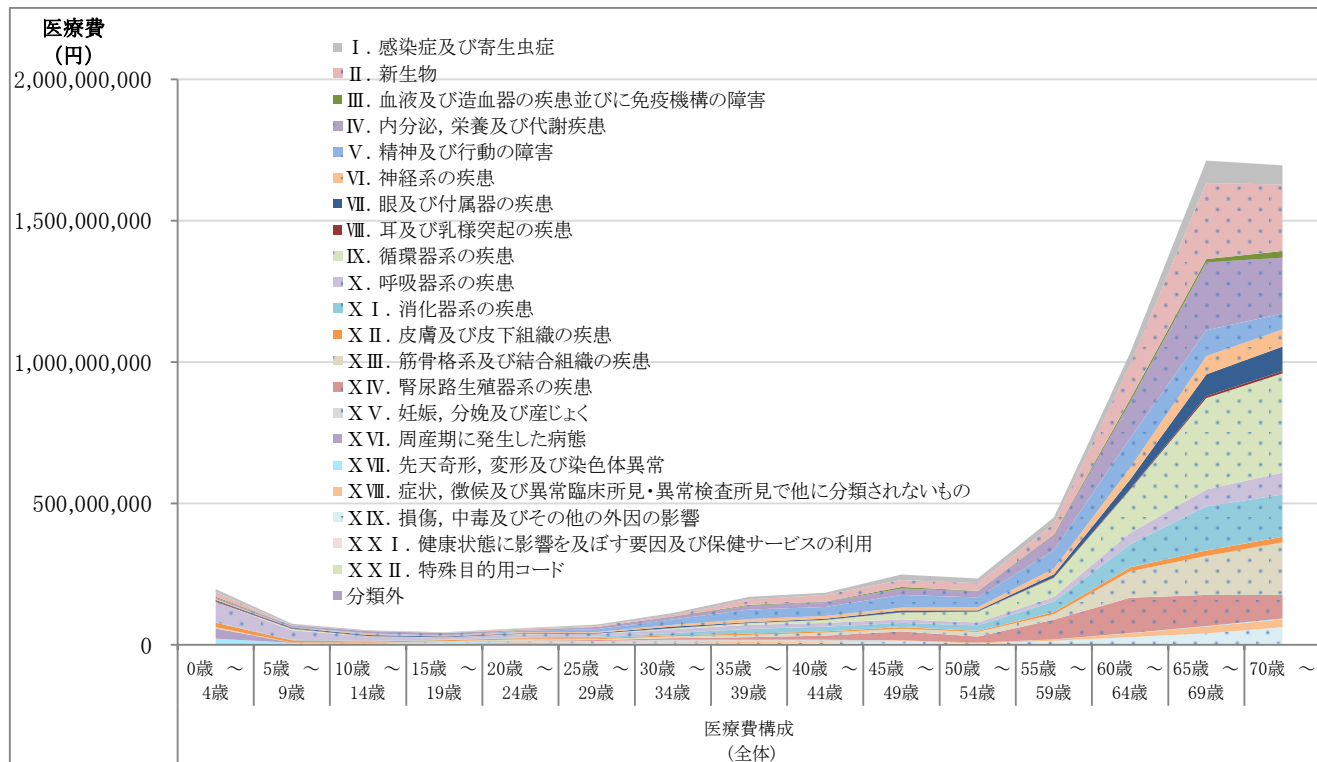


※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

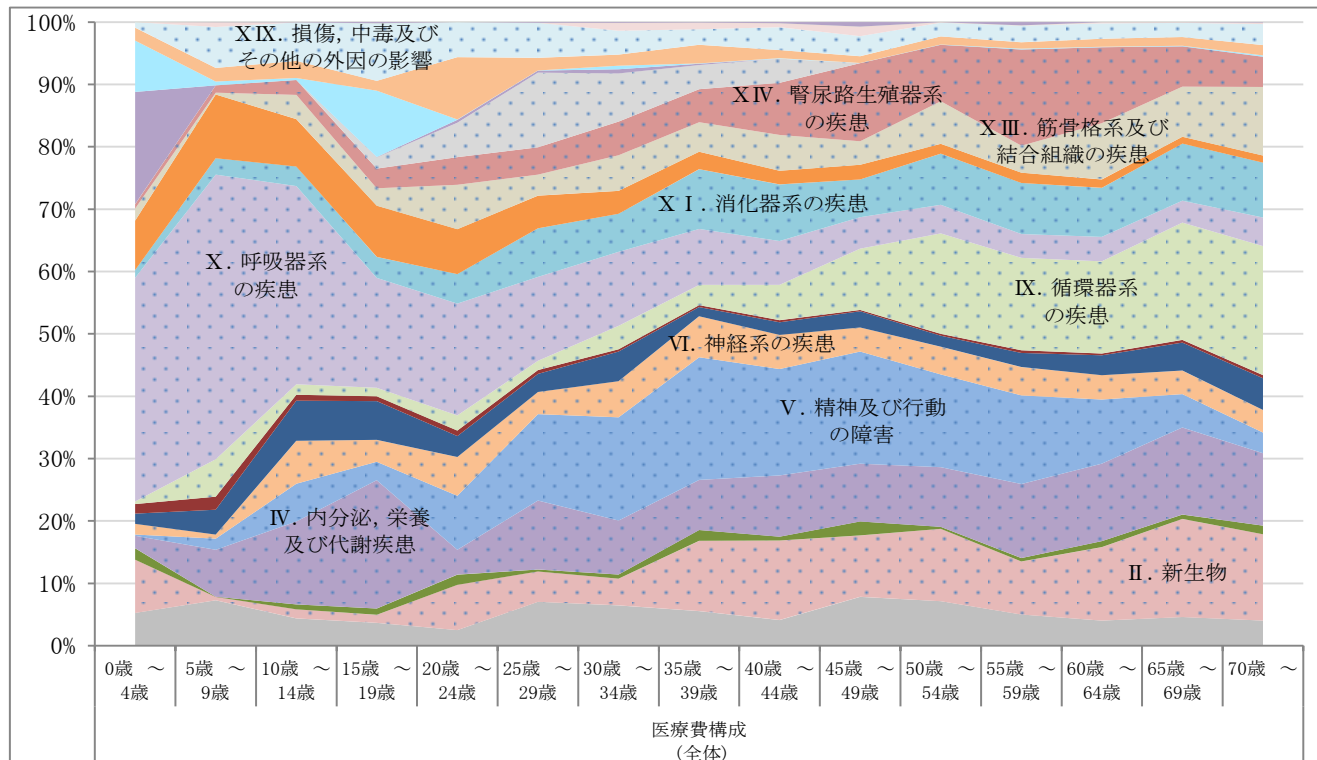
### ③年齢階層別比較

真岡市国民健康保険における、疾病別医療費と疾病別医療費構成を年齢階層別に示す。

年齢階層別医療費(全体)



年齢階層別医療費構成(全体)



真岡市国民健康保険における疾病別医療費構成を年齢階層別に示す。

「循環器系の疾患」は、44歳までは上位5疾病に入っていないが、45歳以上では、上位5疾病にあがっている。「腎尿路生殖器系の疾患」は、40歳から64歳の年齢階層で、上位5疾病にあがっている。また、「内分泌、栄養及び代謝疾患」は、ほとんどの年齢階層で、上位5疾病にあがっている。

年齢階層別医療費 大分類上位5疾病(全体)

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X. 呼吸器系の疾患	X VI. 周産期に発生した病態	II. 新生物	X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
5歳～9歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	I. 感染症及び寄生虫症	X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響
10歳～14歳	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	VI. 神経系の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患
15歳～19歳	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X. 呼吸器系の疾患	X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
20歳～24歳	X. 呼吸器系の疾患	X VII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	V. 精神及び行動の障害	II. 新生物	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
25歳～29歳	V. 精神及び行動の障害	X. 呼吸器系の疾患	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患
30歳～34歳	V. 精神及び行動の障害	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	I. 感染症及び寄生虫症
35歳～39歳	V. 精神及び行動の障害	II. 新生物	X I. 消化器系の疾患	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
40歳～44歳	V. 精神及び行動の障害	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
45歳～49歳	V. 精神及び行動の障害	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
50歳～54歳	IX. 循環器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
55歳～59歳	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物
60歳～64歳	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	II. 新生物	V. 精神及び行動の障害
65歳～69歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患
70歳～	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X I. 消化器系の疾患

真岡市国民健康保険における疾病別医療費構成を年齢階層別に示す。

ここでは男性での上位5疾病を分析する。45歳以上の年齢階層で、「循環器系の疾患」が、上位5疾病にあがっている。「腎尿路生殖器系の疾患」は、40歳以上で、上位5疾病にあがっている。また、「内分泌、栄養及び代謝疾患」は、ほとんどの年齢階層で、上位5疾病にあがっている。

年齢階層別医療費 大分類上位5疾病(男性)

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X. 呼吸器系の疾患	XVI. 周産期に発生した病態	II. 新生物	XII. 皮膚及び皮下組織の疾患	XVII. 先天奇形, 変形及び染色体異常
5歳～9歳	X. 呼吸器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	XIX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	XII. 皮膚及び皮下組織の疾患	I. 感染症及び寄生虫症
10歳～14歳	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	VI. 神経系の疾患	V. 精神及び行動の障害	XIX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響
15歳～19歳	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X. 呼吸器系の疾患	XIX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	VII. 眼及び付属器の疾患	XII. 皮膚及び皮下組織の疾患
20歳～24歳	X. 呼吸器系の疾患	XVIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	VI. 神経系の疾患	XIX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	XII. 皮膚及び皮下組織の疾患
25歳～29歳	V. 精神及び行動の障害	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X. 呼吸器系の疾患	I. 感染症及び寄生虫症	XI. 消化器系の疾患
30歳～34歳	V. 精神及び行動の障害	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	I. 感染症及び寄生虫症	XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患
35歳～39歳	V. 精神及び行動の障害	II. 新生物	XI. 消化器系の疾患	I. 感染症及び寄生虫症	X. 呼吸器系の疾患
40歳～44歳	II. 新生物	XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	XI. 消化器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
45歳～49歳	V. 精神及び行動の障害	XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	I. 感染症及び寄生虫症
50歳～54歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	V. 精神及び行動の障害	I. 感染症及び寄生虫症	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
55歳～59歳	XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	XI. 消化器系の疾患
60歳～64歳	XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	V. 精神及び行動の障害	II. 新生物
65歳～69歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	XI. 消化器系の疾患	XIV. 腎尿路生殖器系の疾患
70歳～	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	XI. 消化器系の疾患	XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患

真岡市国民健康保険における疾病別医療費構成を年齢階層別に示す。

ここでは女性での上位5疾病を分析する。50歳以上の年齢階層では、「循環器系の疾患」が、上位5疾病にあがっている。「腎尿路生殖器系の疾患」は、35歳から39歳と50歳から59歳で、上位5疾病にあがっている。また、「内分泌、栄養及び代謝疾患」は、ほとんどの年齢階層で、上位5疾病にあがっている。

年齢階層別医療費 大分類上位5疾病(女性)

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳 ～ 4歳	X. 呼吸器系の疾患	X VI. 周産期に発生した病態	X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	I. 感染症及び寄生虫症
5歳 ～ 9歳	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	I. 感染症及び寄生虫症	VII. 眼及び付属器の疾患
10歳 ～ 14歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患	I. 感染症及び寄生虫症	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患
15歳 ～ 19歳	X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患
20歳 ～ 24歳	X. 呼吸器系の疾患	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	V. 精神及び行動の障害	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患
25歳 ～ 29歳	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
30歳 ～ 34歳	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動の障害	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
35歳 ～ 39歳	V. 精神及び行動の障害	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物	X. 呼吸器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
40歳 ～ 44歳	V. 精神及び行動の障害	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X V. 妊娠, 分娩及び産じょく
45歳 ～ 49歳	II. 新生物	I. 感染症及び寄生虫症	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X. 呼吸器系の疾患	X I. 消化器系の疾患
50歳 ～ 54歳	V. 精神及び行動の障害	IX. 循環器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
55歳 ～ 59歳	V. 精神及び行動の障害	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物
60歳 ～ 64歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	V. 精神及び行動の障害
65歳 ～ 69歳	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X I. 消化器系の疾患
70歳 ～	IX. 循環器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	II. 新生物	X I. 消化器系の疾患

#### ④地区比較

地区毎に集計した。

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

#### 【真岡】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	135,344,281	5.7%	9	10,932	10	2,852	7	47,456	10
II. 新生物	266,932,812	11.3%	3	8,920	13	2,323	10	114,909	4
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	14,321,353	0.6%	17	3,031	16	823	16	17,401	19
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	293,506,188	12.4%	2	45,450	2	3,960	3	74,118	7
V. 精神及び行動の障害	140,476,243	6.0%	8	10,596	11	1,038	14	135,334	3
VI. 神経系の疾患	87,097,644	3.7%	11	19,671	6	1,828	11	47,646	9
VII. 眼及び付属器の疾患	100,783,445	4.3%	10	14,599	7	2,931	6	34,385	14
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	11,333,201	0.5%	18	3,588	15	900	15	12,592	21
IX. 循環器系の疾患	383,055,939	16.2%	1	46,377	1	3,565	4	107,449	5
X. 呼吸器系の疾患	156,015,610	6.6%	7	26,504	4	4,823	1	32,348	15
X I. 消化器系の疾患 ※	193,463,327	8.2%	4	37,554	3	4,212	2	45,931	11
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	46,065,716	2.0%	13	12,628	9	2,626	9	17,542	18
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	186,047,947	7.9%	5	25,835	5	3,068	5	60,641	8
X IV. 腎尿路生殖生殖器系の疾患	177,193,350	7.5%	6	9,601	12	1,794	12	98,770	6
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	21,976,755	0.9%	16	359	19	124	19	177,232	2
X VI. 周産期に発生した病態 ※	22,387,480	0.9%	15	80	21	42	21	533,035	1
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	8,283,849	0.4%	19	1,588	18	268	18	30,910	16
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	41,229,926	1.7%	14	13,110	8	2,817	8	14,636	20
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	63,246,859	2.7%	12	5,201	14	1,673	13	37,804	12
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	7,345,258	0.3%	20	2,603	17	331	17	22,191	17
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	2,545,027	0.1%	21	238	20	69	20	36,884	13
合計	2,358,652,210			130,007		8,335		282,982	

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため, “男性” においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため, 周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため, データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト, 月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。  
 ※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため, 合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。  
 ※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため, 合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【山前】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	33,375,169	4.5%	9	3,071	10	789	6	42,301	11
II. 新生物	84,638,611	11.5%	2	2,407	13	657	10	128,826	4
III. 血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害	4,501,126	0.6%	16	1,090	15	247	15	18,223	16
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	83,139,382	11.3%	3	14,852	2	1,215	3	68,427	7
V. 精神及び行動の障害	80,697,343	10.9%	4	3,009	11	299	14	269,891	2
VI. 神経系の疾患	27,629,582	3.7%	11	5,595	6	533	11	51,838	9
VII. 眼及び付属器の疾患	30,105,114	4.1%	10	4,235	7	787	7	38,253	13
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	3,117,915	0.4%	18	932	16	238	16	13,100	17
IX. 循環器系の疾患	124,676,314	16.9%	1	16,037	1	1,108	4	112,524	6
X. 呼吸器系の疾患	41,822,595	5.7%	8	7,519	5	1,320	1	31,684	14
X I. 消化器系の疾患 ※	54,277,193	7.4%	7	12,389	3	1,258	2	43,146	10
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	13,303,028	1.8%	13	3,239	9	687	9	19,364	15
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	54,349,550	7.4%	6	7,983	4	907	5	59,922	8
X IV. 泌尿路生殖器系の疾患	58,034,498	7.9%	5	2,691	12	487	13	119,167	5
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	3,587,215	0.5%	17	74	20	25	20	143,489	3
X VI. 周産期に発生した病態 ※	8,821,258	1.2%	14	33	21	12	21	735,105	1
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	844,680	0.1%	19	497	18	78	18	10,829	19
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	8,755,481	1.2%	15	3,272	8	712	8	12,297	18
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	21,832,254	3.0%	12	1,684	14	527	12	41,427	12
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	301,076	0.0%	20	691	17	89	17	3,383	21
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	206,216	0.0%	21	94	19	28	19	7,365	20
合計	738,015,600			39,436		2,360		312,718	

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。  
 ※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。  
 ※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。



真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【大内】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	17,532,804	3.1%	11	2,222	12	577	9	30,386	15
II. 新生物	53,228,001	9.3%	5	1,906	13	537	10	99,121	4
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	9,968,123	1.7%	14	767	16	199	16	50,091	12
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	63,934,797	11.2%	3	10,776	2	951	3	67,229	9
V. 精神及び行動の障害	72,032,745	12.6%	2	2,323	11	222	14	324,472	1
VI. 神経系の疾患	22,777,162	4.0%	10	4,259	6	421	12	54,103	10
VII. 眼及び付属器の疾患	22,971,846	4.0%	9	3,339	7	670	6	34,286	13
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	2,592,221	0.5%	17	846	15	222	14	11,677	18
IX. 循環器系の疾患	86,641,725	15.2%	1	12,698	1	935	4	92,665	6
X. 呼吸器系の疾患	31,267,932	5.5%	8	5,472	5	1,069	1	29,250	16
X I. 消化器系の疾患 ※	50,663,489	8.9%	6	9,741	3	1,011	2	50,112	11
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	10,482,732	1.8%	13	2,743	8	586	8	17,889	17
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	55,909,358	9.8%	4	6,947	4	768	5	72,799	8
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	39,260,330	6.9%	7	2,364	10	406	13	96,700	5
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	1,792,914	0.3%	18	23	20	9	20	199,213	2
X VI. 周産期に発生した病態 ※	1,381,782	0.2%	19	11	21	7	21	197,397	3
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	5,467,212	1.0%	16	394	18	72	18	75,934	7
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	6,853,432	1.2%	15	2,661	9	589	7	11,636	19
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	14,739,585	2.6%	12	1,395	14	469	11	31,428	14
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	318,134	0.1%	20	451	17	78	17	4,079	21
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	103,496	0.0%	21	27	19	15	19	6,900	20
合計	569,919,820			31,527		1,945		293,018	

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため, “男性” においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため, 周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため, データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト, 月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。  
 ※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため, 合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。  
 ※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため, 合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【中村】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	43,968,173	4.5%	10	4,148	10	1,027	9	42,812	13
II. 新生物	100,440,853	10.2%	3	3,262	13	900	10	111,601	5
III. 血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害	8,387,437	0.9%	16	1,293	16	328	16	25,571	16
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	107,390,139	10.9%	2	18,152	2	1,581	2	67,925	8
V. 精神及び行動の障害	81,192,722	8.2%	5	3,848	11	371	14	218,848	2
VI. 神経系の疾患	45,147,607	4.6%	9	8,378	6	765	11	59,016	9
VII. 眼及び付属器の疾患	37,949,594	3.9%	11	5,876	7	1,094	6	34,689	15
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	5,021,880	0.5%	18	1,544	15	349	15	14,389	20
IX. 循環器系の疾患	158,897,633	16.1%	1	19,376	1	1,441	4	110,269	6
X. 呼吸器系の疾患	67,000,076	6.8%	8	10,167	5	1,773	1	37,789	14
X I. 消化器系の疾患 ※	75,699,643	7.7%	6	14,938	3	1,578	3	47,972	12
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	17,877,163	1.8%	13	5,087	9	1,046	8	17,091	17
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	71,177,710	7.2%	7	11,462	4	1,266	5	56,223	10
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	90,058,069	9.1%	4	3,748	12	642	13	140,277	3
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	5,464,023	0.6%	17	115	20	41	19	133,269	4
X VI. 周産期に発生した病態 ※	3,895,225	0.4%	19	18	21	12	21	324,602	1
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	10,880,838	1.1%	15	880	18	128	17	85,007	7
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	15,874,084	1.6%	14	5,286	8	1,083	7	14,658	19
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	37,094,586	3.8%	12	2,241	14	686	12	54,074	11
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1,912,125	0.2%	20	998	17	124	18	15,420	18
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	187,570	0.0%	21	119	19	22	20	8,526	21
合計	985,517,150			52,964		3,123		315,567	

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。  
 ※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。  
 ※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【久下田】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	19,792,200	3.3%	11	2,667	11	642	9	30,829	13
II. 新生物	74,046,498	12.2%	3	1,877	13	500	10	148,093	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6,344,409	1.0%	15	777	16	217	15	29,237	14
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	90,194,243	14.8%	2	12,822	2	1,044	3	86,393	5
V. 精神及び行動の障害	42,318,258	7.0%	8	2,220	12	217	15	195,015	1
VI. 神経系の疾患	21,116,480	3.5%	10	4,689	6	456	12	46,308	8
VII. 眼及び付属器の疾患	23,164,402	3.8%	9	3,240	9	669	8	34,625	11
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	3,902,376	0.6%	16	930	15	232	14	16,821	18
IX. 循環器系の疾患	90,363,022	14.9%	1	12,823	1	931	4	97,060	3
X. 呼吸器系の疾患	46,044,962	7.6%	7	6,841	5	1,166	1	39,490	9
X I. 消化器系の疾患 ※	48,967,529	8.0%	5	9,757	3	1,054	2	46,459	7
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	15,305,885	2.5%	12	3,308	8	687	7	22,279	17
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	51,726,623	8.5%	4	6,924	4	862	5	60,008	6
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	47,756,598	7.9%	6	3,115	10	499	11	95,705	4
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	567,043	0.1%	19	29	20	15	20	37,803	10
X VI. 周産期に発生した病態 ※	1,217	0.0%	21	1	21	1	21	1,217	21
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	1,125,347	0.2%	18	722	17	80	17	14,067	19
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	9,047,711	1.5%	14	3,597	7	757	6	11,952	20
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	13,896,270	2.3%	13	1,222	14	425	13	32,697	12
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	2,139,642	0.4%	17	570	18	78	18	27,431	15
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	494,745	0.1%	20	84	19	22	19	22,488	16
合計	608,315,460			32,920		2,059		295,442	

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。  
 ※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。  
 ※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【長沼】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	23,585,815	8.2%	6	1,359	10	319	8	73,937	5
II. 新生物	32,521,332	11.3%	3	960	13	249	10	130,608	2
III. 血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害	688,255	0.2%	18	376	17	99	16	6,952	21
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	37,273,996	13.0%	1	5,848	2	467	3	79,816	3
V. 精神及び行動の障害	23,452,788	8.2%	8	1,069	12	102	14	229,929	1
VI. 神経系の疾患	10,909,950	3.8%	10	1,960	6	184	13	59,293	7
VII. 眼及び付属器の疾患	10,859,441	3.8%	11	1,715	7	329	6	33,007	13
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	1,235,432	0.4%	17	466	16	101	15	12,232	17
IX. 循環器系の疾患	34,626,796	12.1%	2	6,110	1	448	4	77,292	4
X. 呼吸器系の疾患	25,555,064	8.9%	5	3,637	4	552	1	46,295	10
X I. 消化器系の疾患 ※	27,365,990	9.5%	4	5,267	3	518	2	52,830	9
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	6,272,787	2.2%	13	1,661	8	298	9	21,050	16
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	23,584,400	8.2%	7	3,450	5	402	5	58,668	8
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	14,421,923	5.0%	9	1,175	11	201	11	71,751	6
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	183,903	0.1%	19	12	20	7	19	26,272	15
X VI. 周産期に発生した病態 ※	45,476	0.0%	20	6	21	5	21	9,095	19
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	2,138,630	0.7%	15	471	15	52	17	41,128	11
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3,533,422	1.2%	14	1,479	9	324	7	10,906	18
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	7,464,636	2.6%	12	632	14	195	12	38,280	12
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1,280,930	0.4%	16	263	18	39	18	32,844	14
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	42,374	0.0%	21	31	19	6	20	7,062	20
合計	287,043,340			16,244		949		302,469	

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。  
 ※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。  
 ※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【物部】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	15,291,855	3.5%	9	1,661	12	413	9	37,026	14
II. 新生物	68,860,874	15.9%	2	1,508	13	372	10	185,110	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	9,853,398	2.3%	13	561	16	128	16	76,980	6
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	49,434,712	11.4%	3	9,220	1	703	3	70,320	8
V. 精神及び行動の障害	37,398,059	8.6%	6	1,911	10	167	14	223,940	1
VI. 神経系の疾患	14,548,331	3.4%	10	3,378	6	303	13	48,014	13
VII. 眼及び付属器の疾患	13,645,945	3.2%	11	2,504	7	488	6	27,963	16
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	1,965,480	0.5%	17	639	15	148	15	13,280	20
IX. 循環器系の疾患	69,995,220	16.2%	1	9,154	2	643	4	108,857	4
X. 呼吸器系の疾患	17,765,705	4.1%	8	4,307	5	821	1	21,639	17
X I. 消化器系の疾患 ※	40,028,206	9.3%	4	7,006	3	706	2	56,697	11
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	7,287,716	1.7%	14	2,110	9	462	7	15,774	19
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	40,021,245	9.3%	5	5,552	4	609	5	65,716	10
X IV. 腎尿路生殖生殖器系の疾患	22,583,962	5.2%	7	1,877	11	313	12	72,153	7
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	924,060	0.2%	19	43	20	14	20	66,004	9
X VI. 周産期に発生した病態 ※	622,022	0.1%	20	8	21	5	21	124,404	3
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	429,494	0.1%	21	410	17	54	17	7,954	21
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	6,704,360	1.6%	15	2,274	8	414	8	16,194	18
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	10,894,790	2.5%	12	947	14	324	11	33,626	15
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	2,949,028	0.7%	16	360	18	54	17	54,612	12
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	1,233,678	0.3%	18	58	19	15	19	82,245	5
合計	432,438,140			24,077		1,488		290,617	

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。  
 ※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。  
 ※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。  
 ※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

## (2) 中分類による疾病別医療費の地区比較

疾病分類表における中分類単位で地区毎に集計し、医療費が高額な上位10疾病を以下に示す。  
 ※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

### 【真岡】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0402	糖尿病	157,123,390	6.7%	2,541
2	0901	高血圧性疾患	152,164,958	6.5%	2,580
3	0403	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	125,179,491	5.3%	2,993
4	1402	腎不全	121,086,466	5.1%	171
5	1112	その他の消化器系の疾患	92,027,177	3.9%	2,598
6	0210	その他の悪性新生物	91,765,185	3.9%	836
7	0105	ウイルス肝炎	81,793,800	3.5%	435
8	0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	72,842,375	3.1%	229
9	0903	その他の心疾患	69,314,819	2.9%	1,179
10	0704	その他の眼及び付属器の疾患	64,133,827	2.7%	1,892

### 【山前】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	56,944,514	7.7%	82
2	0901	高血圧性疾患	55,400,743	7.5%	866
3	0402	糖尿病	46,036,673	6.2%	868
4	0210	その他の悪性新生物	44,386,480	6.0%	235
5	1402	腎不全	43,206,313	5.9%	50
6	0403	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	34,618,906	4.7%	874
7	1112	その他の消化器系の疾患	26,820,131	3.6%	751
8	0704	その他の眼及び付属器の疾患	18,353,517	2.5%	496
9	0902	虚血性心疾患	16,991,253	2.3%	230
10	0606	その他の神経系の疾患	15,591,374	2.1%	479

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【大内】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	48,812,546	8.6%	56
2	0901	高血圧性疾患	47,344,848	8.3%	731
3	0402	糖尿病	31,879,947	5.6%	613
4	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	29,333,284	5.1%	680
5	1112	その他の消化器系の疾患	25,663,986	4.5%	655
6	1402	腎不全	23,987,277	4.2%	37
7	0210	その他の悪性新生物	16,745,295	2.9%	216
8	1303	脊椎障害(脊椎症を含む)	16,143,070	2.8%	212
9	0504	気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	14,001,580	2.5%	80
10	0606	その他の神経系の疾患	13,525,932	2.4%	380

【中村】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	1402	腎不全	65,782,979	6.7%	48
2	0901	高血圧性疾患	65,067,367	6.6%	1,091
3	0402	糖尿病	59,313,980	6.0%	970
4	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	49,167,382	5.0%	79
5	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	45,018,118	4.6%	1,208
6	0210	その他の悪性新生物	38,554,724	3.9%	366
7	1112	その他の消化器系の疾患	38,044,138	3.9%	997
8	0606	その他の神経系の疾患	28,079,639	2.8%	693
9	0105	ウイルス肝炎	27,302,141	2.8%	141
10	0903	その他の心疾患	24,483,025	2.5%	466

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【久下田】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0403	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	47,800,213	7.9%	794
2	0901	高血圧性疾患	42,520,765	7.0%	722
3	0402	糖尿病	39,379,434	6.5%	625
4	1402	腎不全	30,051,904	4.9%	27
5	0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	28,874,718	4.7%	58
6	0210	その他の悪性新生物	27,057,182	4.4%	198
7	1112	その他の消化器系の疾患	26,237,174	4.3%	691
8	0205	気管、気管支及び肺の悪性新生物	17,736,062	2.9%	41
9	0704	その他の眼及び付属器の疾患	15,141,773	2.5%	419
10	0606	その他の神経系の疾患	13,834,666	2.3%	407

【長沼】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0402	糖尿病	20,284,427	7.1%	249
2	0901	高血圧性疾患	20,215,700	7.0%	342
3	0105	ウイルス肝炎	20,211,366	7.0%	40
4	0403	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	15,197,885	5.3%	355
5	1112	その他の消化器系の疾患	13,349,048	4.7%	373
6	0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	12,452,699	4.3%	25
7	0903	その他の心疾患	8,557,393	3.0%	140
8	1402	腎不全	8,429,335	2.9%	7
9	0210	その他の悪性新生物	7,497,401	2.6%	91
10	0201	胃の悪性新生物	7,115,938	2.5%	46



真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【物部】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0901	高血圧性疾患	30,809,094	7.1%	504
2	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	24,775,324	5.7%	538
3	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	24,174,127	5.6%	46
4	0402	糖尿病	23,233,337	5.4%	449
5	0903	その他の心疾患	22,739,856	5.3%	153
6	0210	その他の悪性新生物	21,231,740	4.9%	135
7	1112	その他の消化器系の疾患	21,186,788	4.9%	440
8	1302	関節症	12,050,996	2.8%	161
9	0202	結腸の悪性新生物	11,595,177	2.7%	69
10	0606	その他の神経系の疾患	11,474,118	2.7%	289

疾病分類表における中分類単位で地区毎に集計し、患者数が多い上位10疾病を以下に示す。

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【真岡】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	125,179,491	2,993	35.9%
2	1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	41,229,926	2,817	33.8%
3	1112	その他の消化器系の疾患	92,027,177	2,598	31.2%
4	0901	高血圧性疾患	152,164,958	2,580	31.0%
5	0402	糖尿病	157,123,390	2,541	30.5%
6	1003	その他の急性上気道感染症	15,085,842	2,399	28.8%
7	1006	アレルギー性鼻炎	26,445,837	2,293	27.5%
8	0703	屈折及び調節の障害	12,511,506	2,222	26.7%
9	1105	胃炎及び十二指腸炎	33,127,917	2,186	26.2%
10	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	18,347,349	2,063	24.8%

【山前】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	34,618,906	874	37.0%
2	0402	糖尿病	46,036,673	868	36.8%
3	0901	高血圧性疾患	55,400,743	866	36.7%
4	1112	その他の消化器系の疾患	26,820,131	751	31.8%
5	1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	8,755,481	712	30.2%
6	1003	その他の急性上気道感染症	4,464,049	682	28.9%
7	1105	胃炎及び十二指腸炎	10,749,691	668	28.3%
8	0703	屈折及び調節の障害	3,736,818	614	26.0%
9	1006	アレルギー性鼻炎	6,926,393	563	23.9%
10	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	3,757,269	531	22.5%

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【大内】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0901	高血圧性疾患	47,344,848	731	37.6%
2	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	29,333,284	680	35.0%
3	1112	その他の消化器系の疾患	25,663,986	655	33.7%
4	0402	糖尿病	31,879,947	613	31.5%
5	1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	6,853,432	589	30.3%
6	1105	胃炎及び十二指腸炎	9,274,691	553	28.4%
7	0703	屈折及び調節の障害	2,742,530	520	26.7%
8	1003	その他の急性上気道感染症	3,067,689	480	24.7%
9	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	4,093,153	470	24.2%
10	0704	その他の眼及び付属器の疾患	13,525,365	456	23.4%

【中村】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	45,018,118	1,208	38.7%
2	0901	高血圧性疾患	65,067,367	1,091	34.9%
3	1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	15,874,084	1,083	34.7%
4	1112	その他の消化器系の疾患	38,044,138	997	31.9%
5	0402	糖尿病	59,313,980	970	31.1%
6	1003	その他の急性上気道感染症	5,210,402	861	27.6%
7	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	8,415,724	846	27.1%
8	0703	屈折及び調節の障害	4,850,442	845	27.1%
9	1105	胃炎及び十二指腸炎	13,312,039	806	25.8%
10	1202	皮膚炎及び湿疹	8,276,066	768	24.6%

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【久下田】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	47,800,213	794	38.6%
2	1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	9,047,711	757	36.8%
3	0901	高血圧性疾患	42,520,765	722	35.1%
4	1112	その他の消化器系の疾患	26,237,174	691	33.6%
5	0402	糖尿病	39,379,434	625	30.4%
6	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	6,384,357	543	26.4%
7	1105	胃炎及び十二指腸炎	6,658,278	514	25.0%
8	1202	皮膚炎及び湿疹	5,012,992	497	24.1%
9	0703	屈折及び調節の障害	2,709,788	496	24.1%
10	1006	アレルギー性鼻炎	6,275,122	448	21.8%

【長沼】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	1112	その他の消化器系の疾患	13,349,048	373	39.3%
2	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	15,197,885	355	37.4%
3	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	4,446,907	350	36.9%
4	0901	高血圧性疾患	20,215,700	342	36.0%
5	1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3,533,422	324	34.1%
6	1105	胃炎及び十二指腸炎	3,655,098	272	28.7%
7	0402	糖尿病	20,284,427	249	26.2%
8	0703	屈折及び調節の障害	1,442,788	247	26.0%
9	1202	皮膚炎及び湿疹	4,177,590	221	23.3%
10	1006	アレルギー性鼻炎	3,225,316	219	23.1%

真岡	山前	大内	中村
久下田	長沼	物部	

【物部】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0403	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	24,775,324	538	36.2%
2	0901	高血圧性疾患	30,809,094	504	33.9%
3	0402	糖尿病	23,233,337	449	30.2%
4	1112	その他の消化器系の疾患	21,186,788	440	29.6%
5	1003	その他の急性上気道感染症	2,691,310	422	28.4%
6	1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	6,704,360	414	27.8%
7	0703	屈折及び調節の障害	2,092,273	364	24.5%
8	1105	胃炎及び十二指腸炎	5,361,349	351	23.6%
9	1202	皮膚炎及び湿疹	3,976,209	330	22.2%
10	0704	その他の眼及び付属器の疾患	7,534,152	320	21.5%

## 2. 用語集

あ行	
悪性新生物	悪性腫瘍、癌ともいう。遺伝子異常によって、異常に増殖した細胞のことを指す。このがん細胞が、周囲の大切な組織を圧迫したり、壊したり、機能障害を引き起こし転移を繰り返す。
悪性リンパ腫	リンパ節、脾臓、扁桃などリンパ組織の細胞が悪性化して、増殖する進行性の病。癌と同じ性質をもつ。
アルツハイマー病	初老期痴呆の一つ。全体的脳機能の障害を特徴とする記憶喪失、計算能力の障害、空間・時間認識の障害などの症状がみられる。脳が次第に萎縮していき、知能、身体全体の機能も衰えていく。
ウイルス肝炎	ウイルスに感染して、肝臓の細胞が壊れていく病。A型、B型、C型、D型、E型があり、A型、E型は主に食べ物を介して感染し、B型、C型、D型は主に血液を介して感染する。B型、C型については、感染すると慢性の肝臓病を引き起こす原因となる。
か行	
拡張期血圧	心臓が拡張し、血液が心臓に入り込んでくる状態。血圧が最も低くなることから最低血圧ともいわれる。
狭心症	血管内が狭くなることにより発作的に、胸の痛みや圧迫感などの症状を起こす病気。主な原因は、糖尿病、脂質異常症、高血圧から引き起こされる動脈硬化。
虚血性心疾患	冠動脈の閉塞や狭窄などにより心筋への血流が阻害され、心臓に障害が起こる疾患の総称。
空腹時血糖	検査の時間より10～14時間前から食事をしていない空腹時に測定した血糖値。つまり、インスリンの作用を受けていない状態で測った血糖（血液中のブドウ糖の割合）のこと。
くも膜下出血	脳血管障害の一つであり、脳を保護する3層の膜「硬膜」「くも膜」「軟膜」のうち、「くも膜」の下に出血がある状態をいう。男性より女性が2倍多いとされ、一度発症すると再発しやすいという特徴を持つ。
血液透析	血液を体外に取り出し、ダイアライザーと呼ばれる透析器（人工腎臓）に通すことによって、血液を浄化する。体内にたまった尿毒症の原因物質や老廃物の排泄、血液中のNa(ナトリウム)・K(カリウム)・Ca(カルシウム)といった電解質と酸性・アルカリ性のバランスの維持、体液量の調節を代行し、血液を浄化する。きれいになった血液は、再び体内に戻される。
血清クレアチニン (Cr)	筋肉で作られる老廃物の一つ。腎機能が低下するとクレアチニンが増加するので、血液中のクレアチニンを検査することで腎機能をみる指標となっている。
健康日本21（第2次）	厚生労働省が健康増進法の規定に基づき、国民の健康の増進の為に示した方針で、平成24年度末に終了した健康日本21を全面改正し、平成25年度から適用されている。基本方針としては、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」、「生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底」、「社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上」、「健康を支え、守るための社会環境の整備」、「栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善」が挙げられている。 ※健康寿命:平均寿命から介護(自立した生活ができない)期間を引いた年数。健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間を指す。 ※健康格差:地域、職業、経済力、世帯構成等による健康状態やその要因となる生活習慣の差。

高齢化率	総人口に対して65歳以上の高齢者人口が占める割合。7%を超えると「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、21%を超えると「超高齢化社会」という。
高血圧症	血圧が、常に最高血圧（収縮期）140mmHg以上、あるいは最低血圧（拡張期）90mmHg以上である状態で、単に高血圧ともいう。高血圧を放っておくと、脳卒中や心筋梗塞など動脈硬化による様々な病気の原因となる。
国保データベースシステム（KDB）	国保連合会が保険者の委託を受けて行う各種制度の審査支払業務及び保険者事務共同電算業務を通じて管理する「特定健診・特定保健指導」、「医療（後期高齢者医療含む）」、「介護保険」等に係る情報を利活用し、統計情報等を保険者向けに情報提供することで、保険者の効率的かつ効果的な保健事業の実施をサポートをすることを目的として、国保中央会で構築されたシステム。
さ行	
産じょく	産褥（さんじょく）とは、妊娠及び分娩を原因として発生した生殖器及び全身の変化が、妊娠前の状態に戻るまでの期間のこと。
ジェネリック医薬品	後発医薬品とも呼ばれる。先発医薬品（新薬）の特許が切れた後、先発医薬品と同じ有効成分で製造・供給される医薬品のことで、先発医薬品よりも安価で供給される。
糸球体腎炎	糸球体（小さな穴の空いた毛細血管でできた微細な球状の腎組織）が侵される腎臓の病気。糸球体腎炎は、むくみ（浮腫）、高血圧および尿中での赤血球の検出を特徴とする。腎臓のみが侵される原発性のものと、体内の他の部分に発生したさまざまな病気によって引き起こされる続発性のものがある。
脂質異常症	血液中の脂質（コレステロールや中性脂肪）が多過ぎる生活習慣病。悪化すると、動脈硬化を引き起こし、心筋梗塞や脳梗塞などの重大な病気につながる。
死亡率	ある一定期間に死亡した人数を、その期間の人口で割った数。
シャント	血液透析を行う際、十分な血液量が確保できるように、動脈と静脈を体内または体外で直接つなぎ合わせた血管の事。
周産期	出産前後の期間で、妊娠22週から出生後7日未満を指す。
循環器	血液やリンパ液によって体内各部に栄養を補給し、老廃物を運び去る器官。心臓、動脈、静脈、毛細血管等。循環器系の疾患(中分類)については、P101のIX・参照。
収縮期血圧	心臓が収縮し、血液が心臓から血管に送り出される状態。血圧が最も高くなることから最高血圧ともいわれる。
出生率	1年間の出生数を10月1日時点の人口総数で割った率。人口総数には、男女、全年齢を含む。
心筋梗塞	虚血性心疾患の一つで、心臓の筋肉細胞に酸素や栄養を送っている冠動脈血管の閉塞や狭窄等により血液の流量が下がり、心筋（心臓の筋肉）が虚血（貧血）状態になり壊死してしまう状態。
人工透析	→「血液透析」「腹膜透析」の項目参照
心疾患	心臓に起こる病気の総称で心臓病とも呼ばれる。主な心疾患としては、心不全や狭心症、心筋梗塞等がある。

腎硬化症	高血圧が原因で腎臓の血管に動脈硬化を起し、腎臓の障害をもたらす疾患。高血圧が長く続くと、腎臓の糸球体へ血液を送る細動脈に圧力がかかるため、血管内の細胞がそれに反応して増殖し、血管の内腔が狭くなる（細動脈硬化）。豊富な血流が必要な糸球体で血液の流れが悪くなると、徐々に糸球体は硬化し、腎機能が低下し（老廃物の濾過ができなくなる）、慢性腎不全に至る。腎硬化症で慢性腎不全になった患者は、同時に腎臓以外の動脈硬化も進行しているため、生命にかかわる心筋梗塞や脳卒中などの危険性が高いと考えられる。
腎不全	腎臓の機能が低下し、機能が正常時の30%以下程度に落ちた状態。急性腎不全と慢性腎不全があり、慢性腎不全が末期腎不全になると、腎臓の機能が極度に低下し、生命維持のために人工透析や腎臓移植が必要になる。
生活習慣病	食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣を起因とし、発症・進行する疾患の総称。代表的なもので高血圧、糖尿病、脂質異常症などがある。
積極的支援	特定健診の結果、いわゆるメタボリックシンドローム（以下「メタボ」と略称）と判定された40～64歳の人に対して、初回面接のあと3～6か月の継続的な支援を行うことにより、内臓脂肪の減量をめざす。6ヵ月間にわたり、数回保健指導者と関わることにより、体重減量、または禁煙といった、個人の目標の達成を支援する。
先天奇形	先天的（生まれつき）に、肉眼形態上の異常を持っていることを指す。その結果として機能障害をきたすこともある。
た行	
大分類	社会保険表章用121項目疾病分類に基づく「大分類」「中分類」。（P100～の表の疾病項目で紺色・ローマ数字の箇所が「大分類」。その下の白・4ケタの数字の箇所が「中分類」）
中性脂肪	人間の体を動かすエネルギー源となる物質で、別名「トリグリセリド」と呼ばれる。健康診査ではTGと表される。中性脂肪値（TG値）が高いと、血液中に中性脂肪が多いことを示し、動脈硬化を進める恐れがある。
中分類	→「大分類」の項目参照
痛風	尿酸が体の中にたまり、それが結晶になって激しい関節炎を伴う症状。放置すると、体のあちこちに結節（コブや隆起物）ができたり、腎臓が悪くなったりする重大な病気。
統合失調症	精神障害の一つで、幻覚や妄想という症状が特徴的な精神疾患。以前は「精神分裂病」が正式の病名だったが、「統合失調症」へと名称変更された。基礎症状としては、認知障害や自閉等の陰性症状（通常ある機能が失われる症状）があり、副次的症状としては、幻覚や妄想等の陽性症状（通常ない状態のものが出てくる症状）がある。
糖尿病	血糖値を下げるホルモン（インスリン）の作用が低下することで、体内に取り入れた栄養素がうまく活用されず、血液中のブドウ糖（血糖）が多くなっている状態。ひどくなると尿が多くなる、のどが渇く、お腹が空く、体重が減る、疲れやすい等の症状が出て、時には意識障害（糖尿病昏睡）となることもある。
※Ⅰ型糖尿病	膵臓のβ細胞が壊れてしまい、まったくインスリンが分泌されなくなってしまう症状。発症するのは子どもや若い人に多く、生活習慣とは無関係の自己免疫性疾患などが原因とされる。
※Ⅱ型糖尿病	遺伝的に糖尿病になりやすい人が、肥満・運動不足・ストレスなどをきっかけに発症する。インスリンの効果が出にくくなったり、分泌のタイミングが悪くなったりするが、自覚症状がないため、いつ発症したのかわからないまま健康診断の際に発見されることがよくある。生活習慣病の一つ。



糖尿病性腎症	糖尿病の三大合併症の一つで、糖尿病により腎機能が悪化（腎不全）し、人工透析に移行する原因疾患第一位を占める。
動機付け支援	特定健診の結果、いわゆるメタボリックシンドローム（以下「メタボ」と略称）予備群またはメタボと判定された人に対して、原則1回の個別面接（20分以上）またはグループ支援（80分以上）をおこない、医師、保健師、管理栄養士などとの面談により、生活習慣改善のための実践的なアドバイスをを行う。
動脈硬化	心臓から全身に血液を送り込む役割を担う動脈の内側の壁が、文字通り硬化して、血管が細くなり、血液が流れにくくなる状態をいう。狭心症や心筋梗塞などの心疾患、糖尿病による足の壊疽（壊死）は、動脈硬化が起因している。
特定健康診査	メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目して、生活習慣病といわれる糖尿病や高血圧症、脂質異常症のリスクの有無を検査することを目的とした健康診断であり、40～74歳を対象としている。通称「特定健診」「メタボ健診」とも呼ばれる。
特定保健指導	特定健康診査の結果から、生活習慣病の発症リスクが高い人に対して、医師や保健師や管理栄養士等が各対象者の身体状況に合わせた生活習慣を見直すための保健指導を行うこと。
な行	
日本再興戦略	平成25年6月に閣議決定された、第二次安倍内閣が掲げる成長戦略。戦略市場創造プランとして、国民の「健康寿命」の延伸、クリーン・経済的なエネルギー需要の実現、安全・便利で経済的な次世代インフラの構築、政界を巻き付ける地域資源で稼ぐ地域社会の実現の4つのテーマを掲げている。
尿蛋白	尿の中に含まれる蛋白の総称。腎臓に異常をきたすと、蛋白質はそのまま尿の中に排泄されるため、尿蛋白の検査をすることにより腎臓の障害の程度を判断する事ができる。
人間ドック	定期的に病院・診療所に行き、身体の精密検査を受けることで、普段気が付きにくい疾患や臓器の異常や健康度のチェックをする健康診断の一つ。データ等をもとに、医師の問診や診察を受け、生活習慣病の予防や治療、その他健康問題の指導・助言を受ける。
脳血管疾患	脳動脈に異常が起きることが原因でおこる病気（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血等）の総称。脳血管障害ともいう。
脳梗塞	脳に酸素や栄養を供給する動脈の閉塞や狭窄のため、脳の血液が不足し、脳細胞が壊死、または壊死に近い状態になること。
脳出血	脳内の血管が破れ出血した状態。全体の7割程度が高血圧を原因としている。
は行	
白血病	血液の癌とも呼ばれる、血液の中の白血球が癌になる状態で、大きくは急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病の4つに分類される。
パーキンソン病	脳が出す運動の指令が筋肉にうまく伝わらずに、スムーズに動けなく症状。中脳の一部を占める神経核である黒質の神経細胞が減ってしまうことが原因とされる。安静時振戦（ふるえ）、筋強剛、無動・寡動、姿勢保持反射障害を四大症状としている。
腹膜透析	腹膜透析は、在宅で行う透析療法で、自分の体の中の「腹膜」を利用して血液をきれいにする。寝ている間に器械を使って自動的に行う方法と、日中に数回透析液バッグを交換する方法がある。

併用禁忌	いわゆる飲み合わせの悪い薬の組み合わせのこと。併用した場合、(1)副作用の発現、(2)作用の増強、(3)作用の減弱などの悪影響を及ぼす。										
本態性高血圧	高血圧となっている原因がはっきりとしない状態のことで、高血圧患者の大半が当てはまる。										
ポピュレーションアプローチ	疾患の発生リスクを高低で対象者を分け、発症リスクが高い対象者に対する個別アプローチがハイリスクアプローチで、ハイリスク者に該当しない大多数の中の潜在的リスクを抱えた対象者に対する集団アプローチのことをポピュレーションアプローチという。										
ま行											
慢性腎不全 (CKD)	腎臓の慢性的な病気のため、腎臓の機能が正常時の30%以下程度に落ちた状態。末期腎不全期に陥ると、腎臓機能が10%以下にまで落ち込み、血清クレアチニン値は8mg/dl以上になり、この段階では尿がほとんどでなくなり、人工透析や腎臓移植が必要な状態になる。										
メタボリックシンドローム	<p>内臓脂肪型肥満を共通の要因として、高血糖、脂質異常、高血圧を呈する病態でありそれぞれが重複した場合は、虚血性心疾患、脳血管疾患等の発症リスクが高く、内臓脂肪を減少させることでそれらの発症リスクの低減が図られるという概念で、内臓脂肪症候群ともいう。以下の内臓脂肪の蓄積に加えて、追加項目の3つのうち2つ以上該当する場合をメタボリックシンドローム該当者、追加項目3つのうち1つ該当する場合を予備群という。</p> <table border="1" data-bbox="396 893 1329 1197"> <tr> <td>必須項目</td> <td>内臓脂肪の蓄積 (内臓脂肪面積 男女ともに<math>\geq 100\text{cm}^2</math>に相当)</td> <td>腹囲 男性 85cm以上 女性 90cm以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">追加項目</td> <td>1. 脂質異常</td> <td>中性脂肪 150mg/dl以上または HDLコレステロール 40mg/dl未満</td> </tr> <tr> <td>2. 高血圧</td> <td>収縮期 (最大) 血圧 130mmHg以上または 拡張期 (最小) 血圧 85mmHg以上</td> </tr> <tr> <td>3. 高血糖</td> <td>空腹時血糖 110mg/dl以上</td> </tr> </table>	必須項目	内臓脂肪の蓄積 (内臓脂肪面積 男女ともに $\geq 100\text{cm}^2$ に相当)	腹囲 男性 85cm以上 女性 90cm以上	追加項目	1. 脂質異常	中性脂肪 150mg/dl以上または HDLコレステロール 40mg/dl未満	2. 高血圧	収縮期 (最大) 血圧 130mmHg以上または 拡張期 (最小) 血圧 85mmHg以上	3. 高血糖	空腹時血糖 110mg/dl以上
必須項目	内臓脂肪の蓄積 (内臓脂肪面積 男女ともに $\geq 100\text{cm}^2$ に相当)	腹囲 男性 85cm以上 女性 90cm以上									
追加項目	1. 脂質異常	中性脂肪 150mg/dl以上または HDLコレステロール 40mg/dl未満									
	2. 高血圧	収縮期 (最大) 血圧 130mmHg以上または 拡張期 (最小) 血圧 85mmHg以上									
	3. 高血糖	空腹時血糖 110mg/dl以上									
妄想性障害	妄想性障害は、一つまたは複数の誤った思いこみがあり、それが少なくとも1カ月間持続するのが特徴。一般に、成人期中期から後期にかけて発症する。妄想は奇異な内容のものではなく、後をつけられている、毒を盛られる、感染させられる、遠くから誰かに愛されている、配偶者や恋人に裏切られるなど、実生活でも起こり得るような状況を含んでいる。										
ら行											
レセプト	患者が受けた診療について、医療機関が保険者に請求する医療報酬の明細のこと。医科や歯科では診療報酬明細書、薬局では調剤報酬明細書ともいう。										
その他											
ABO因子不適合	胎児側の血液と母胎側の血液は混じり合わないようになっているが、何らかの原因により胎児血が母体側に紛れ込んでしまい、胎児の赤血球に対して母体の免疫反応が起こり、その赤血球を攻撃する抗体ができることにより起こるもの。抗体は胎盤を通過することができるため、胎児の赤血球を破壊し、その結果、新生児早期からの黄疸や貧血が出る。										
BMI	ボディマス指数の通称で、体重と身長の関係から算出する肥満度を表す体格指数。										

COPD(慢性閉塞性肺疾患)	慢性気管支炎や肺気腫など、気管支や肺胞に炎症・破壊が生じ、呼吸機能に異常を起こす疾患の総称。患者の90%は喫煙者で、たばこを吸う量の多い人ほど早く発症する。咳や痰(たん)、息切れなどの症状がある。
DPC	DPCとは従来の診療行為ごとの点数をもとに計算する「出来高払い方式」とは異なり、入院期間中に治療した病気の中で最も医療資源を投入した一疾患のみに厚生労働省が定めた1日当たりの定額の点数からなる包括評価部分(入院基本料、検査、投薬、注射、画像診断等)と、従来どおりの出来高評価部分(手術、胃カメラ、リハビリ等)を組み合わせる方式のこと。1日当たりの定額の点数は、「診断群分類」と呼ばれる区分ごとに、入院期間に応じて定められている。
eGFR(推算糸球体濾過値)	腎臓の機能を表す値として使用されており、血清クレアチニン値、年齢、性別から推算する。
HbA1c	(読み:ヘモグロビンエーワンシー)赤血球内の酸素を運ぶ役割がある「ヘモグロビン」というたんぱく質が、ブドウ糖と結合した物質のこと。HbA1cを調べると、過去1~2か月の血糖値が分かる。
HDL-コレステロール	善玉コレステロールといわれ、血液中の余分なコレステロールの回収や血管に沈着したコレステロールの除去する働きを持つ。
LDL-コレステロール	悪玉コレステロールといわれ、増えすぎると、血管に沈着し動脈硬化の原因となる。
PDCAサイクル	Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階をサイクルさせることにより事業を円滑に進めること。
S状結腸	大腸の主要部分である結腸の末端にあたる部分。腹部の左側にある下行結腸に続き、S字型にカーブしながら直腸へつながる。